安曇野市の埋蔵文化財第 28 集

令和３年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2023. 3

安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第 28 集

Annual Report of
Buried Cultural Property
in Azumino City
April, 2021 - March, 2022

令和３年度
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2023. 3
安曇野市教育委員会

表紙写真　追堀遺跡出土「道」墨書土器

裏表紙写真　追堀遺跡試掘調査地全景（西から）

例言

1　本書は、長野県安曇野市（ながのけんあづみのし）で令和３年度（2021 年４月１日～ 2022 年３月 31 日）に実施した埋蔵文化財保護事業の報告書である。

2　本書に掲載した調査は、安曇野市教育委員会が実施した。一部に令和３年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金を活用し、安曇野市が費用を負担した。

3　本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は斉藤雄太・土屋和章が担当し、堀久士が統括した。

4　本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。

5　本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

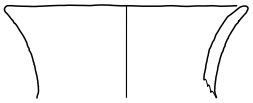
凡例

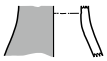
1　遺物の法量表示について、観察表中では次のように記載した。

口径等の「実／復」欄　　実：残存部分を計測した場合　　復：図上復元した場合

器高の「完／残」欄　　完：完形資料を計測した場合　　残：残存高を計測した場合

2　本書実測図で、遺物は次の基準で表現した。また、縮尺は各図に示した。

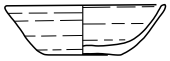




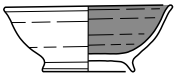
弥生土器赤彩　灰色（40％）

須恵器　断面黒

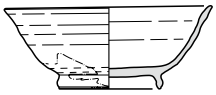
軟質須恵器　断面灰色（70％）



縄文土器・弥生土器・土師器
断面無地



黒色土器　灰色（60％）



施釉陶器　断面灰色（18％）

3　土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。

例　甕形土器：甕　　高坏形土器：高坏

4　土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。

5　本書では、平成 17 年（2005）10 月１日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「南安曇郡」、「豊科町」のように表記した。

6　本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（1/2,500）を基図とし、調製したものである。

7　文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。

教育委員会：教委　　編纂委員会：編纂委

8　本書で使用する古代の時期区分は、次の文献を参考にし、次ページの表に拠った。

小平和夫　1990　「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４―松本市内その１―総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書４　長野県埋蔵文化財センター　pp.97-158

松本市教育委員会　2017　『長野県松本市　三間沢川左岸遺跡―発掘調査報告書―』松本市文化財調査報告 No.226　松本市教育委員会

暦年代		中央道総論編 （小平 1990）	吉田川西遺跡 （原 1989）	三間沢川左岸遺跡 （松本市教委 2017）
AD700	7 世紀	1 期　畿内系暗文土器　飛鳥Ⅲ・Ⅳ		
	8 世紀	2 期　「美濃国」刻印須恵器	SB227 段階	
		3 期	SB1 段階	
		4 期		
800		5 期　萬年通寶・神功開寶	SB258 段階	
	9 世紀	6 期	SB184 段階	Ⅰ期　227 住段階 51 住段階
		7 期　灰釉陶器　黒笹 14 号窯式・光ヶ丘 1 号窯式	SB144 段階	Ⅱ期　288 住段階 103 住段階
		8 期　灰釉陶器　光ヶ丘 1 号窯式	SB111 段階	Ⅲ期　174 住段階 223 住段階
900	10 世紀	9 期　灰釉陶器　光ヶ丘 1 号窯式・大原 2 号窯式	SB114 段階	Ⅳ期　55 住段階 197 住段階
		10 期　灰釉陶器　大原 2 号窯式・虎渓山 1 号窯式	SB94 段階	Ⅴ期　138 段階 99 住段階
1000		11 期　灰釉陶器　虎渓山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB52 段階	Ⅵ期　277 住段階
	11 世紀	12 期　灰釉陶器　虎渓山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB84 段階	
		13 期　灰釉陶器　虎渓山 1 号窯式・丸石 2 号窯式	SB32 段階	
1100		14 期　灰釉陶器　丸石 2 号窯式・大原 10 号窯式	SB74 段階	
	12 世紀	15 期　灰釉・山茶碗　大原 10 号窯式・西坂 1 号窯式	SB31 段階	

小平 1990、松本市教委 2017 をもとに作成

目次

例言・凡例
目次・挿図目次・挿表目次
第１章　令和３年度埋蔵文化財保護事業 …… 1
　1　埋蔵文化財保護事業の概要 …… 1
第２章　試掘調査 …… 13
　1　真々部巾下遺跡 …… 13
　2　小瀬幅遺跡 …… 16
　3　明科遺跡群栄町遺跡 …… 21
　4　追堀遺跡 …… 24
　5　北才の神遺跡 …… 31
　6　穂高古墳群 B27 号墳 …… 36
　7　明科遺跡群栄町遺跡 …… 39
　8　明科遺跡群上郷遺跡 …… 44
　9　藤塚遺跡 …… 47
　10　ほうろく屋敷遺跡 …… 51
　11　明科遺跡群栄町遺跡 …… 53
　12　三枚橋遺跡 …… 55
　13　矢原五輪畑遺跡 …… 59
　14　一日市場郵便局南遺跡 …… 63
　15　明科遺跡群明科廃寺 …… 66
　16　矢原五輪畑遺跡 …… 75
　17　馬場街道遺跡 …… 79
第３章　工事立会 …… 82
　1　藤塚遺跡 …… 82
引用・参考文献 …… 84
調査報告書抄録

挿図目次

第 1 図　発掘調査等位置図（北部）・・・・・・・・・　2
第 2 図　発掘調査等位置図（南部）・・・・・・・・・　4
第 3 図　発掘調査等位置図（穂高駅周辺）・・・　6
第 4 図　発掘調査等位置図（明科駅周辺）・・・　7
第 5 図　真々部巾下遺跡試掘位置図・・・・・・・　13
第 6 図　真々部巾下遺跡試掘トレンチ配置図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
第 7 図　真々部巾下遺跡試掘土層概念図・・・　14
第 8 図　小瀬幅遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・　16
第 9 図　小瀬幅遺跡試掘トレンチ配置図・・・　17
第 10 図　小瀬幅遺跡試掘調査概要図・・・・・・　17
第 11 図　小瀬幅遺跡工事立会土層概念図・・　18
第 12 図　小瀬幅遺跡試掘出土遺物・・・・・・・・　18
第 13 図　小瀬幅遺跡試掘出土遺物写真・・・・　18
第 14 図　栄町遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　21
第 15 図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図・・・・　22
第 16 図　栄町遺跡試掘土層概念図・・・・・・・・　22
第 17 図　追堀遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　24
第 18 図　追堀遺跡試掘調査地点配置
及び土層概念図 ・・・・・・・・・・・・・・・　25
第 19 図　追堀遺跡試掘土層注記・・・・・・・・・・　26
第 20 図　追堀遺跡試掘出土遺物・・・・・・・・・・　27
第 21 図　追堀遺跡試掘出土遺物写真・・・・・・　28
第 22 図　北才の神遺跡試掘位置図・・・・・・・・　31
第 23 図　北才の神遺跡試掘トレンチ配置
及び土層図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
第 24 図　北才の神遺跡試掘土層注記・・・・・・　33
第 25 図　北才の神遺跡試掘出土遺物・・・・・・　34
第 26 図　北才の神遺跡試掘出土遺物写真・・　34
第 27 図　B27 号墳試掘位置図・・・・・・・・・・・・　36
第 28 図　B27 号墳試掘調査区全体図・・・・・・　37
第 29 図　栄町遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　39
第 30 図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図・・・・　40
第 31 図　栄町遺跡試掘調査概要図・・・・・・・・　40
第 32 図　栄町遺跡試掘出土遺物・・・・・・・・・・　41
第 33 図　栄町遺跡試掘出土遺物写真・・・・・・　41
第 34 図　上郷遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　44
第 35 図　上郷遺跡試掘トレンチ配置図・・・・　45
第 36 図　上郷遺跡試掘土層概念図・・・・・・・・　45
第 37 図　藤塚遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　47
第 38 図　藤塚遺跡試掘トレンチ配置及び土層図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
第 39 図　藤塚遺跡試掘土層注記・・・・・・・・・・　49
第 40 図　ほうろく屋敷遺跡試掘位置図・・・・　51
第 41 図　ほうろく屋敷遺跡試掘トレンチ配置図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
第 42 図　ほうろく屋敷遺跡試掘土層概念図　52
第 43 図　栄町遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・・・　53
第 44 図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図・・・・　54
第 45 図　栄町遺跡試掘土層概念図・・・・・・・・　54
第 46 図　三枚橋遺跡試掘位置図・・・・・・・・・・　55
第 47 図　三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図・・　56
第 48 図　三枚橋遺跡試掘土層概念図・・・・・・　56
第 49 図　三枚橋遺跡工事立会土層概念図・・　57
第 50 図　三枚橋遺跡試掘・工事立会出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　57
第 51 図　矢原五輪畑遺跡試掘位置図・・・・・・　59
第 52 図　矢原五輪畑遺跡試掘トレンチ配置図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　60
第 53 図　矢原五輪畑遺跡試掘土層概念図・・　60
第 54 図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物・・・・　61
第 55 図　一日市場郵便局南遺跡試掘位置図　63
第 56 図　一日市場郵便局南遺跡
試掘トレンチ配置図 ・・・・・・・・・・・　64
第 57 図　一日市場郵便局南遺跡試掘土層図　64
第 58 図　明科廃寺試掘位置図・・・・・・・・・・・・　66
第 59 図　明科廃寺試掘トレンチ配置図・・・・　67
第 60 図　明科廃寺試掘土層図・・・・・・・・・・・・　67
第 61 図　明科廃寺試掘出土遺物 1（土器類）　68
第 62 図　明科廃寺試掘出土遺物 2（丸瓦）・　70
第 63 図　明科廃寺試掘出土遺物 3
（軒平瓦、平瓦）・・・・・・・・・・・・・・・　71
第 64 図　明科廃寺試掘出土遺物写真 1（土器類）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72
第 65 図　明科廃寺試掘出土遺物写真 2
（丸瓦、軒平瓦、平瓦）・・・・・・・・・・　73

第 66 図　矢原五輪畑遺跡試掘位置図・・・・・・　75
第 67 図　矢原五輪畑遺跡試掘調査区配置図　76
第 68 図　矢原五輪畑遺跡試掘概要図・・・・・・　76
第 69 図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物・・・・　77
第 70 図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物写真　77
第 71 図　馬場街道遺跡試掘位置図・・・・・・・・　79
第 72 図　馬場街道遺跡試掘調査区配置図・・　80
第 73 図　馬場街道遺跡試掘土層概念図・・・・　80
第 74 図　藤塚遺跡工事立会位置図・・・・・・・・　82
第 75 図　藤塚遺跡工事立会土層概念図・・・・　83

挿表目次

第 1 表　発掘調査等一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
第 2 表　小瀬幅遺跡試掘出土遺物観察表・・・　19
第 3 表　追堀遺跡試掘出土遺物観察表・・・・・　29
第 4 表　北才の神遺跡試掘出土遺物観察表・　34
第 5 表　栄町遺跡試掘出土遺物観察表・・・・・　42
第 6 表　三枚橋遺跡試掘・工事立会
出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・　58
第 7 表　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　61
第 8 表　明科廃寺試掘出土遺物観察表 1
（土器類）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72
第 9 表　明科廃寺試掘出土遺物観察表 2
（丸瓦、軒平瓦、平瓦）・・・・・・・・・・・・　73
第 10 表　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　77

第１章　令和３年度埋蔵文化財保護事業

1　埋蔵文化財保護事業の概要

(1) 事務局の体制

令和３年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局　安曇野市教育委員会教育部　文化課　文化財保護係

文化課長　　山下泰永　　文化財保護係長　　中谷高志

文化財保護係　　土屋和章、斉藤雄太、佐藤眞弓、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美

(2) 地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年（2005）10月１日に豊科町（とよしなまち）、穂高町（ほたかまち）、三郷村（みさとむら）、堀金村（ほりがねむら）、明科町（あかしなまち）の５町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市（おおまちし）、松川村（まつかわむら）、池田町（いけだまち）、生坂村（いくさかむら）、筑北村（ちくほくむら）、南は松本市（まつもとし）に隣接する。地形的には松本盆地の中程にあり、西は飛騨山脈（ひださんみゃく）、東は筑摩山地（ちくまさんち）に囲まれる。

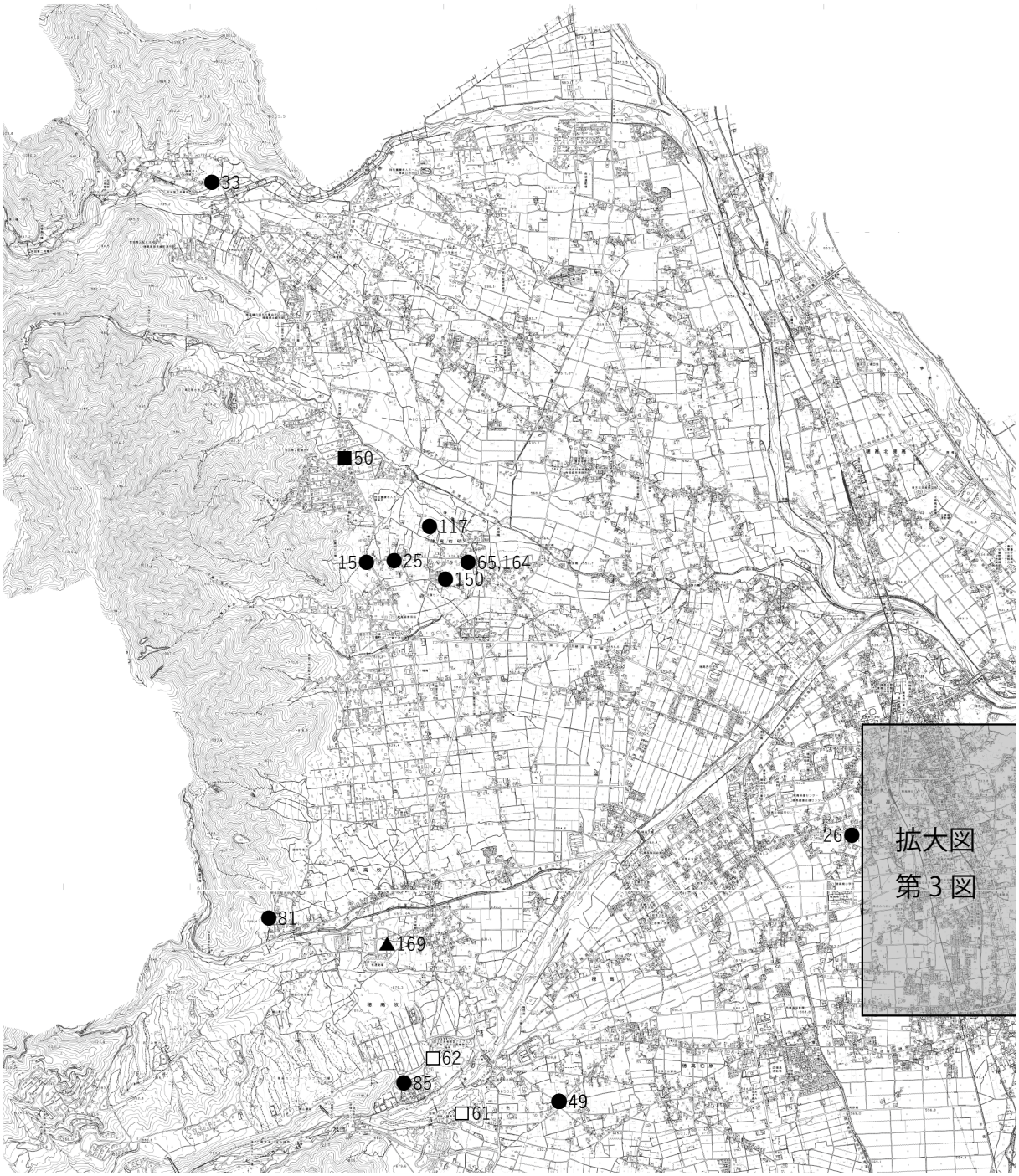
安曇野市内に所在する遺跡は、現在398か所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から近代にわたる。縄文時代の遺跡は、飛騨山脈山麓及び犀川（さいがわ）以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期後半の遺跡数が多い。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇央及び扇端へ移る。生業形態の変化によって集落の立地が変化した可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓と明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科（あかしな）遺跡群明科廃寺（あかしなはいじ）と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢（とよしなたざわ）の山間部一帯から隣接する松本市域にかけては須恵器窯群が築かれた。

(3) 令和３年度の概要

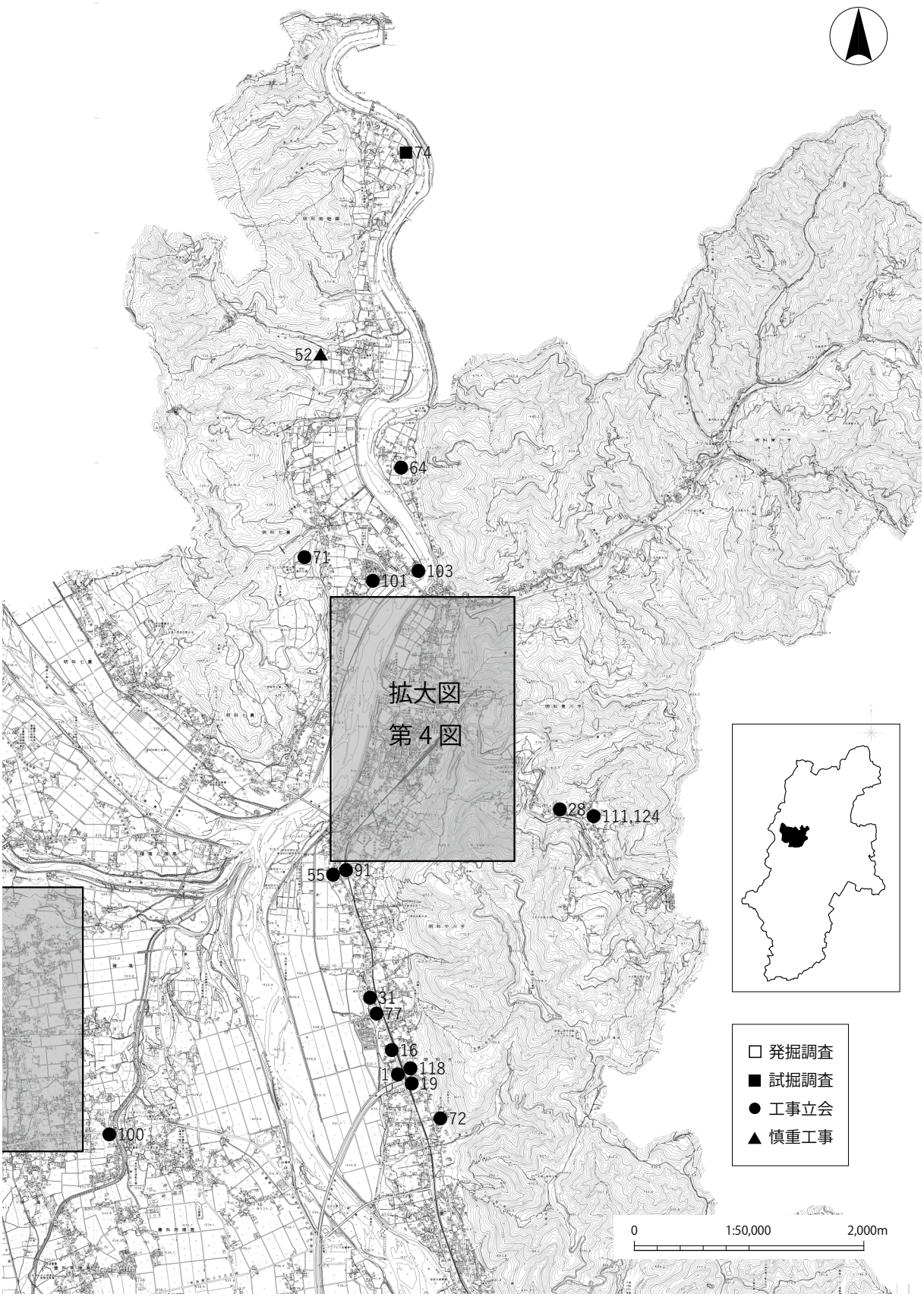
令和３年度の安曇野市内における発掘調査等の総数は全173件[1]であった（第１表）。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計171件で、内訳は発掘調査０件、試掘17件、工事立会119件、慎重工事35件である。それぞれの位置を第１～４図に示す。試掘調査の詳細は第２章に、工事立会の詳細は第３章に記載した。

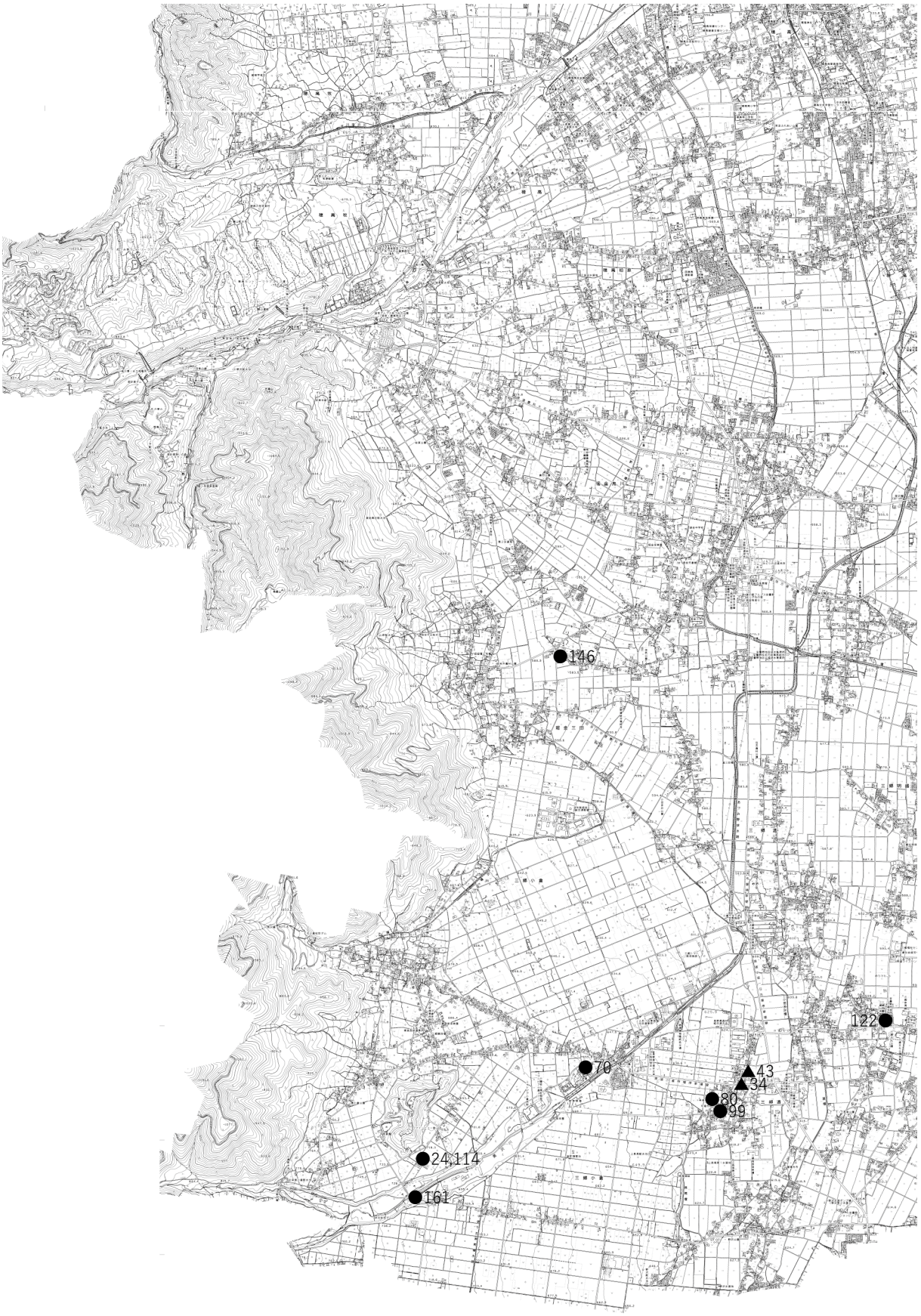
また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業のほかに、國學院大學文学部考古学研究室が穂高古墳群F9号墳・E6号墳の学術発掘調査を実施している（第１表□61・62）。

1 調査件数は、文化財保護法第92・93条の規定に基づく届出、同第94条の規定に基づく通知、同第99条の規定に基づく試掘等をそれぞれ１件とした。このため、調査１件につき複数回の工事立会を実施した件もある。

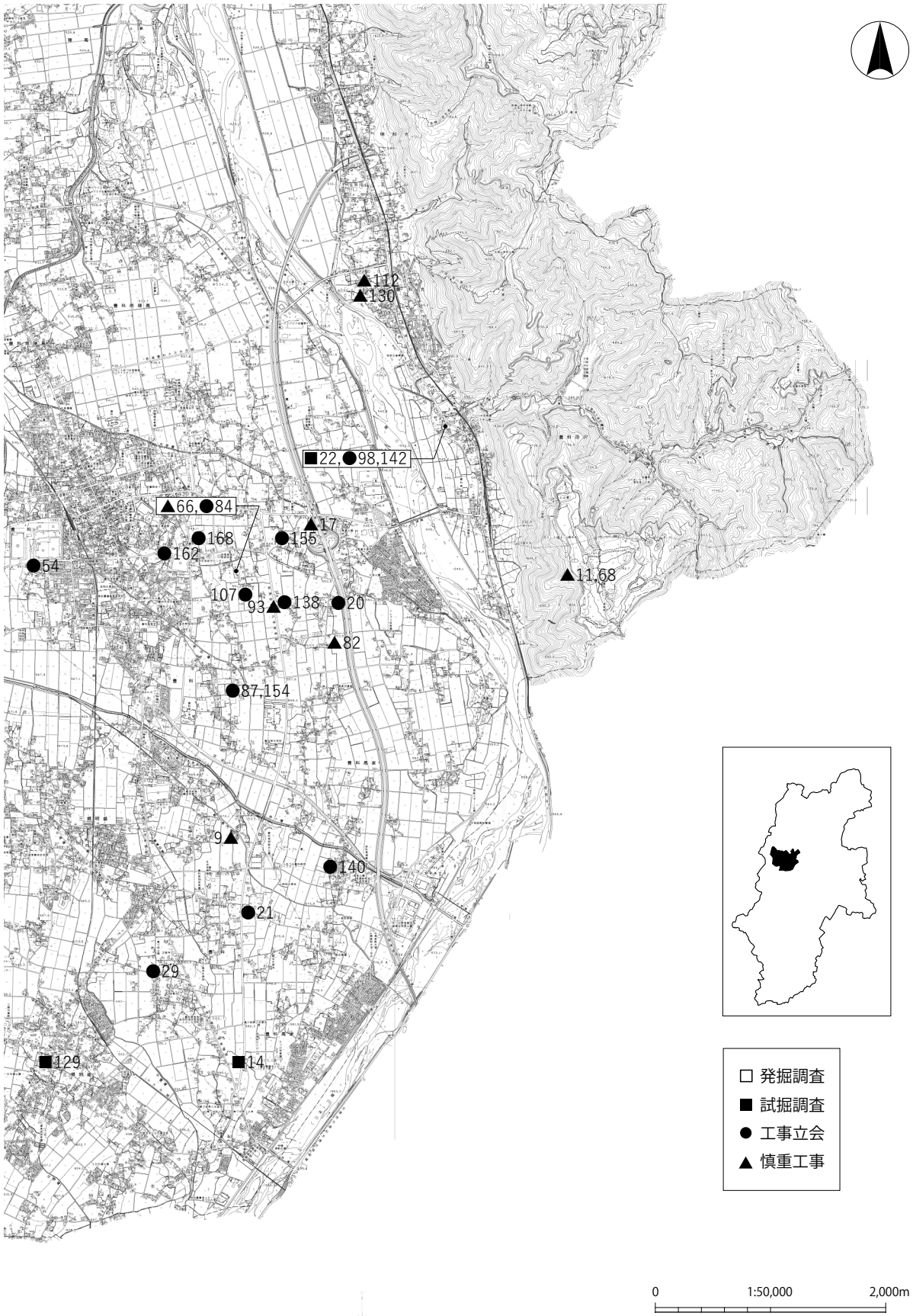


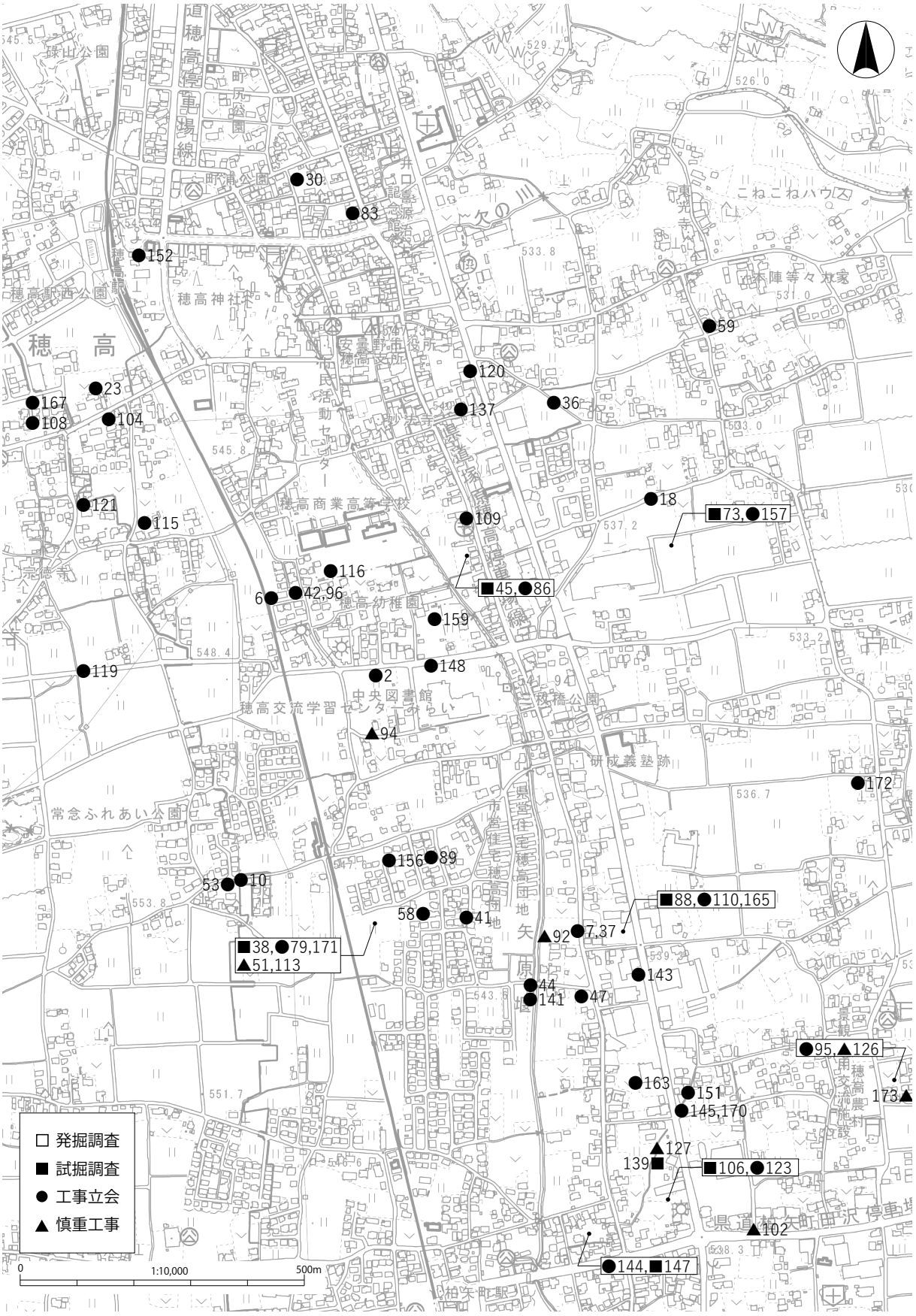
第1図　発掘調査等位置図（北部）


74
52
64
71
103
101
拡大図
第４図
28
111,124
55
91
31
77
16
118
19
72
100
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m

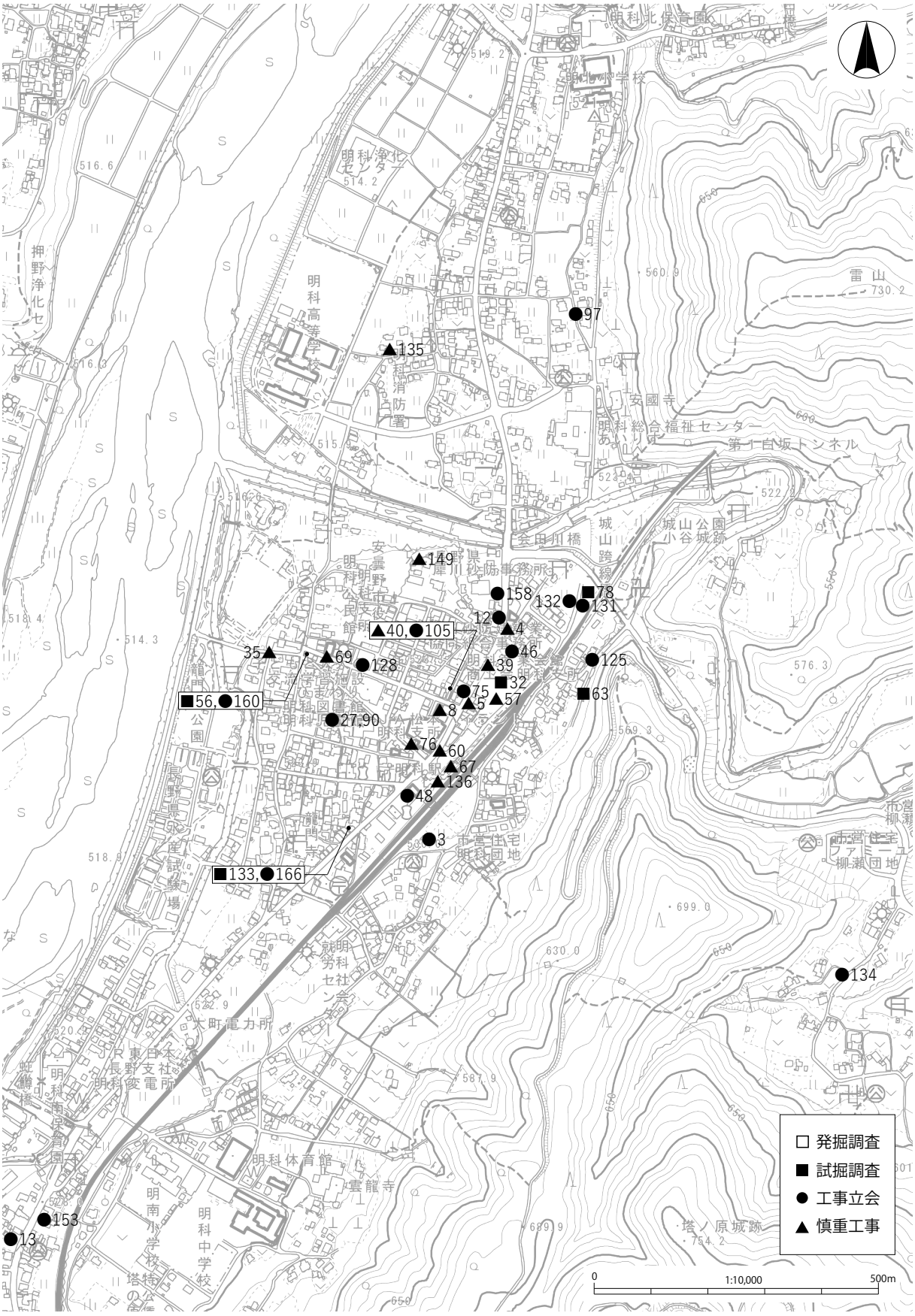


第2図　発掘調査等位置図（南部）


▲112
▲130
■22,●98,142
▲66,●84
▲17
●168
●155
●162
●54
▲11,68
107●
93▲
●138
●20
▲82
●87,154
9▲
●140
●21
●29
■129
■14
□ 発掘調査
■ 試掘調査
● 工事立会
▲ 慎重工事
0
1:50,000
2,000m



第3図　発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第4図　発掘調査等位置図（明科駅周辺）

第１表　発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
●1	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 355 番 1	個人住宅	20210401	20210401	市教委
●2	工事立会	藤塚遺跡	穂高 6764 番 14 外 1 筆	個人住宅	20210402	20210402	市教委
●3	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手 3672 番	その他開発	20210405	20210405	市教委
▲4	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4182 番 1 外 3 筆	ガス・水道・電気等	20210405	20210405	市教委
▲5	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3733 番 8	ガス・水道・電気等	20210405	20210405	市教委
●6	工事立会	南原遺跡	穂高 6886 番 1	個人住宅	20210406	20210406	市教委
●7	工事立会	八ツ口遺跡ほか	穂高柏原 960 番 4 外 2 筆	ガス・水道・電気等	20210413	20210413	市教委
▲8	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6818 番 28	ガス・水道・電気等	20210413	20210413	市教委
▲9	慎重工事	日光寺跡	豊科 708 番 3	その他の建物	20210413	20210413	市教委
●10	工事立会	長者池遺跡	穂高柏原 1723 番 1	ガス・水道・電気等	20210414	20210414	市教委
▲11	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢 8141 番 473 外	その他開発	20210421	20210421	市教委
●12	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4180 番 1 外	その他の建物	20210422	20210422	市教委
●13	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手 2511 番の一部外	個人住宅	20210426	20210426	市教委
■14	試掘	真々部巾下遺跡	豊科高家 5455 番外 8 筆	工場	20210511	20210511	市教委
●15	工事立会	青原寺大門遺跡	穂高有明 3497 番 2	その他開発	20210517	20210517	市教委
●16	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 209 番 1 外 1 筆	その他開発	20210517	20210517	市教委
▲17	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科南穂高 205 番 27 外 2 筆	道路	20210517	20210517	市教委
●18	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2793 番先	道路	20210519	20210519	市教委
●19	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 433 番 1 外 3 筆	個人住宅	20201112	20210520	市教委
●20	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家 3944 番 1	個人住宅	20210521	20210521	市教委
●21	工事立会	鳥羽遺跡	豊科 116 番 1 の一部	個人住宅	20210524	20210524	市教委
■22	試掘	小瀬幅遺跡	豊科田沢 4821 番 1	宅地造成	20210525	20210525	市教委
●23	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6571 番外 8 筆	その他の建物	20210525	20210525	市教委
●24	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 6412 番 1 外 3 筆	工場	20210428	20210528	市教委
●25	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 3045 番 1 外 3 筆	個人住宅	20210531	20210531	市教委
●26	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高 6438 番先	ガス・水道・電気等	20210610	20210610	市教委
●27	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手 3795 番 1 外 1 筆	その他の建物	20210611	20210611	市教委
●28	工事立会	平上ノ段館ほか	明科中川手 6756 番 1 先外	ガス・水道・電気等	20210615	20210615	市教委
●29	工事立会	十王堂跡	豊科高家 6136 番 3 先	ガス・水道・電気等	20210615	20210615	市教委
●30	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高 6024 番 8	個人住宅	20210617	20210617	市教委
●31	工事立会	給然寺古屋敷遺跡	明科中川手 122 番	その他の建物	20210621	20210621	市教委
■32	試掘	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3733 番 8 外 37 筆	店舗	20210621	20210621	市教委
●33	工事立会	宮城遺跡	穂高有明 7274 番 1	その他開発	20210624	20210624	市教委
▲34	慎重工事	上総屋敷遺跡	三郷温 2058 番 21 付近	道路	20210625	20210625	市教委
▲35	慎重工事	明科遺跡群本町遺跡ほか	明科中川手 3929 番 1 付近	道路	20210625	20210625	市教委
●36	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2557 番 1 先	ガス・水道・電気等	20210609	20210628	市教委
●37	工事立会	三枚橋遺跡	穂高柏原 962 番 5	ガス・水道・電気等	20210628	20210628	市教委
■38	試掘	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 1 外 1 筆	宅地造成	20210629	20210629	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
▲ 39	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3989 番 13 外 3 筆	ガス・水道・電気等	20210701	20210701	市教委
▲ 40	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6833 番 18	ガス・水道・電気等	20210705	20210705	市教委
● 41	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1668 番 12	その他の建物	20210712	20210712	市教委
● 42	工事立会	南原遺跡	穂高 6886 番 5	宅地造成	20210712	20210712	市教委
▲ 43	慎重工事	上総屋敷遺跡	三郷温 2059 番 1	個人住宅	20210713	20210713	市教委
● 44	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1583 番 15 外 1 筆	個人住宅	20210714	20210714	市教委
■ 45	試掘	北才の神遺跡	穂高 6714 番 1 外 3 筆	宅地造成	20210715	20210715	市教委
● 46	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4006 番 1 先	ガス・水道・電気等	20210716	20210716	市教委
● 47	工事立会	八ツ口遺跡	穂高柏原 954 番 1 の一部	個人住宅	20210716	20210716	市教委
● 48	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手 3760 番 5 外 1 筆	個人住宅兼工場又は店舗	20210716	20210716	市教委
● 49	工事立会	塚原遺跡	穂高柏原 4042 番 6	その他開発	20210720	20210720	市教委
■ 50	試掘	穂高古墳群 B27 号墳	穂高有明 2186 番 81	保存目的	20210611	20210727	市教委
▲ 51	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 2 の一部	個人住宅	20210729	20210729	市教委
▲ 52	慎重工事	寺裏遺跡	明科南陸郷 923 番 1 先	道路	20210729	20210729	市教委
● 53	工事立会	長者池遺跡	穂高柏原 1722 番	個人住宅	20210730	20210730	市教委
● 54	工事立会	柳原遺跡	豊科 2130 番 12 外 2 筆	個人住宅	20210802	20210802	市教委
● 55	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手 2133 番	その他の建物	20210803	20210803	市教委
■ 56	試掘	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3934 番 1 外 4 筆	道路	20210804	20210804	市教委
▲ 57	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3994 番 5	ガス・水道・電気等	20210804	20210804	市教委
● 58	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1672 番 11 外 1 筆	個人住宅	20210810	20210810	市教委
● 59	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2928 番 1 外 1 筆	個人住宅	20210811	20210811	市教委
▲ 60	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3989 番 5 外	その他の建物	20210812	20210812	市教委
□ 61	発掘調査	穂高古墳群 F9 号墳	穂高柏原 3653 番	学術研究	20210805	20210814	國學院大學
□ 62	発掘調査	穂高古墳群 E6 号墳	穂高牧 29 番 1	学術研究	20210805	20210814	國學院大學
■ 63	試掘	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手 4064 番 1 外 21 筆	その他開発	20210819	20210819	市教委
● 64	工事立会	上生野遺跡	明科東川手 13811 番 3 外 1 筆	個人住宅	20210820	20210820	市教委
● 65	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 3650 番 17	個人住宅	20210820	20210820	市教委
▲ 66	慎重工事	梶海渡遺跡	豊科 3796 番 6	個人住宅	20210820	20210820	市教委
▲ 67	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3704 番 3 のうち	その他の建物	20210820	20210820	市教委
▲ 68	慎重工事	上ノ山窯跡群ほか	豊科田沢 8141 番 472 外	その他開発	20210823	20210823	市教委
▲ 69	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3934 番 9 先外 2 筆	ガス・水道・電気等	20210823	20210823	市教委
● 70	工事立会	東小倉遺跡	三郷小倉 6065 番 1 外 1 筆	個人住宅	20210824	20210824	市教委
● 71	工事立会	宮原遺跡	明科七貴 7957 番 2 付近	ガス・水道・電気等	20210825	20210825	市教委
● 72	工事立会	光遺跡群中条遺跡	明科光 701 番 2 先	道路	20210907	20210907	市教委
■ 73	試掘	藤塚遺跡	穂高 2390 番 3 の内外 33 筆	店舗	20210909	20210910	市教委
■ 74	試掘	ほうろく屋敷遺跡	明科南陸郷 3326 番 1	その他の建物	20210910	20210910	市教委
● 75	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6833 番 5 外 2 筆	個人住宅	20210910	20210910	市教委
▲ 76	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手 3739 番 3 先	道路	20210914	20210914	市教委
● 77	工事立会	給然寺古屋敷遺跡	明科中川手 181 番 15	個人住宅	20210922	20210922	市教委

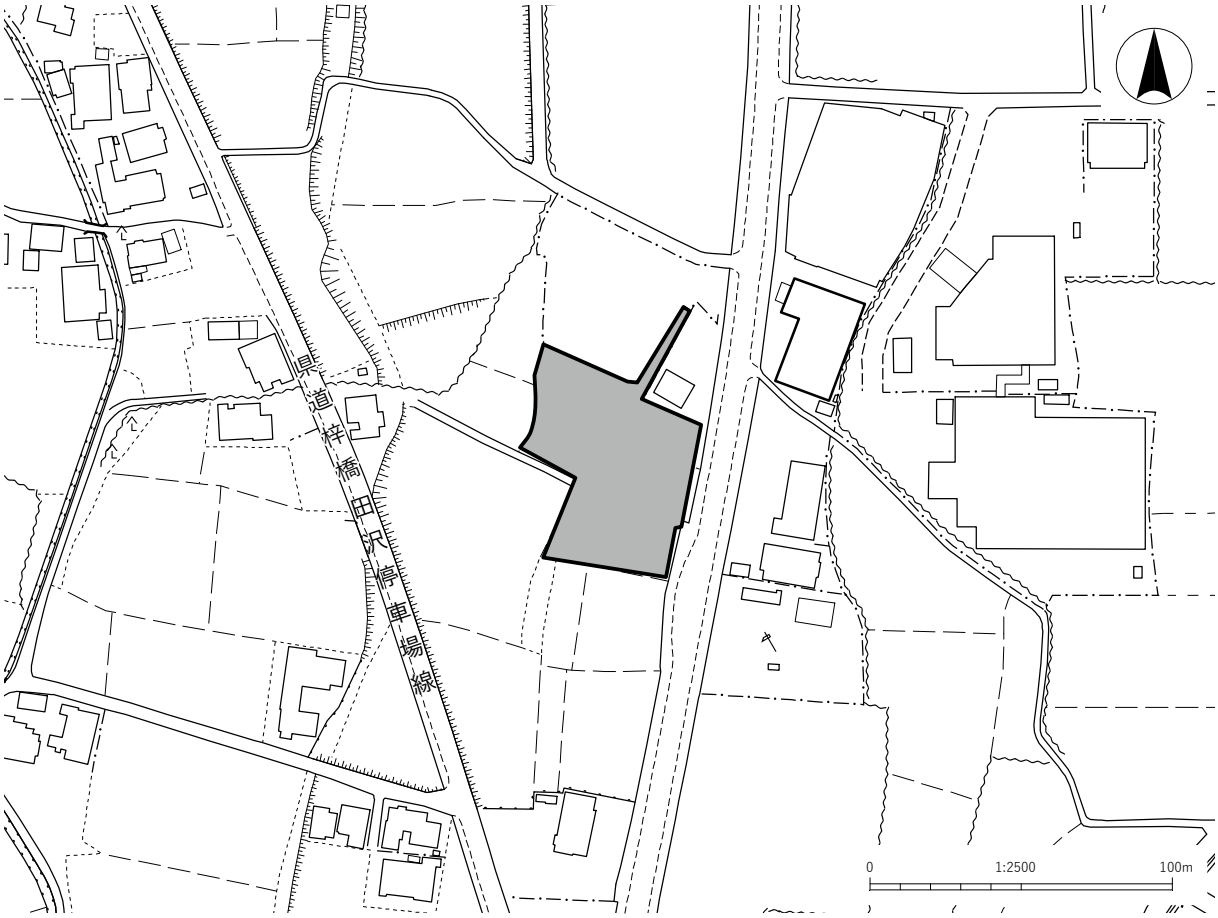
No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
■ 78	試掘	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4111 番 1 外 4 筆	その他開発	20210922	20210922	市教委
● 79	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 1 外	ガス・水道・電気等	20210922	20210922	市教委
● 80	工事立会	平福寺付近古墳	三郷温 4188 番 1	その他の建物	20210924	20210924	市教委
● 81	工事立会	山崎遺跡	穂高牧 1752 番外 1 筆	個人住宅	20210927	20210927	市教委
▲ 82	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家 3969 番 15	個人住宅	20210927	20210927	市教委
● 83	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高 6035 番 2 外 2 筆	個人住宅兼工場又は店舗	20210928	20210928	市教委
● 84	工事立会	梶海渡遺跡	豊科 3796 番 1	個人住宅	20210930	20210930	市教委
● 85	工事立会	堰下遺跡	穂高牧 2304 番 4	個人住宅	20210930	20210930	市教委
● 86	工事立会	北才の神遺跡	穂高 6714 番 1 外 3 筆	宅地造成	20211005	20211005	市教委
● 87	工事立会	吉野町館跡	豊科 2997 番 1	個人住宅	20211005	20211005	市教委
■ 88	試掘	三枚橋遺跡	穂高 1451 番 8 外 1 筆	工場	20211011	20211011	市教委
● 89	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1675 番 9 外 2 筆	個人住宅	20211011	20211011	市教委
● 90	工事立会	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手 3795 番 1 の一部	個人住宅	20211013	20211013	市教委
● 91	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手 2250 番 2 外 2 筆	その他の建物	20211013	20211013	市教委
▲ 92	慎重工事	三枚橋遺跡	穂高柏原 963 番 7	個人住宅	20211015	20211015	市教委
▲ 93	慎重工事	荒井遺跡	豊科 3728 番 2	道路	20211018	20211018	市教委
▲ 94	慎重工事	藤塚遺跡	穂高 6761 番 4	ガス・水道・電気等	20211018	20211018	市教委
● 95	工事立会	矢原宮地遺跡	穂高 1052 番 8 外 1 筆	個人住宅	20211019	20211019	市教委
● 96	工事立会	南原遺跡	穂高 6886 番 5	ガス・水道・電気等	20211022	20211022	市教委
● 97	工事立会	潮遺跡群新屋遺跡	明科東川手 901 番 2	ガス・水道・電気等	20211028	20211028	市教委
● 98	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢 4821 番 5 先	ガス・水道・電気等	20211028	20211028	市教委
● 99	工事立会	川岸最氏宅地遺跡	三郷温 4367 番 2	その他の建物	20211007	20211029	市教委
● 100	工事立会	正島遺跡ほか	穂高 732 番付近	その他開発	20211101	20211101	市教委
● 101	工事立会	みどりケ丘遺跡	明科七貴 7222 番 12	個人住宅	20211101	20211101	市教委
▲ 102	慎重工事	馬場街道遺跡	穂高 805 番 6	ガス・水道・電気等	20211101	20211101	市教委
● 103	工事立会	伊勢宮遺跡	明科七貴 8939 番 1 外	道路	20211104	20211104	市教委
● 104	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6553 番 4	個人住宅	20211014	20211110	市教委
● 105	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6818 番 22 の一部	個人住宅	20211111	20211111	市教委
■ 106	試掘	矢原五輪畑遺跡	穂高 985 番 1 外 3 筆	その他の建物	20211116	20211116	市教委
● 107	工事立会	荒井遺跡	豊科 3813 番	個人住宅	20211117	20211117	市教委
● 108	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6472 番 1	ガス・水道・電気等	20211118	20211118	市教委
● 109	工事立会	北才の神遺跡	穂高 6703 番	ガス・水道・電気等	20211118	20211118	市教委
● 110	工事立会	三枚橋遺跡	穂高 1451 番 8 外 1 筆	工場	20211104	20211122	市教委
● 111	工事立会	中沢古屋敷	明科中川手 6482 番 1	道路	20211122	20211122	市教委
▲ 112	慎重工事	光遺跡	豊科光 1596 番 1 先	道路	20211125	20211125	市教委
▲ 113	慎重工事	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 7	個人住宅	20211126	20211126	市教委
● 114	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 6412 番 1 外 3 筆	その他の建物	20211129	20211129	市教委
● 115	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6610 番 5 外 1 筆	個人住宅	20211202	20211202	市教委
● 116	工事立会	藤塚遺跡	穂高 6839 番	その他開発	20211203	20211203	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
● 117	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 2963 番先	ガス・水道・電気等	20211207	20211207	市教委
● 118	工事立会	光遺跡群北村遺跡	明科光 355 番 5 先外	ガス・水道・電気等	20211209	20211209	市教委
● 119	工事立会	南原遺跡	穂高 9333 番先	ガス・水道・電気等	20211208	20211210	市教委
● 120	工事立会	穂高神社境内遺跡	穂高 2577 番 2	店舗	20211213	20211213	市教委
● 121	工事立会	宮脇遺跡	穂高 6524 番 1 の一部	個人住宅	20211214	20211214	市教委
● 122	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛 4810 番 1	その他の建物	20211215	20211215	市教委
● 123	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高 985 番 1 外 3 筆	店舗	20211216	20211216	市教委
● 124	工事立会	中沢古屋敷	明科中川手 6468 番 1 先	ガス・水道・電気等	20211117	20211220	市教委
● 125	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4091 番 1 外	ガス・水道・電気等	20211221	20211221	市教委
▲ 126	慎重工事	矢原宮地遺跡	穂高 1052 番 8 外 1 筆	その他の建物	20220104	20220104	市教委
▲ 127	慎重工事	矢原五輪畑遺跡	穂高 984 番 5	ガス・水道・電気等	20220104	20220104	市教委
● 128	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 6812 番 5	その他の建物	20220112	20220112	市教委
■ 129	試掘	一日市場郵便局南遺跡	三郷明盛 1666 番 1 外 8 筆	宅地造成	20220113	20220113	市教委
▲ 130	慎重工事	光遺跡	豊科光 1492 番 1 外 1 筆	宅地造成	20220113	20220113	市教委
● 131	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4111 番 1	ガス・水道・電気等	20220117	20220117	市教委
● 132	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 4120 番 1	ガス・水道・電気等	20220117	20220117	市教委
■ 133	試掘	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3773 番 3	個人住宅	20220119	20220119	市教委
● 134	工事立会	吐中遺跡	明科中川手 5302 番 1	その他開発	20220119	20220119	市教委
▲ 135	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手 313 番 1	その他開発	20220120	20220120	市教委
▲ 136	慎重工事	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手 3704 番 3 のうち	その他開発	20220120	20220120	市教委
● 137	工事立会	北才の神遺跡	穂高 2566 番 16 外 1 筆	ガス・水道・電気等	20220124	20220124	市教委
● 138	工事立会	上手木戸遺跡	豊科 3703 番 3 付近	ガス・水道・電気等	20220126	20220126	市教委
■ 139	試掘	矢原五輪畑遺跡	穂高 984 番 5 外 1 筆	宅地造成	20220126	20220126	市教委
● 140	工事立会	宮前遺跡	豊科高家 752 番 2	個人住宅	20220127	20220127	市教委
● 141	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1583 番 16 外 1 筆	個人住宅	20220131	20220131	市教委
● 142	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢 4821 番 7	個人住宅	20220131	20220131	市教委
● 143	工事立会	八ツ口遺跡	穂高 1376 番	その他の建物	20220201	20220201	市教委
● 144	工事立会	馬場街道遺跡	穂高 907 番 4 外 4 筆	宅地造成	20211220	20220203	市教委
● 145	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高 1014 番 2	個人住宅	20220203	20220203	市教委
● 146	工事立会	そり表遺跡	堀金三田 999 番 4	ガス・水道・電気等	20220204	20220204	市教委
■ 147	試掘	馬場街道遺跡	穂高柏原 907 番 4 外 4 筆	宅地造成	20220207	20220207	市教委
● 148	工事立会	藤塚遺跡	穂高 6765 番 2	その他の建物	20220214	20220214	市教委
▲ 149	慎重工事	明科遺跡群古殿屋敷	明科中川手 4235 番	その他の建物	20220214	20220214	市教委
● 150	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 2991 番 44	個人住宅	20220216	20220216	市教委
● 151	工事立会	矢原権現池遺跡	穂高 996 番 3	ガス・水道・電気等	20220221	20220221	市教委
● 152	工事立会	宮脇遺跡	穂高 5950 番 2	ガス・水道・電気等	20220221	20220221	市教委
● 153	工事立会	町屋敷遺跡	明科中川手 2717 番 2 先外	ガス・水道・電気等	20220222	20220222	市教委
● 154	工事立会	吉野町館跡	豊科 2997 番 1	ガス・水道・電気等	20220222	20220222	市教委
● 155	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高 6839 番 3	ガス・水道・電気等	20220222	20220222	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日 _ 自	調査日 _ 至	調査主体
● 156	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1675 番 27 の一部	個人住宅	20220222	20220222	市教委
● 157	工事立会	藤塚遺跡	穂高 2390 番 3 の内外 33 筆	店舗	20211101	20220225	市教委
● 158	工事立会	明科遺跡群県町遺跡ほか	明科中川手　外	道路	20220228	20220228	市教委
● 159	工事立会	藤塚遺跡	穂高 6802 番	その他開発	20220301	20220301	市教委
● 160	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手 3934 番 10 付近	道路	20220302	20220302	市教委
● 161	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉 6011 番 8 外 2 筆	道路	20220303	20220303	市教委
● 162	工事立会	成相遺跡	豊科 4377 番 1	個人住宅	20220228	20220307	市教委
● 163	工事立会	矢原権現池遺跡	穂高 1006 番付近	河川	20220307	20220307	市教委
● 164	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明 3650 番 17	個人住宅	20220311	20220311	市教委
● 165	工事立会	三枚橋遺跡	穂高 1451 番 8 外 1 筆	工場	20211210	20220315	市教委
● 166	工事立会	明科遺跡群明科廃寺	明科中川手 3773 番 3	個人住宅	20220316	20220316	市教委
● 167	工事立会	宮脇遺跡	穂高 10105 番 10	個人住宅	20220318	20220318	市教委
● 168	工事立会	姥ヶ池遺跡	豊科 4192 番 1 外 1 筆	ガス・水道・電気等	20220323	20220323	市教委
▲ 169	慎重工事	新林遺跡	穂高牧 1904 番 2	その他開発	20220323	20220323	市教委
● 170	工事立会	矢原五輪畑遺跡	穂高 1014 番 2	個人住宅	20220324	20220324	市教委
● 171	工事立会	追堀遺跡	穂高柏原 1645 番 13	個人住宅	20220330	20220330	市教委
● 172	工事立会	三枚橋遺跡	穂高 1565 番 7	個人住宅	20220330	20220330	市教委
▲ 173	慎重工事	矢原宮地遺跡	穂高 1049 番 9	個人住宅	20220330	20220330	市教委

第２章　試掘調査

１　真々部巾下遺跡（第１表■14）



第5図　真々部巾下遺跡試掘位置図

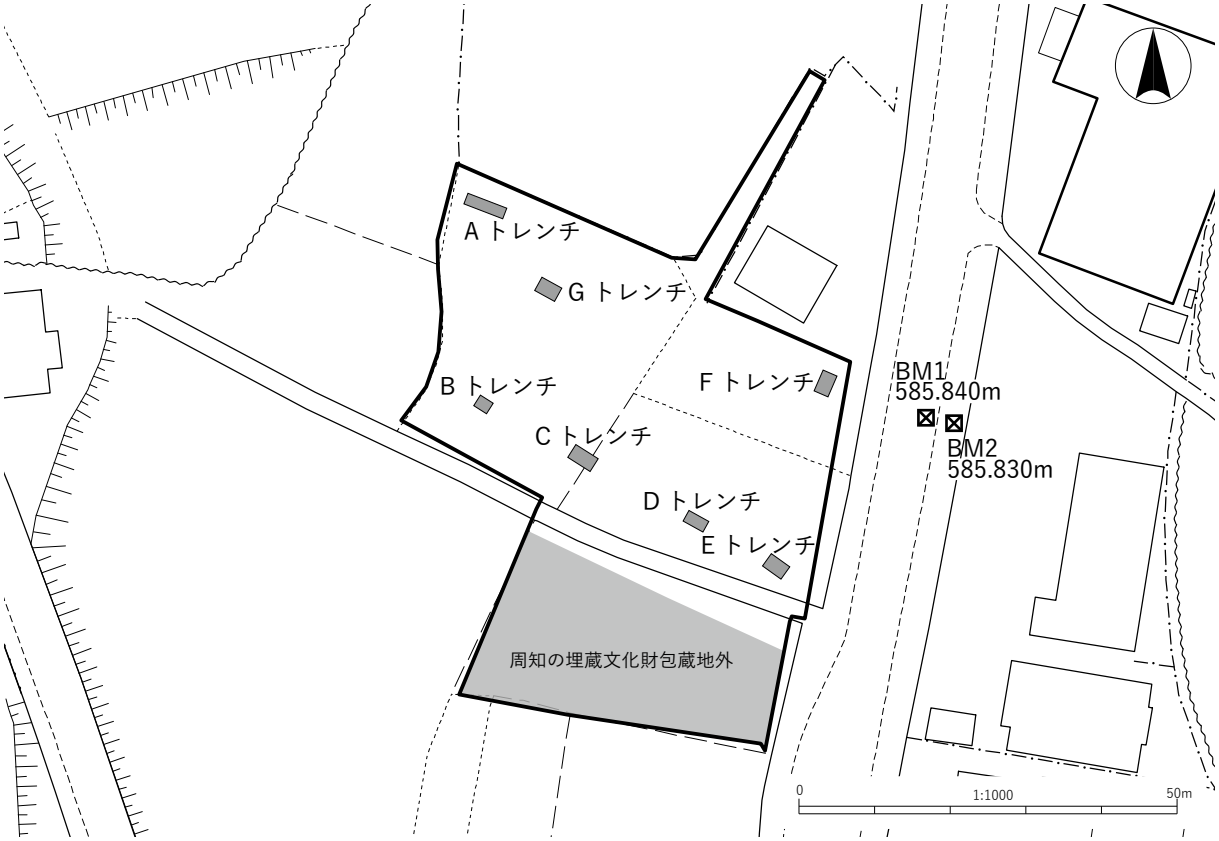
所在地	安曇野市豊科高家 5455 番外８筆	調査面積	40㎡
調査期間	令和３年（2021）５月 11 日	調査契機	工場
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

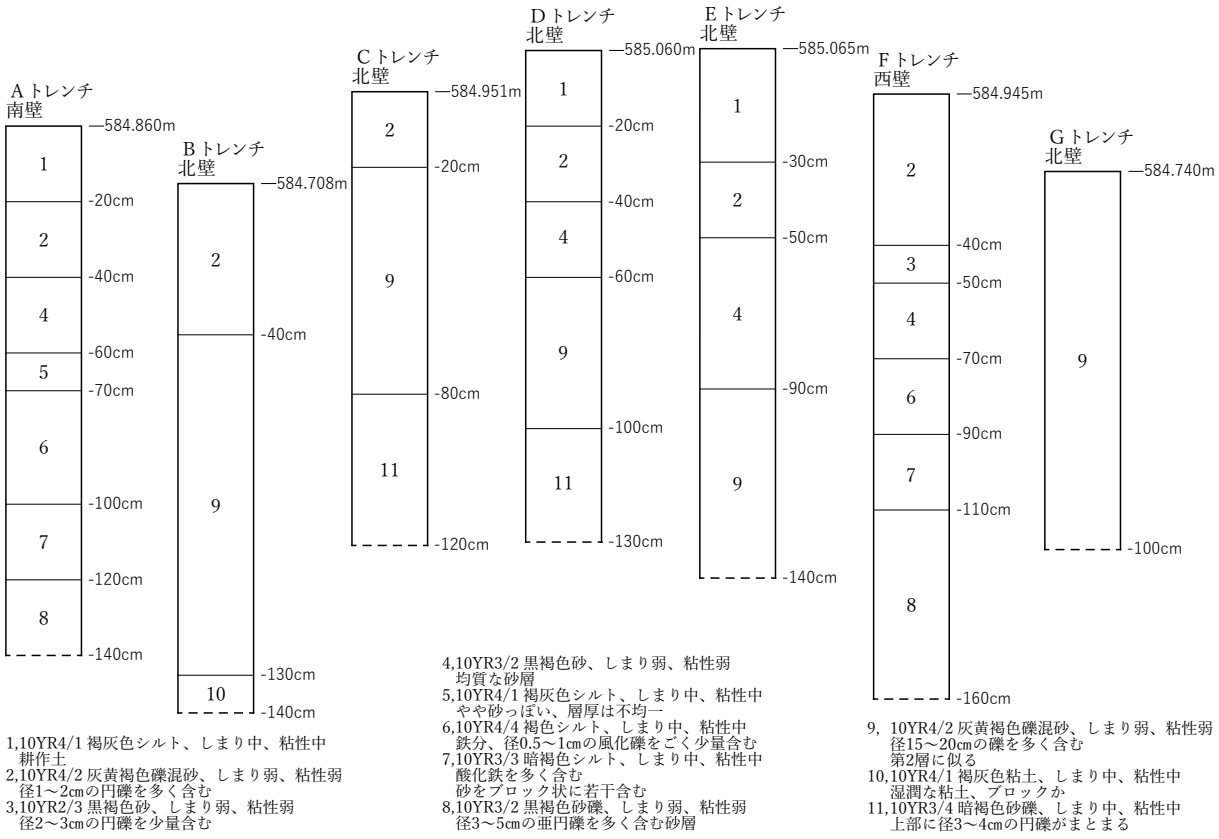
真々部巾下（まままべはばした）遺跡は、梓川（あずさがわ）左岸の氾濫原に所在する平安時代の散布地である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回、工場建設に際し７か所のトレンチ（Ａ～Ｇトレンチ）を設定し、本調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。調査の結果、調査区内北側のＡ・Ｆトレンチの第５～７層でシルトの堆積を確認した。これらの層を精査したが、遺構・遺物は存在していなかった。また、第５～７層以外の堆積は砂又は砂礫で遺構・遺物は存在していなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

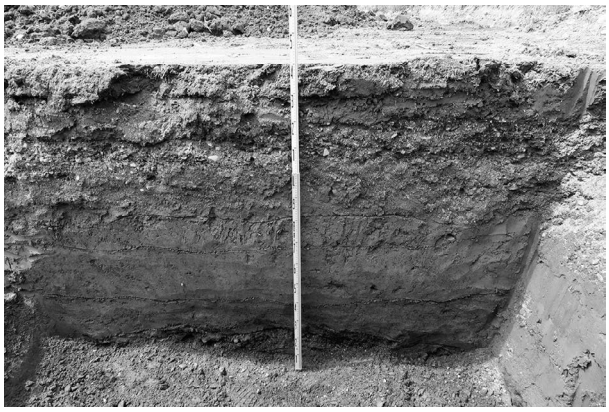


第6図　真々部巾下遺跡試掘トレンチ配置図



第7図　真々部巾下遺跡試掘土層概念図

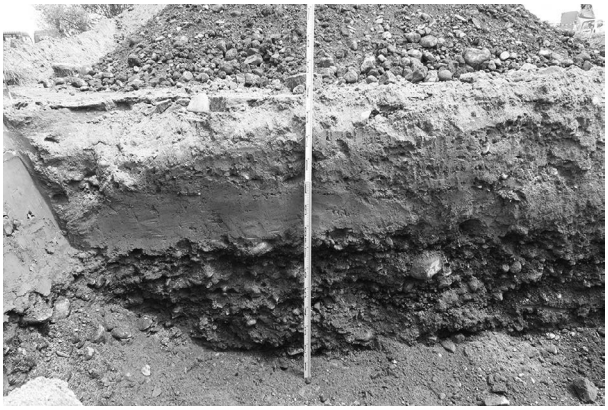
１　調査地全景（北西から）



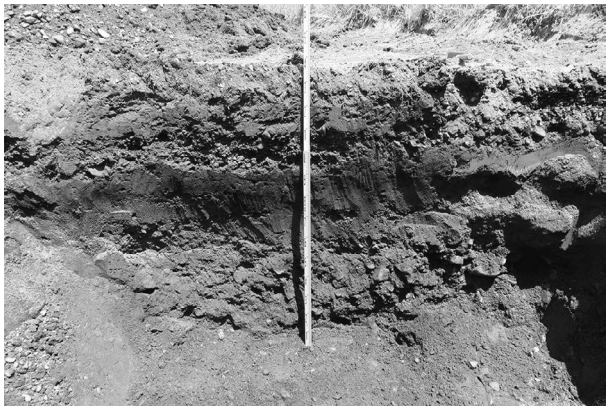
２　Ａトレンチ南壁

３　Ｂトレンチ北壁

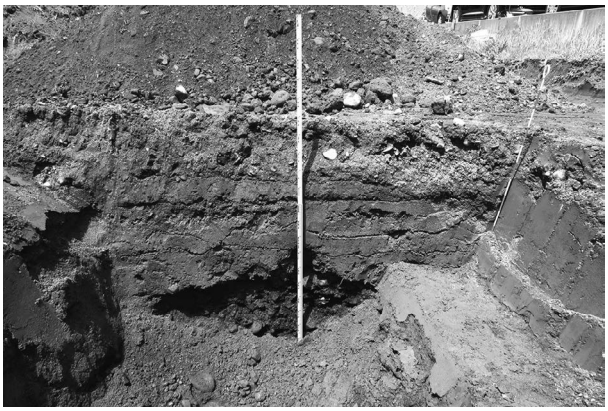
４　Ｃトレンチ北壁



５　Ｄトレンチ北壁



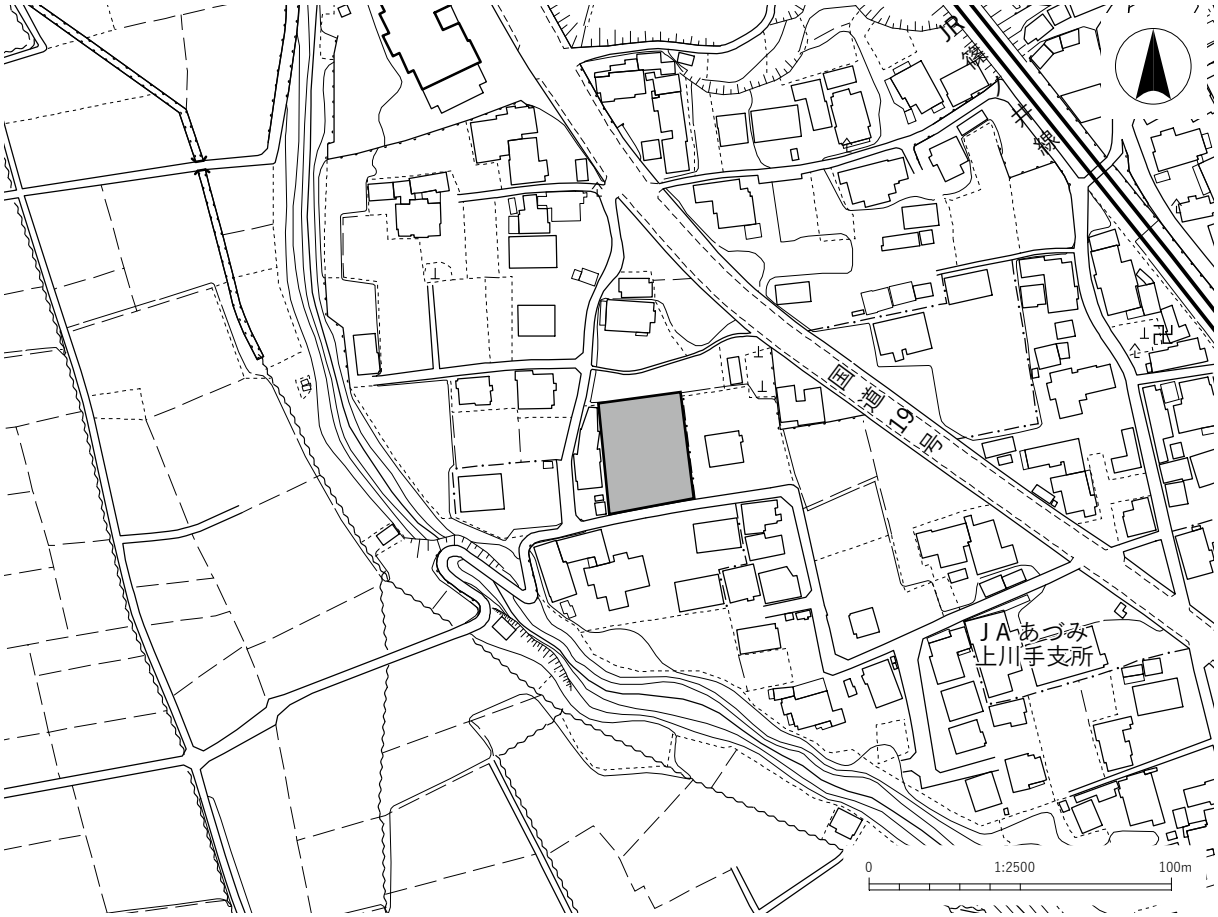
６　Ｅトレンチ北壁



７　Ｆトレンチ西壁

８　Ｇトレンチ北壁

２　小瀬幅遺跡（第１表■ 22・● 142）



第8図　小瀬幅遺跡試掘位置図

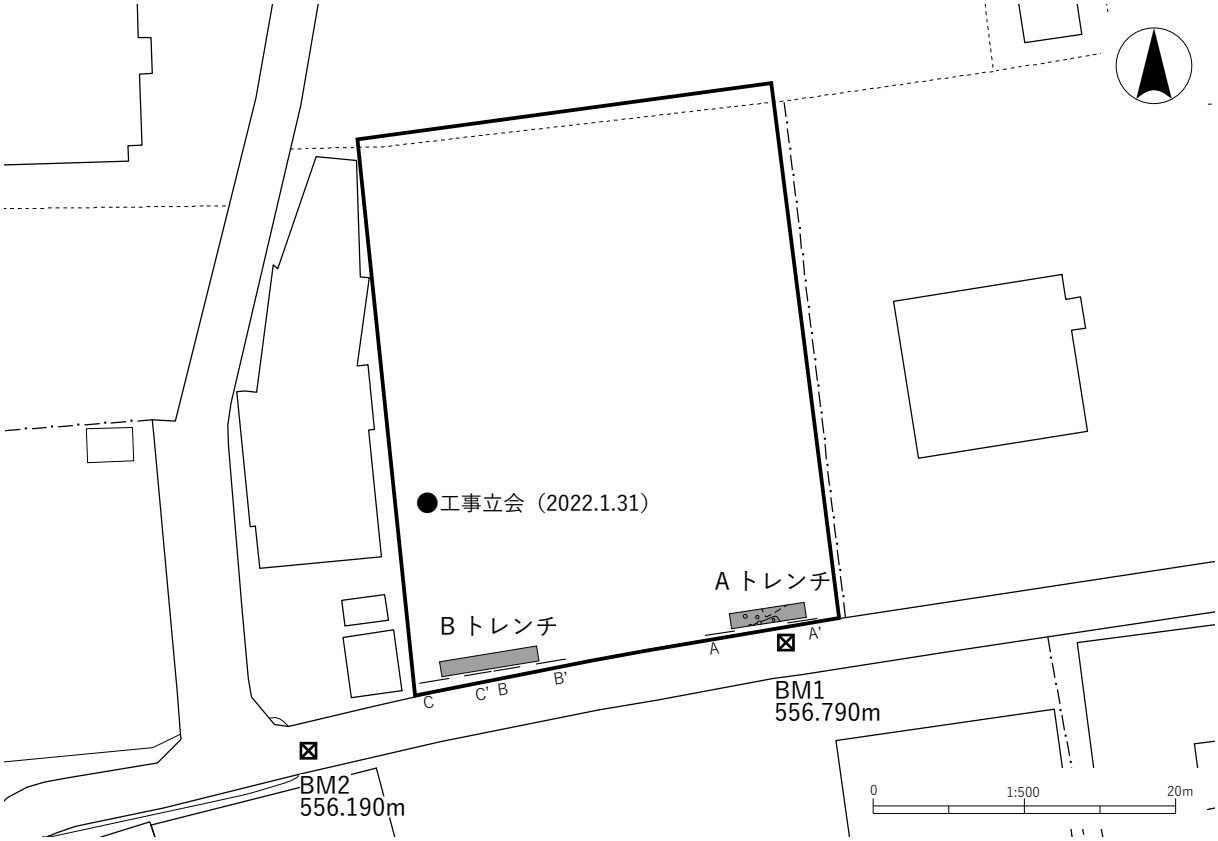
所在地	安曇野市豊科田沢 4821 番１外１筆	調査面積	11㎡
調査期間	令和３年（2021）５月 25 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

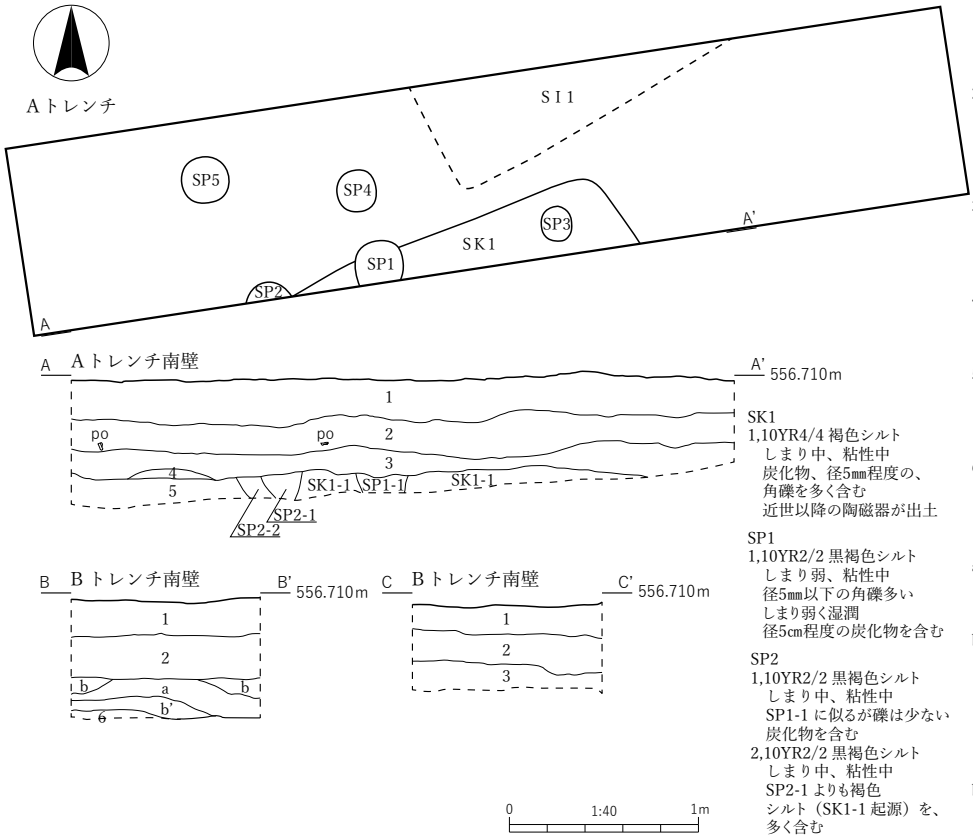
小瀬幅（こせはば）遺跡は、犀川（さいがわ）右岸の河岸段丘上に広がる弥生・平安時代の散布地である。この遺跡では、平成 29 年度に小規模な発掘調査を実施したほか、開発事業に際して実施している試掘及び工事立会で遺跡の概要が判明しつつある。

今回は宅地造成に際し、砕石層設置位置に２か所のトレンチ（Ａ～Ｂトレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。施工深度である 50cm までの掘削で、時期不明の土坑及びピットを検出したほか、これらの上位にある遺物包含層から弥生土器、須恵器、土師器の小破片が少量出土した。また、掘削底面で竪穴建物跡の可能性の高い遺構（SI1）の輪郭を検出した。上記の結果から、工事で影響を受ける深度が 50cm までであり、これより深い深度の遺構は現状で保存されるため、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

また、令和４年（2022）１月 31 日には、個人住宅建設に際し工事立会を実施し、造成土下のシルトが土器小片を包含することを確認した。



第9図　小瀬幅遺跡試掘トレンチ配置図



1, 表土、耕作土
2,10YR3/3 暗褐色シルト
しまり中、粘性中
上部に酸化鉄濃集
径5㎜程度の炭化物を、
若干含む
径5㎜以下の礫を少量含む
3,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
径5～10㎜の、
角礫（もろい砂岩）を若干含む
炭化物を少量含む
4,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
第３層と同じシルト
焼土、炭化物を多く含む
5,10YR2/3 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
径5㎜程度の角礫多い
炭化物を若干含む
SK1 はこの層を掘り込む
6,10YR3/3 暗褐色粘土
しまり中、粘性強
砂礫含まず、粘性の強い粘土
炭化物粒混入、土器を含む

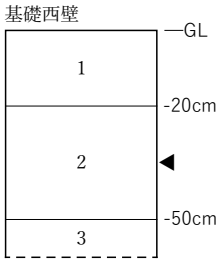
SK1
1,10YR4/4 褐色シルト
しまり中、粘性中
炭化物、径5㎜程度の、
角礫を多く含む
近世以降の陶磁器が出土

SP1
1,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり弱、粘性中
径5㎜以下の角礫多い
しまり弱く湿潤
径5㎝程度の炭化物を含む

SP2
1,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
SP1-1 に似るが礫は少ない
炭化物を含む
2,10YR2/2 黒褐色シルト
しまり中、粘性中
SP2-1 よりも褐色
シルト（SK1-1 起源）を、
多く含む

a ,10YR3/3
黄褐色粘土ブロック主体層
しまり強、粘性中
10YR7/6 明褐色粘土混入
b ,10YR4/4 黄褐色粘土
しまり弱、粘性中
第２層に黄褐色粘土ブロック、
少量混入
a、b 層は、黄褐色ブロックの、
混入する第３層に対応
下層の粘土が上部に、
ブロック状にかためられた層
b',10YR4/4 黄褐色粘土
しまり弱、粘性中
黄褐色粘土ブロック 50%混入

第10図　小瀬幅遺跡試掘調査概要図



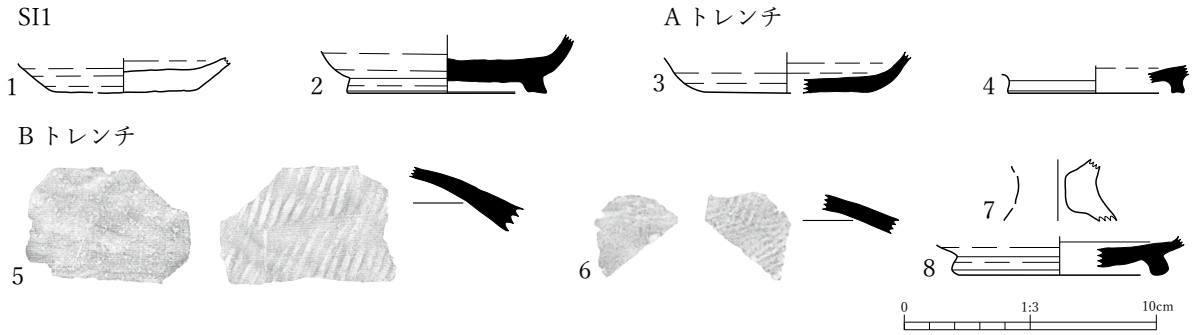
基礎西壁
1, 造成土
2,10YR3/3 暗褐色シルト
　しまり強、粘性中
　造成土混入
　摩耗した土器片及び炭化物粒を含む
3,10YR4/4 褐色粘土
　しまり強、粘性中
　黄褐色粘土ブロックを含む
　摩耗した土器片及び炭化物粒を含む

※◀は遺物確認位置

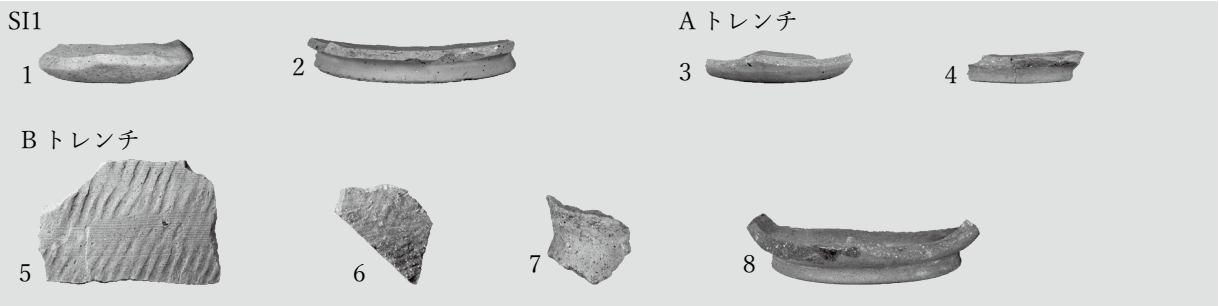
第11図　小瀬幅遺跡工事立会土層概念図

（2）遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年５月27日	３文第601号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年６月７日	３教文第20-25号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年１月20日	３文第2404号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年１月25日	３教文第24-16号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第12図　小瀬幅遺跡試掘出土遺物



第13図　小瀬幅遺跡試掘出土遺物写真

第２表　小瀬幅遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ａトレンチ SI1	検出面	土師器	坏Ａ	体部下半～底部	不明	—	5.8	完	1.4	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り＋工具ナデ	
2	Ａトレンチ SI1	検出面	須恵器	坏Ｂ	体部下半～底部	不明	—	8.6	復	1.5	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り＋回転ヘラケズリ	
3	Ａトレンチ	第 3-4 層	須恵器	坏Ａ	体部下半～底部	不明	—	6.4	復	1.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
4	Ａトレンチ	第 3-4 層	須恵器	坏Ｂ	体部下半～底部	不明	—	7.0	復	1.1	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ？	
5	Ｂトレンチ	第 2-3 層	須恵器	甕	体部上半	不明	—	不明	—	2.5	残	タタキ＋横ナデ	ナデ	不明	
6	Ｂトレンチ	第 2-3 層	須恵器	甕	体部上半	不明	—	不明	—	1.5	残	タタキ	ナデ	不明	
7	Ｂトレンチ	第６層	土師器	小型器台	受部と脚部の接合部	不明	—	不明	—	2.4	残	ナデ＋ミガキ	ナデ	不明	
8	Ｂトレンチ	第６層	須恵器	坏Ｂ	体部下半～底部	不明	—	7.9	完	2.3	残	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り＋周囲ナデ	

試掘で出土した遺物８点を資料化した。

１～２は、Ａトレンチ底面（深さ 50cm）で検出した竪穴建物跡の可能性の高い遺構（SI1）からの出土遺物である。１は、土師器坏Ａの底部で、外面は赤褐色、内面は灰褐色を呈す。胎土には、雲母、チャート、石英、長石などが目立つ。２は、須恵器坏Ｂの底部で、内外面ともに灰褐色を呈し、胎土に亜炭を含む。底部は回転糸切り後に回転ヘラケズリを施している。

３～４は、Ａトレンチ出土遺物である。３は須恵器坏Ａの底部で、外面は赤褐色、内面は乳灰赤褐色を呈する。底部切り離しは、回転糸切りである。４は、須恵器坏Ｂの底部である。内外面ともに暗赤茶褐色を帯び、緻密な胎土で、細かい礫を含む。

５～８は、Ｂトレンチ出土遺物である。５・６は、須恵器甕の体部上半である。いずれも外面はタタキ、内面はナデで同心円状の当具痕はない。７は、古墳時代前期の小型器台である。内外面ともに赤褐色で、長石、石英などを多く含む。８は、須恵器坏Ｂの底部である。内外面ともに暗茶褐色で、長石などの白く細かい礫を多く含む。底部調整は、静止糸切りの後で周囲にナデを施している。

1　調査地遠景（南西から）

2　調査地全景（上が北）

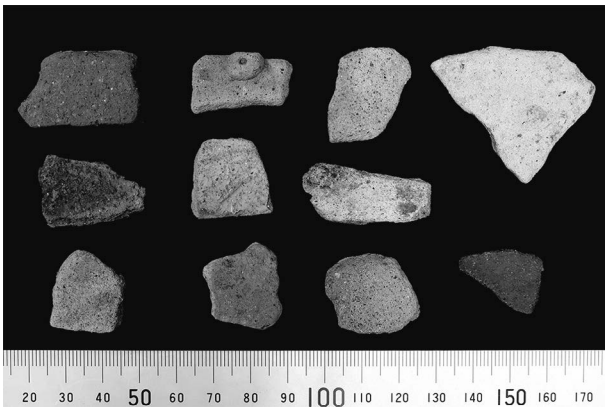
3　トレンチ配置（上が北）

4　Ａトレンチ完掘（東から）

5　Ａトレンチ南壁（Ａ側）

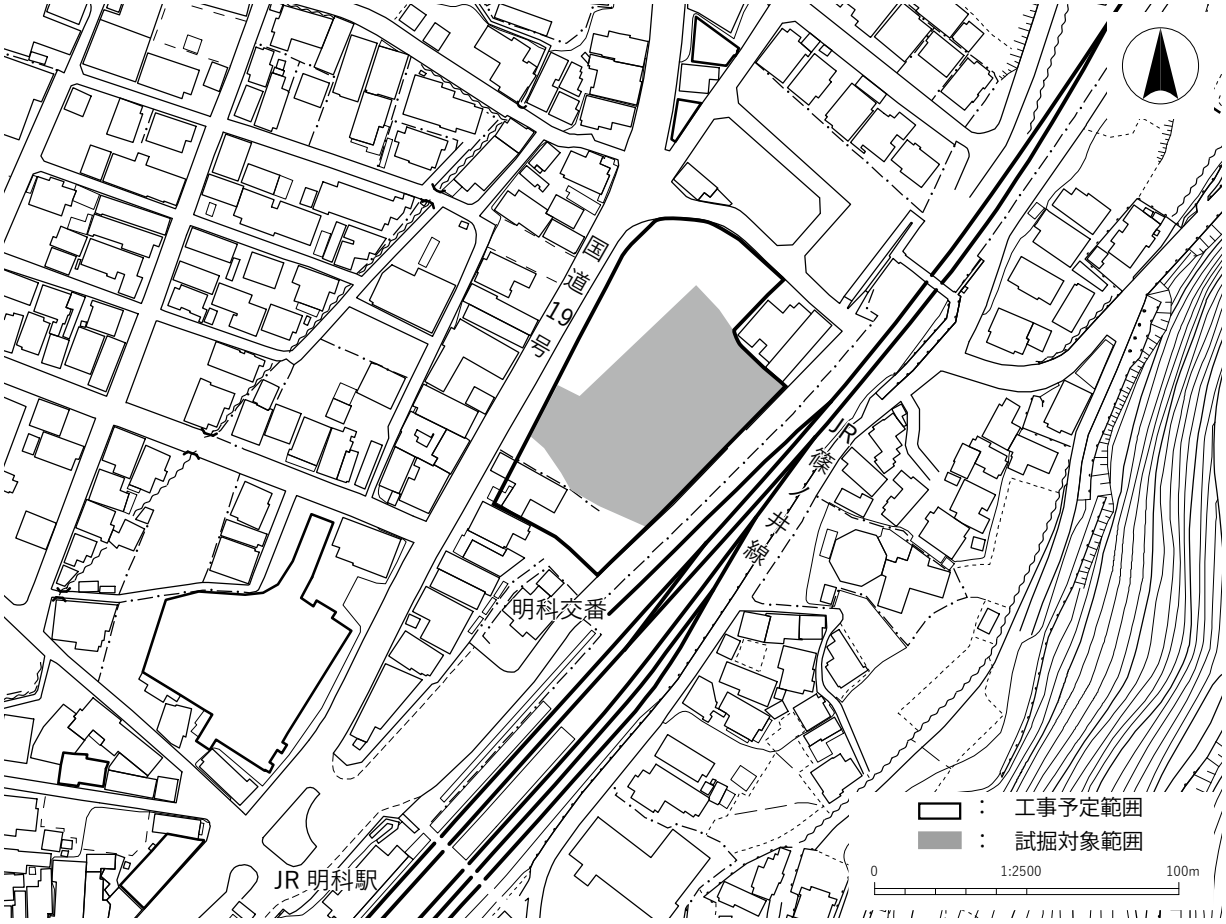
6　Ｂトレンチ完掘（東から）

7　Ｂトレンチ南壁（C-C’）



8　出土遺物

３　明科遺跡群栄町遺跡（第１表■ 32）



第14図　栄町遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手 3733 番 8 外 37 筆	調査面積	18㎡
調査期間	令和 3 年（2021）6 月 21 日	調査契機	店舗
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

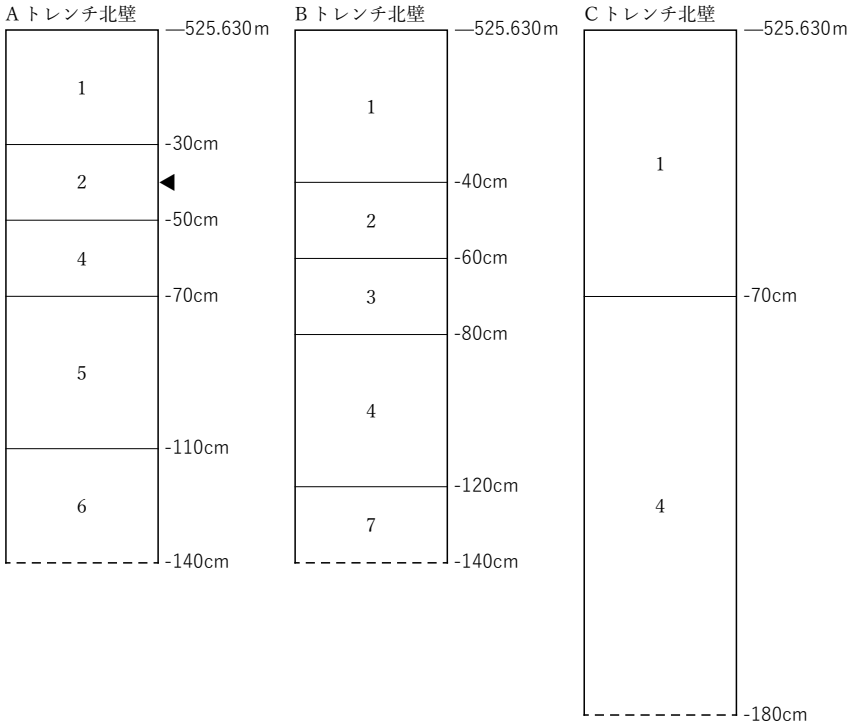
(1) 概要

明科遺跡群栄町遺跡（以下、「栄町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに 4 次にわたる発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡の様子が明らかになりつつある（安曇野市教委 2014）。

今回は、店舗建設に先立って計画地に 3 か所のトレンチ（A ～ C トレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。深度 1.4 ～ 1.8m まで調査した結果、B トレンチに存在する第 3 層でシルトが堆積していた。第 3 層は焼土が主体であり、近隣の既存調査結果から近代以降と推定できる。また、A トレンチに存在する第 5 層は粘土で、少量の炭化物が包含されていた。B トレンチの最下位では、粘土である第 7 層を確認した。第 7 層は第 5 層と色調は異なるが、同一層である可能性がある。A トレンチ第 2 層に二次堆積の土師器小片が混入していた以外は、いずれの層にも遺構・遺物は存在していなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

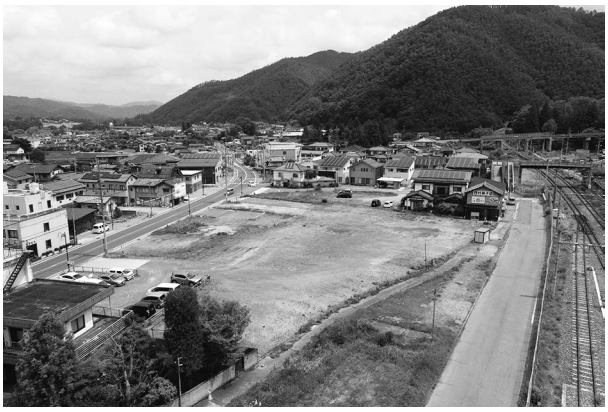
第15図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図



1,表土、撹乱(近代以降)
2,10YR3/4暗褐色粘土
　しまり中、粘性中
　黄褐色土粒をブロック状に含む
3,10YR2/4暗褐色シルト
　しまり中、粘性中
　焼土層
4,10YR4/3にぶい黄褐色シルト混礫
　しまり弱、粘性弱
　径5～20㎝の角礫が主体
　上部に黒色バンドあり
5,10YR3/1黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物を少量含む
　径3～5㎝の円礫をごく少量含む
6,10YR4/1褐灰色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　透水層
　径10～15㎝の円礫が多い
7,10YR5/4にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　第5層と同一の粘土か
　(色調は、異なる)
　均質な粘土層

※◀は遺物確認位置

第16図　栄町遺跡試掘土層概念図



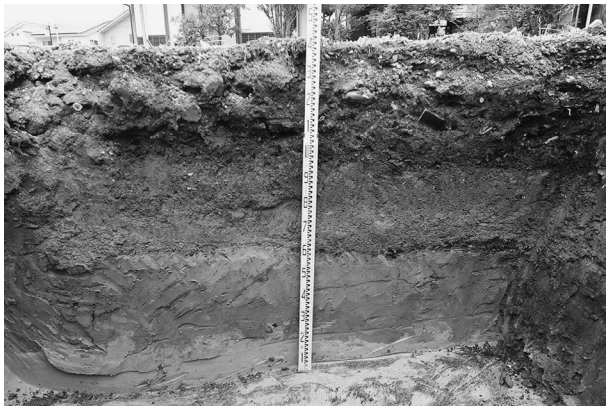
１　調査地全景（南東から）

２　調査地全景（上が西）

３　Ａトレンチ完掘（東から）

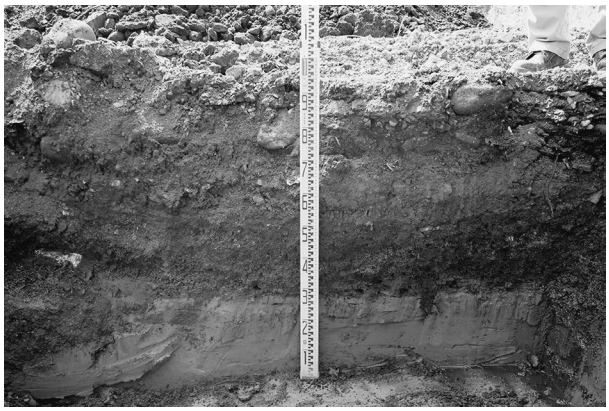
４　Ａトレンチ北壁

５　Ｂトレンチ完掘（南から）



６　Ｂトレンチ北壁

７　Ｃトレンチ完掘（北から）



８　Ｃトレンチ西壁

４　追堀遺跡（第１表■ 38）

第17図　追堀遺跡試掘位置図

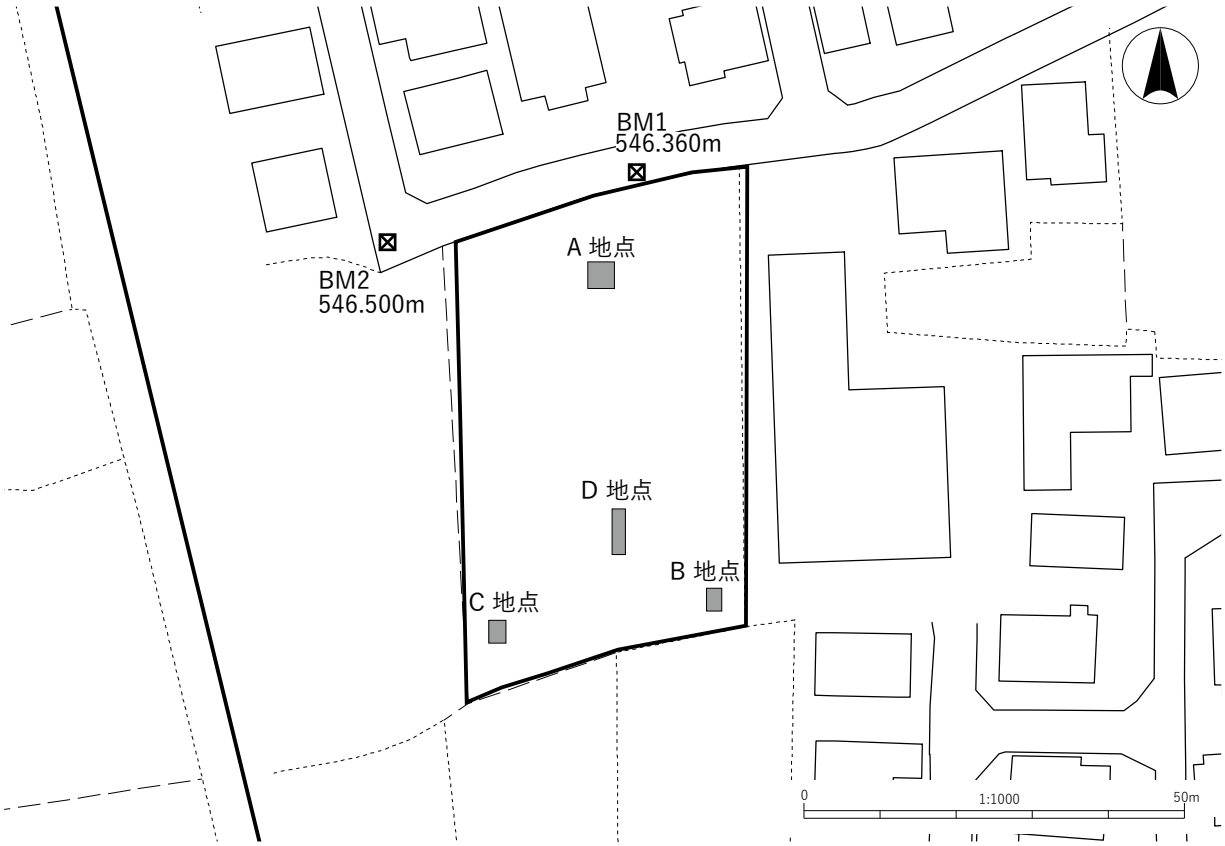
所在地	安曇野市穂高柏原 1645 番１外１筆	調査面積	35㎡
調査期間	令和３年（2021）６月 29 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

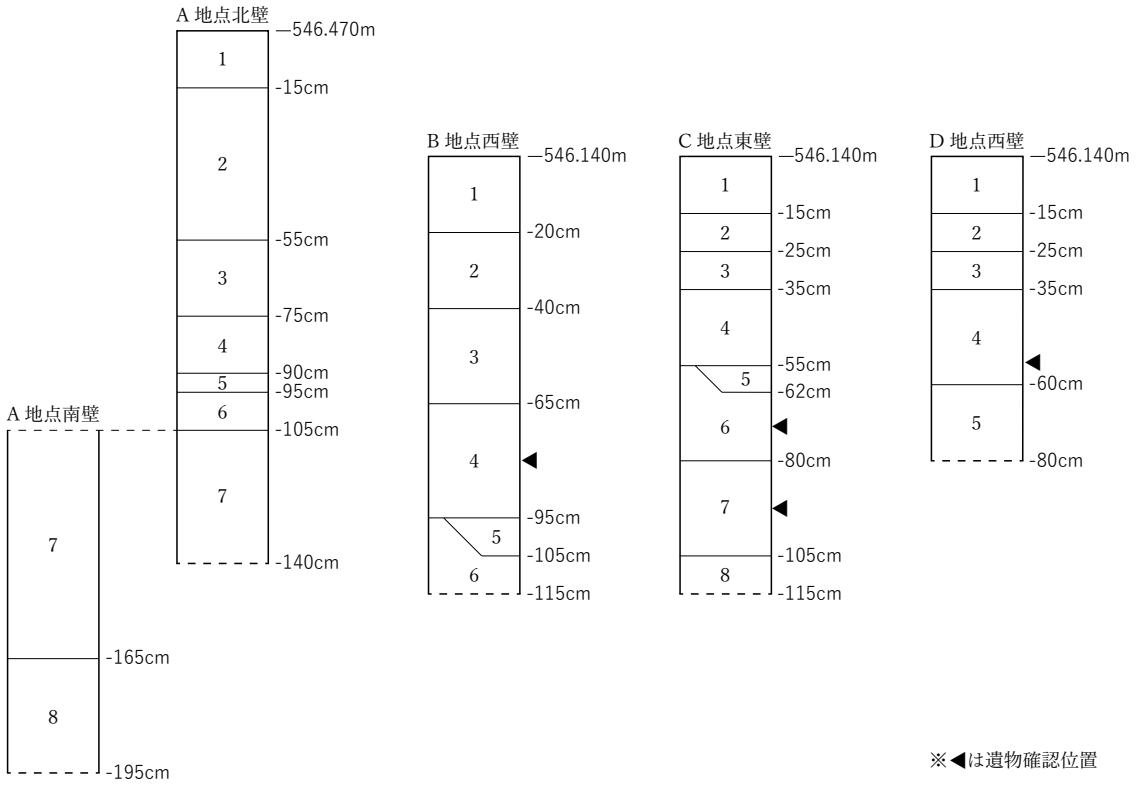
(1) 概要

追堀（おっぽり）遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地の扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成 29 年（2017）度に小規模な発掘調査を実施したほか、試掘及び工事立会を継続しており、平安時代の遺構分布が明らかになりつつある（安曇野市教委 2019b）。

今回は宅地造成に際し、４か所の調査区（A ～ D 地点）を設定して試掘調査を実施した。調査の結果、B 地点第４層、C 地点第６・７層、D 地点第４層から平安時代の須恵器、土師器及び黒色土器等が出土した。これらの遺物包含層は、いずれも暗･黒褐色の礫混シルトで、下面に凹凸があり安定しない。遺物が出土したため遺構の検出を試みたが、調査区内で遺構は存在していなかった。

上記の結果から、本件工事内容と埋蔵文化財保護の調整を図ったところ、遺物が出土した深度に達する広範囲な掘削はないため、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。





第18図　追堀遺跡試掘調査地点配置及び土層概念図

A地点
1,10YR2/3黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　表土、耕作土
2,10YR4/4褐色シルト
　しまり強、粘性強
　径5～10㎝の円礫を少量含む
　酸化鉄を斑に含む
　旧水田耕作土か
3,10YR4/2灰褐色礫混シルト
　しまり弱、粘性中
　径3～10㎝の亜角礫を若干含む
4,10YR3/2黒褐色礫
　しまり弱、粘性弱
　径2～5㎝の亜円礫主体
　酸化鉄を多く含む
5,10YR4/3褐色シルト
　しまり中、粘性中
　均質なシルト
6,10YR3/2黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　褐色シルトを粒状に含む
7,10YR4/6褐色シルト
　しまり中、粘性中
　均質なシルト、厚み5㎝以下の
　砂礫をレンズ状に含む
8,10YR2/3黒褐色礫混シルト
　しまり弱、粘性弱
　径3～10㎝の円礫を多く含む

B地点
1,A地点第1層と同じ
2,A地点第2層と同じ
3,10YR3/3暗褐色シルト
　しまり中、粘性中
　径5～10㎜の亜円礫を、
　ごく少量含む
4,10YR3/3暗褐色礫混シルト
　しまり弱、粘性弱
　径3～10㎜の円礫を多く含む
　下面に凹凸があり安定しない
　土器片、炭化物を多く含む
　遺物包含層
5,10YR3/2黒褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　砂を主体として径5～10㎝の
　亜円礫が多く混入する
　第6層に部分的に貫入する旧流路
6,10YR4/3にぶい黄褐色砂
　しまり中、粘性中
　均質な砂
　A地点第7層と同じか

C地点
1,A地点第1層と同じ
2,A地点第2層と同じ
3,10YR3/4暗褐色シルト
　しまり中、粘性中
　鉄分を粒状に含む
4,B地点第3層と同じ
5,10YR3/3暗褐色シルト
　しまり中、粘性中
　部分的に分布する層
　径2～3㎝の亜円礫を少量含む
6,10YR3/2黒褐色礫混シルト
　しまり中、粘性中
　径3～10㎝の亜円礫を、
　若干含む
　炭化物を若干含む
　遺物包含層
7,10YR3/3暗褐色礫混シルト
　しまり中、粘性中
　径1㎝程度の亜円礫を若干含む
　第6層に似るが、礫が小さい
　遺物包含層
8,10YR3/2黒褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　径10～15㎝の円礫を少量含む

D地点
1,A地点第1層と同じ
2,A地点第2層と同じ
3,10YR3/2黒褐色礫混シルト
　しまり中、粘性中
　径15～20㎝の亜円礫を集中的に含む
　西壁のみで東壁にはない
4,B地点第4層と同じ
　南で薄く北で厚い
　下部に土器が多い
5,10YR4/3にぶい黄褐色礫混シルト
　しまり中、粘性中
　径10㎝程度の亜円礫を多く含む

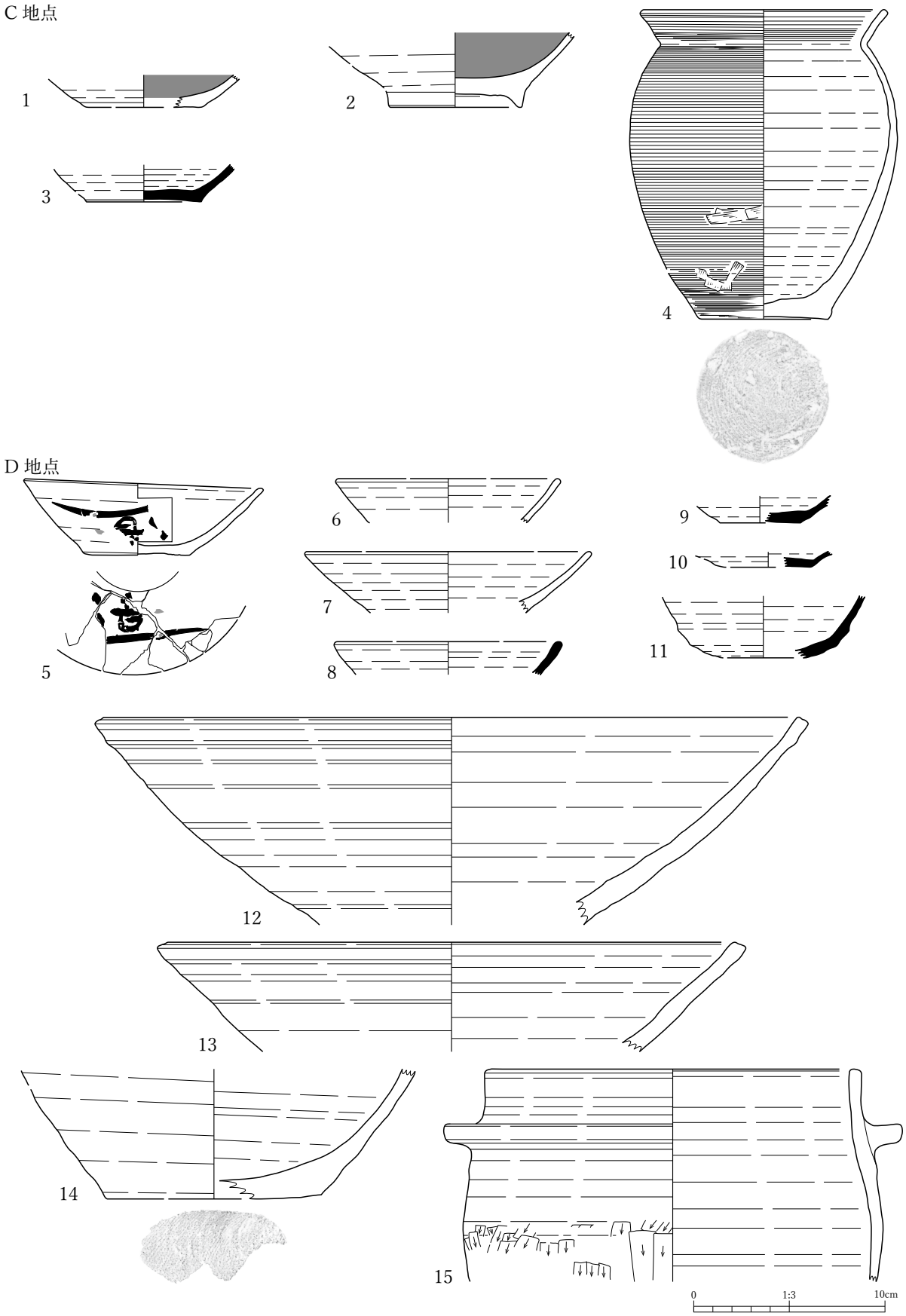
第19図　追堀遺跡試掘土層注記

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年７月１日	３文第 899 号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年７月９日	３教文第 20-29 号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年１月 20 日	３文第 2405 号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年１月 25 日	３教文第 24-17 号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。

試掘で出土した遺物 15 点を資料化した。

１～４は、C 地点出土遺物である。１～２は、黒色土器 A である。１は坏 A の底部で、外面は暗赤褐色、内面は暗黒褐色を呈する。内面はミガキ調整されるが、摩耗が激しい。松本盆地古代４～８期（以下、「●期」とする。）に見られる。２は埦の底部で、外面は赤褐色、内面は暗灰褐色を呈する。体部は直線的に立ち上がり、高台は断面三角形である。１と同様に、内面はミガキ調整されるが摩耗が激しい。７期以降に見られる。３は須恵器坏 A の底部で、胎土に長石等の白色鉱物を多く含む。７期まで見られ、８期以降は姿を消す。４は、外面にカキメが施される土師器小型甕 D である。頸部は「く」字に屈曲し、口縁はやや立ち上がり気味となる。カキメは、外面底部まで全面的に施される。この様な特徴の小型甕 D は、６～７期に比定できる。また４の内外面には、所々に炭化物が付着している。以上のような出土遺物の特徴から、C 地点出土遺物は７期に比定できる。



第20図　追堀遺跡試掘出土遺物

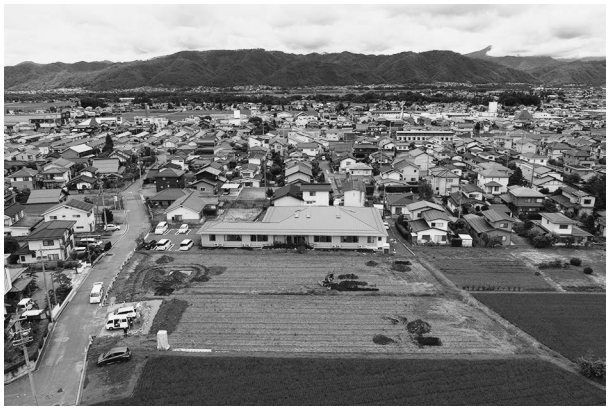
第21図　追堀遺跡試掘出土遺物写真

5 ～ 15 は、D 地点出土遺物である。5 ～ 7 は、土師器坏 A である。5 は、外面に逆位で「道」の墨書を持つ。「道」の墨書としては、過去に中在地遺跡から「宮道」と書かれた土器が 2 点出土している。8 ～ 10 は、須恵器坏 A である。11 は、小型で高台を持たない、いわゆる須恵器坏 G の底部下半破片である。12 ～ 13 は、土師器の盤 A である。この 2 個体は、推定口径は異なるが、口縁端部は断面四角形に整える点、胎土に雲母を含む点などが共通しており同一個体の可能性がある。所属時期は、8 期以降と考えられる。14 は、ロクロ調整を施す土師器甕 D としたが、法量的に甕としては小さく、小型甕に近い。このため、ロクロ調整を施す小型甕 D のうちやや大きい個体として捉えると、外面のカキメが消失し、ロクロ目が目立つ特徴は 8・9 期から見られる。したがって、14 も 8 期以降と捉えられる。15 は、土師器羽釜 A である。ロクロ成形の後、外面の体部下半に縦方向のケズリを施している。外面には、付着物が多い。以上の特徴から、D 地点出土物は、7 期までの様相と 8 期以降の様相を有しており、所属時期は複数にわたると推定できる。

なお、図示できなかったが D 地点第 4 層から金属製品の破片が出土している。

第３表　追堀遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	C 地点	第６層	黒色土器 A	坏 A	体部～底部	不明	—	6.0	復	1.7	残	ロクロナデ	ミガキ＋黒色処理	回転糸切り	内面ミガキ残存摩耗強い
2	C 地点	第４層	黒色土器 A	椀	体部～底部	不明	—	7.1	実	3.9	残	ロクロナデ	ミガキ＋黒色処理	回転糸切り	内面ミガキ残存よくない
3	C 地点	第７層	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	—	6.0	実	1.9	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
4	C 地点	第７層	土師器	小型甕 D	口縁部～底部	13.0	復	6.8	実	16.2	完	カキメ	ロクロナデ＋ナデ（口縁部のみカキメ）	回転糸切り	カキメ 2mm
5	D 地点	第４層	土師器	坏 A	口縁部～底部	12.6	実	5.6	実	4.0	完	ロクロナデ＋墨書	ロクロナデ	回転糸切り	内面黒斑あり
6	D 地点	第４層	土師器	坏 A	口縁部～体部	11.8	復	不明	—	2.3	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
7	D 地点	第４層	土師器	坏 A	口縁部～体部下半	15.0	復	不明	—	3.2	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
8	D 地点	第４層	須恵器	坏 A	口縁部～体部	12.0	復	不明	—	1.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	口縁自然釉かかる
9	D 地点	第４層	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	—	4.2	復	1.4	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
10	D 地点	第４層	須恵器	坏 A	体部～底部	不明	—	6.4	復	0.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
11	D 地点	第４層	須恵器	坏 G	体部	不明	—	不明	—	3.2	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
12	D 地点	第４層	土師器	盤 A	口縁部～体部	37.4	復	不明	—	10.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	摩耗強い、No.13 と同一個体か
13	D 地点	第４層	土師器	盤 A	口縁部～体部	30.8	復	不明	—	5.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	摩耗強い、No.12 と同一個体か
14	D 地点	第４層	土師器	甕 D	体部～底部	不明	—	11.2	復	6.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	小型甕よりはやや大きい
15	D 地点	第４層	土師器	羽釜 A	口縁部～体部	19.6	復	不明	—	12.1	残	ロクロナデ＋ケズリ	ロクロナデ	不明	



１　調査地全景（西から）

２　調査地全景（上が東）

３　Ａ地点完掘（東から）

４　Ａ地点北壁

５　Ｂ地点完掘（南から）

６　Ｂ地点西壁

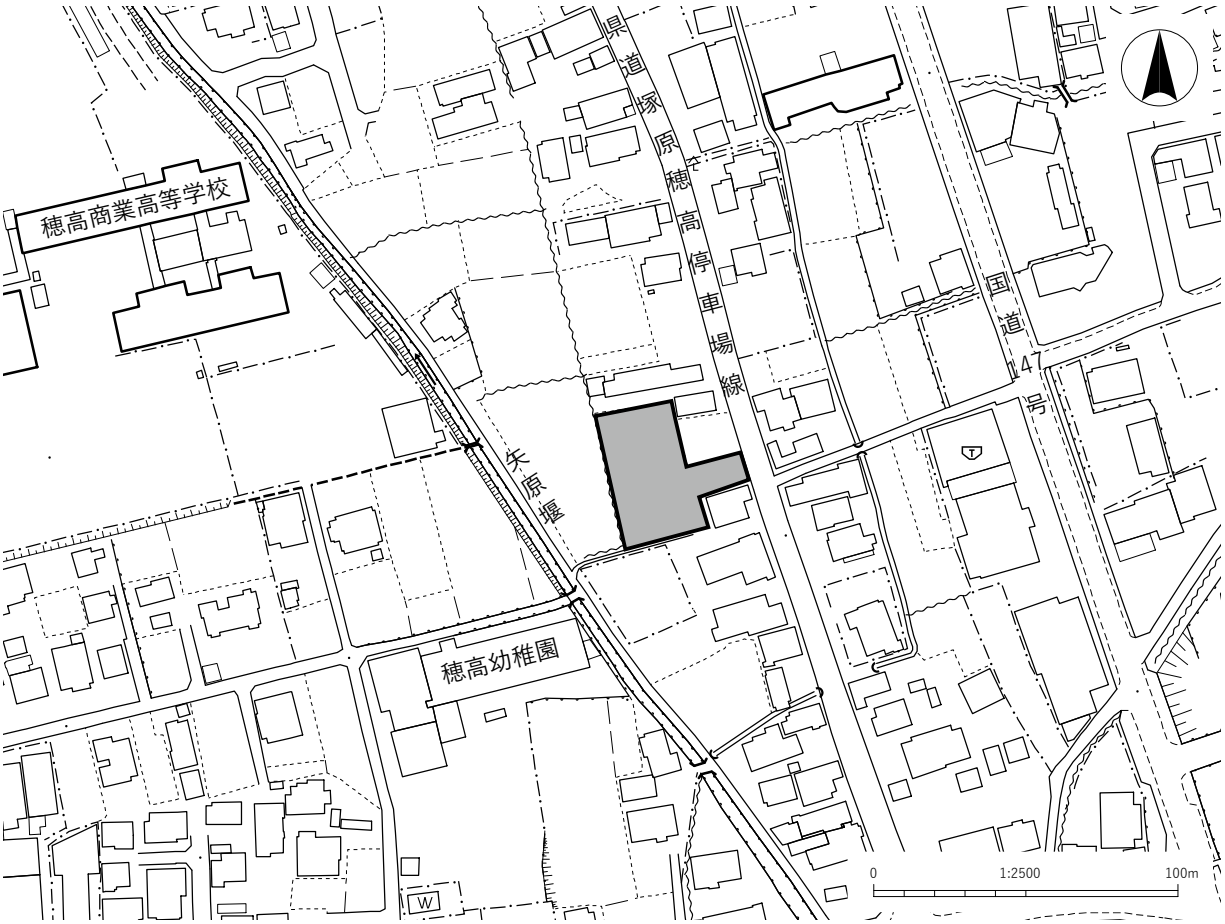
７　Ｃ地点完掘（西から）

８　Ｃ地点東壁

９　Ｄ地点完掘（北から）

10　Ｄ地点西壁

5　北才の神遺跡（第１表■ 45・● 86）



第22図　北才の神遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高 6714 番１外３筆	調査面積	30㎡
調査期間	令和３年（2021）７月 15 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

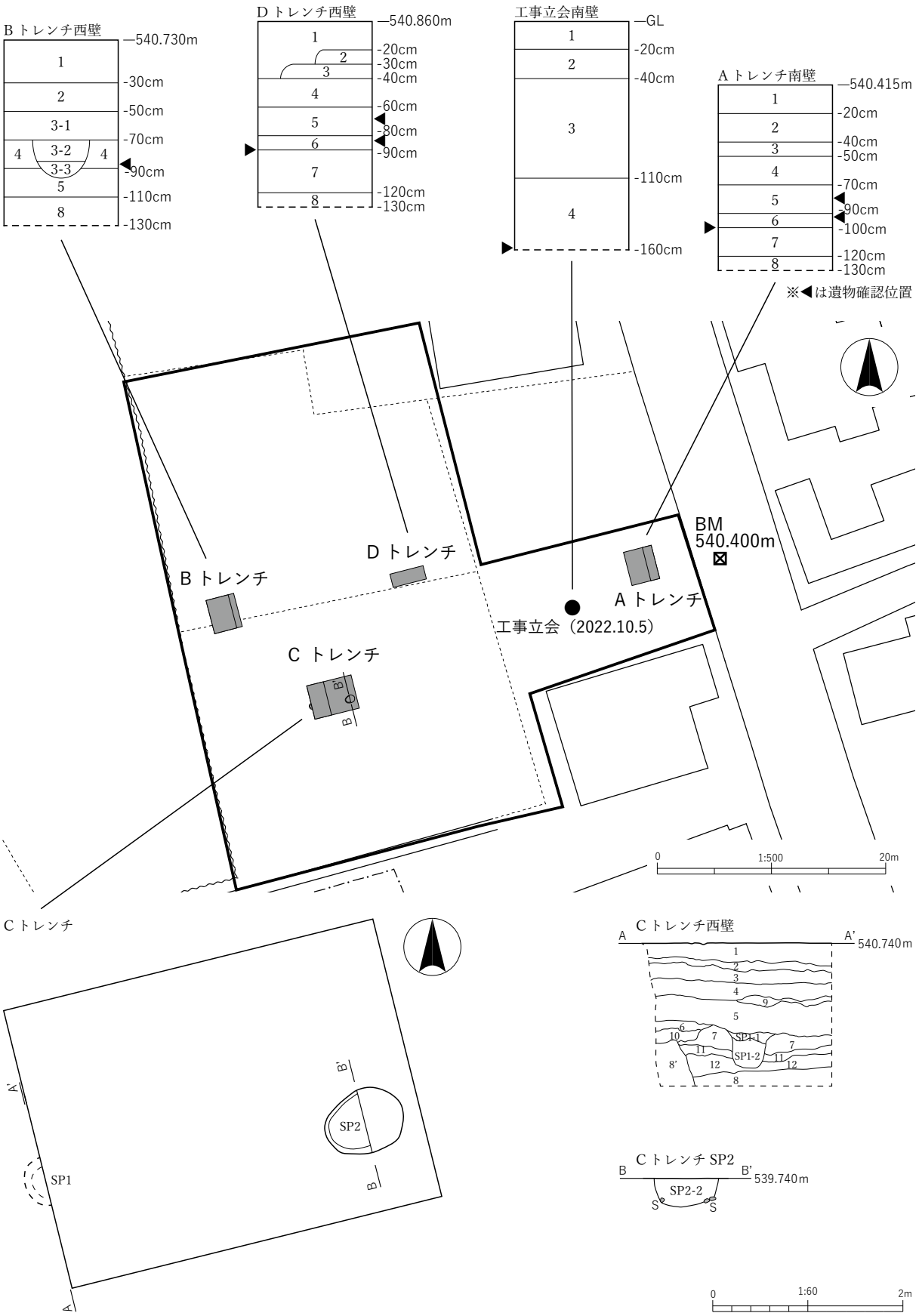
(1) 概要

北才（きたさい）の神（かみ）遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地扇央に所在する古墳時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、本発掘調査を実施した記録はないが、試掘調査及び工事立会で遺構・遺物の内容が明らかになりつつある。

今回は、宅地造成に先立ち４か所のトレンチ（Ａ～Ｄトレンチ）を設定して、試掘調査を実施した。調査の結果、Ａ・Ｄトレンチ第５・６層から古墳時代の土師器片、Ｂトレンチ第 3-2・４層及びＣトレンチ第６層から弥生時代後期～古墳時代の土器片が出土したほか、Ｃトレンチの深度 100cm 付近で時期不明のピットを検出した。

上記の結果から、本件工事内容と埋蔵文化財保護の調整を図ったところ、遺物が出土した深度に達する掘削はないため、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

また、施工に際し令和３年（2021）10 月５日に工事立会で土層観察を実施し、最下部で土師器小片の出土を確認した。



第23図　北才の神遺跡試掘トレンチ配置及び土層図

Aトレンチ・Dトレンチ
1,10YR3/1黒褐色粘土
しまり強、粘性強
表土、耕作土、
撹乱(近代以降)
2,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
耕作土床土
3,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
4,10YR5/4～4/4
にぶい黄褐色～褐色シルト
しまり中、粘性強
径0.5㎝程度の炭化粒
少量混入
鉄、マンガンの集積斑紋点在
5,10YR6/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性強
径0.1～0.3㎝程度の
炭化粒子混入
土器小破片混入
第6層との境界に径2㎝程度の
円礫が混在する所がある
6,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
上層に鉄、マンガンの集積層
径0.5㎝以下の炭化粒、
径1㎝以下の小礫少量混入
下層から土器破片出土
7,10YR5/4灰黄褐色シルト
しまり弱、粘性強
下層に径2㎝程度の小礫散在
第6層との境界に土器出土
8,10YR4/4褐色砂礫層
径10～20㎝程度の円礫を
主体に砂礫からなる
第7層シルトが混入

Bトレンチ
1,10YR3/1黒褐色粘土
しまり強、粘性強
表土、耕作土
2,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性強
上部に鉄、マンガンの集積
径1～2㎜程度の炭化粒散在
耕作土床土
3-1,砂礫層
河川氾濫流路
径2～8㎝程度の小中円礫、
砂利主体
10YR4/4褐色シルトが
ブロック状に混在
3-2,10YR5/6黄褐色砂礫
流路砂礫層
径1～2㎝程度の砂礫主体層
3-3,10YR5/6黄褐色砂
流路砂層
小砂利、砂主体層
4,10YR7/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性強
上層に鉄、マンガンの
集積斑紋
径0.5㎝以下の炭化粒が
少量混入
土器破片出土
5,10YR4/4褐色シルト
しまり弱、粘性強
径2㎝程度の小礫散在
8,10YR4/4褐色砂礫層
径10～20㎝程度の円礫を
主体に砂礫からなる

Cトレンチ
1,10YR3/1黒褐色粘土
しまり強、粘性強
表土、耕作土
2,10YR5/3灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
耕作土床土
上部に鉄、マンガンの集積
径1～2㎜程度の炭化粒散在
3,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積層
4,10YR5/4～4/4
にぶい黄褐色～褐色シルト
しまり中、粘性強
径0.5㎝程度の炭化粒が
少量混入、小礫混入
鉄、マンガンの集積斑紋点在
5,10YR6/2灰黄褐色シルト
しまり中、粘性強
径0.1～0.3㎝程度の炭化粒子混入
土器小破片混入
6,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり強、粘性強
上層に鉄、マンガンの集積層
径0.5㎝以下の炭化粒、
小礫少量混入
7,10YR5/4灰黄褐色シルト
しまり弱、粘性強
礫の混入なし
8,10YR4/4褐色砂礫層
径10㎝以下の、
小礫主体の礫層
8',10YR4/4褐色砂礫層
径20㎝程度の礫と小礫砂混入
の礫層
9,10YR4/4褐色シルト
しまり弱、粘性中
径5㎝程度の円礫混入
10,10YR5/6黄褐色シルト
径5～10㎝程度の礫を
主体とする砂礫層
11,10YR4/4褐色シルト
しまり弱、粘性強
礫の混入なし
12,10YR5/4灰黄褐色シルト
しまり弱、粘性強
小礫小砂利混入

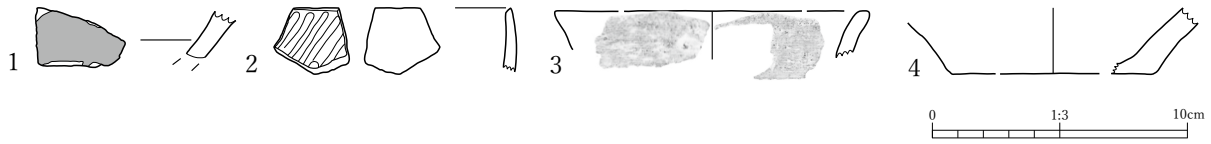
Cトレンチ遺構
SP1
1,10YR4/4褐色シルト
しまり強、粘性強
径0.2～0.5㎝程度の炭化物少量混入
2,10YR3/4暗褐色シルト
しまり強、粘性強
径3㎝程度の小礫少量混入
SP2
1,観察できず
SP1-1と同様の堆積が想定できる
2,10YR3/4暗褐色シルト
しまり弱、粘性強
径3㎝程度の小礫混入

工事立会南壁
1,造成土
2,10YR4/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性弱
鉄、マンガンの集積
摩耗した土器片を少量含む
3,10YR5/4灰黄褐色シルト
しまり強、粘性弱
鉄、マンガンの集積
摩耗した土器片を少量含む
腐食した植物根
4,10YR5/4灰黄褐色シルト
しまり中、粘性中
鉄、マンガンの集積
(第2・3層よりは少ない)
摩耗した土器片を少量含む
径2㎝程度の円礫を含み
下位ほど多い
最下位から古墳時代後期と
みられる土師器片が出土

第24図　北才の神遺跡試掘土層注記

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年７月20日	３文第1068号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年８月４日	３教文第20-34号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年１月25日	３文第2437号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年１月31日	３教文第24-18号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第25図　北才の神遺跡試掘出土遺物

第26図　北才の神遺跡試掘出土遺物写真

第4表　北才の神遺跡試掘出土遺物観察表

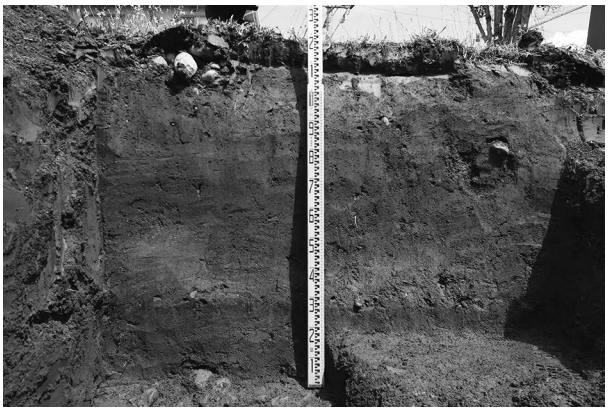
No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ｂトレンチ	第６層	弥生土器	小型壺	体部下半	不明	—	不明	—	1.8	残	ミガキ＋赤彩	ナデ	不明	赤彩、雲母多く含む、小さめの礫（石英、長石等）含む
2	Ｂトレンチ	第６層	土師器	鉢	口縁部～体部	不明	—	不明	—	2.5	残	ナデ＋ミガキ	ナデ＋ミガキ	不明	内外面ともに橙赤褐色、胎土緻密、内面暗文あり
3	Ｄトレンチ	第６層	土師器	小型甕	口縁部～体部	12.4	復	不明	—	1.8	残	ハケメ＋ナデ	ハケメ＋ナデ	不明	大きめの礫を含む
4	Ａトレンチ	第６層	土師器	球形甕	体部～底部	不明	—	8.0	復	2.6	残	ハケ	ナデ	ナデ	大きめの礫を含む

試掘で出土した土器のうち、４点を資料化した。

１は、弥生時代後期の小型壺の体部下半で、外面を赤彩し胎土には雲母を多く含む。なお、破片下端は擬口縁である。２～４は、古墳時代中期前半の土師器である。２は鉢の口縁部で、内外面ともに意識的に橙赤褐色となる胎土を使用している。胎土は小さな礫をわずかに含むものの緻密で、内面には暗文が施されている。３は、小型甕の口縁部である。外面は赤褐色、内面は灰褐色の色調で、頸部が強く屈曲して「く」字になる器形となる。４は、球形甕の体部下半～底部である。色調は、外面が暗黄褐色、内面が黄褐色を呈し、胎土に大きめの礫と雲母を少量含む。内面は丁寧にナデ調整されるが、外面は粗いハケのみの調整である。

１　調査地全景（北西から）

２　Ａトレンチ完掘（南から）



３　Ａトレンチ北壁

４　Ｂトレンチ完掘（北から）

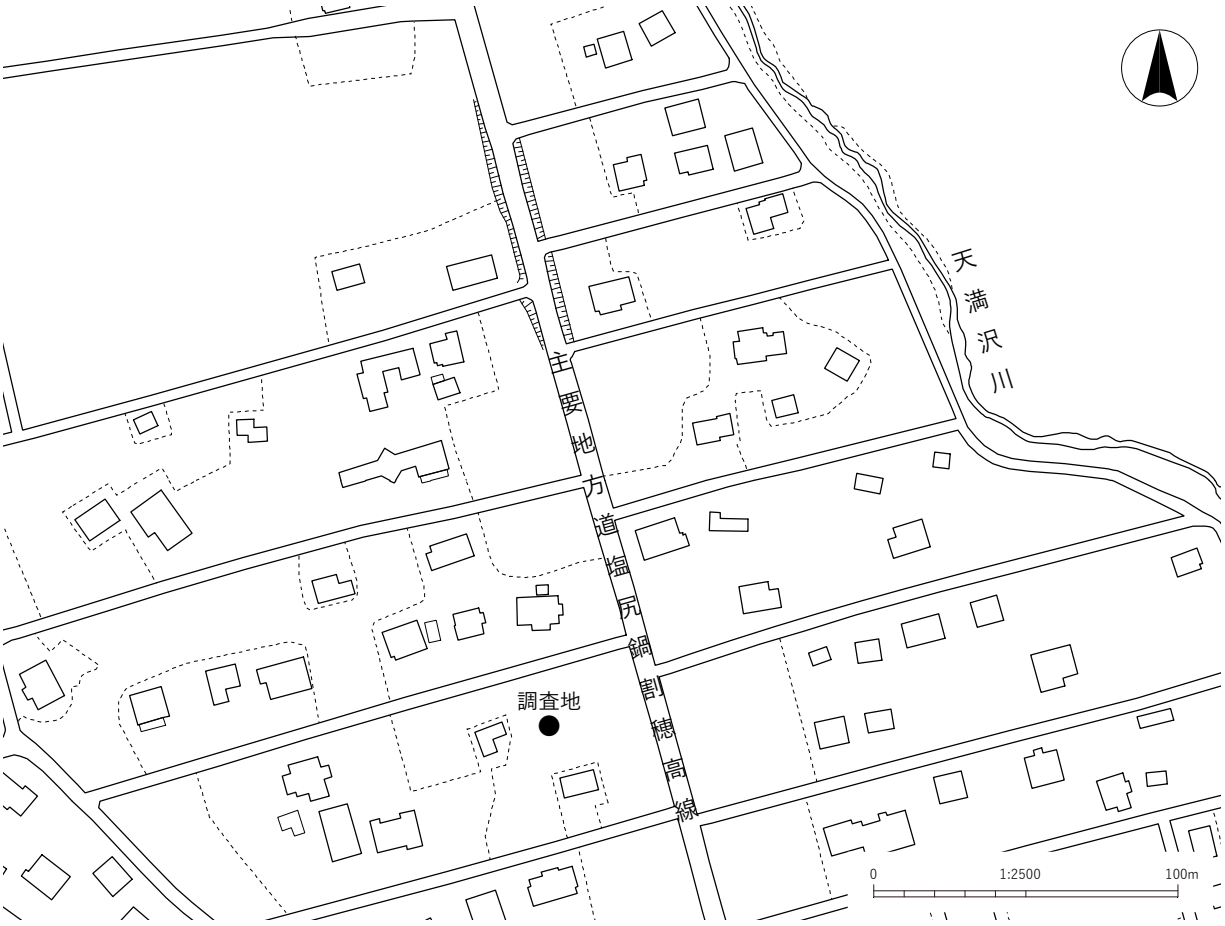
５　Ｂトレンチ西壁

６　Ｃトレンチ完掘（東から）

７　Ｃトレンチ西壁

８　Ｄトレンチ西壁

6　穂高古墳群 B27 号墳（第１表■ 50）



第27図　B27号墳試掘位置図

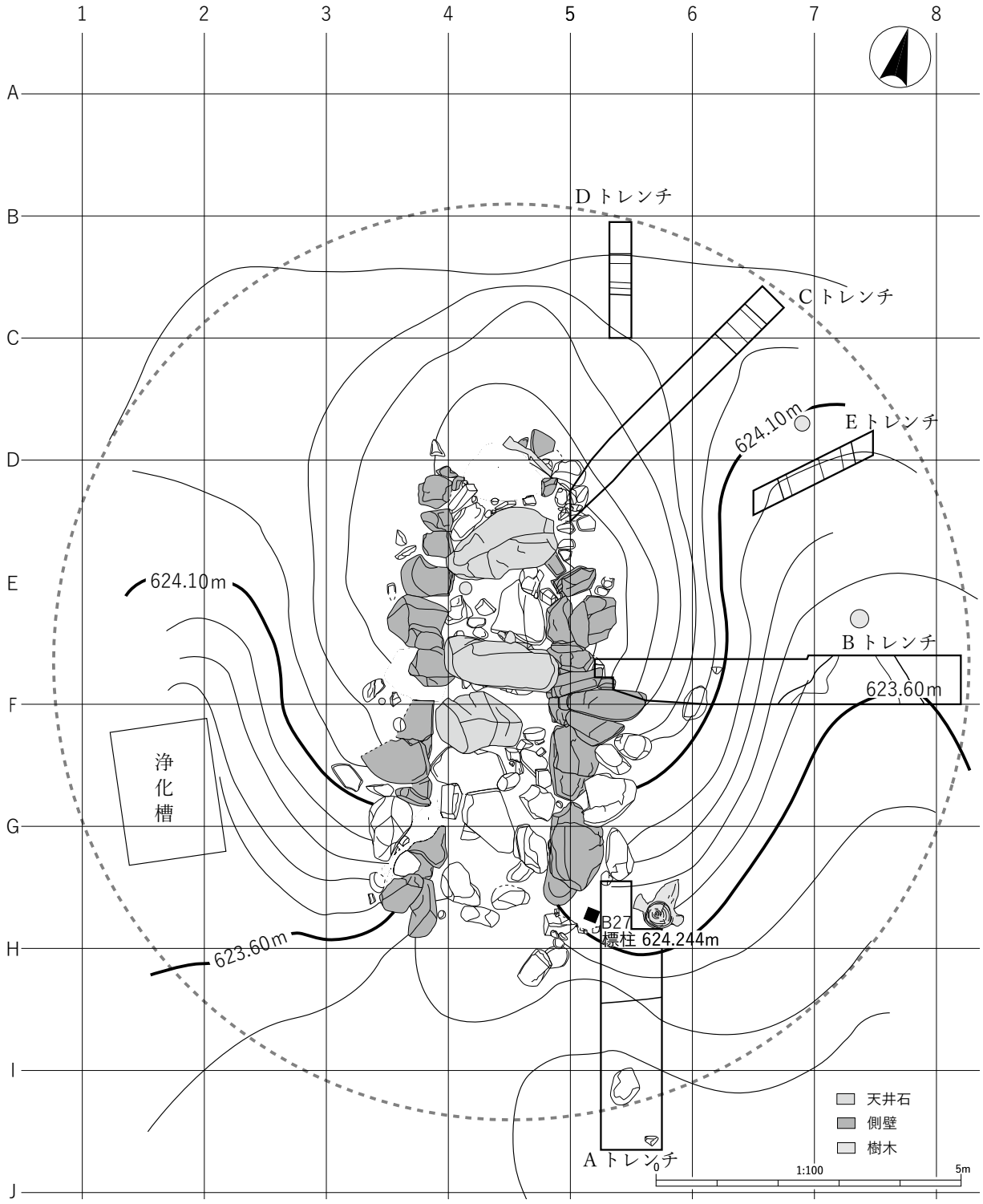
所在地	安曇野市穂高有明 2186 番 81	調査面積	12㎡
調査期間	令和３年（2021）６月 11 日～令和３年（2021）７月 27 日	調査契機	保存目的
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子、宮下智美、寺島俊郎		

(1) 概要

穂高（ほたか）古墳群 B27 号墳（以下、「B27 号墳」とする。）は、天満沢川（てんまさわがわ）右岸に所在する古墳時代後期の円墳である。この古墳では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

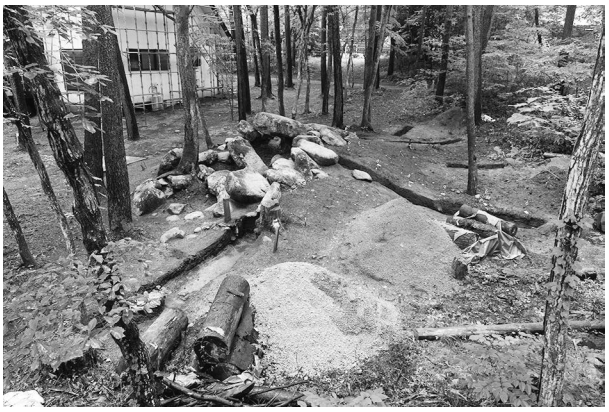
今回、墳丘の東半分の土地所有者との保護協議によって、古墳の保存を目的とした範囲確認のための測量と試掘を実施した。墳丘東半分に５か所のトレンチ（Ａ～Ｅトレンチ）を設定して土層観察を行った結果、墳丘裾の端部付近で溝状の遺構を確認した。墳丘の東半分のみの調査であるため、この遺構が周溝になるかは、現時点では不明である。また、墳丘盛土が良好に残存していることも確認でき、横穴式石室と墳丘の構築手順について所見を得た。なお、遺物は出土していない。

この調査の詳細については、別途報告予定である。



第28図　B27号墳試掘調査区全体図

1　調査前石室（南から）

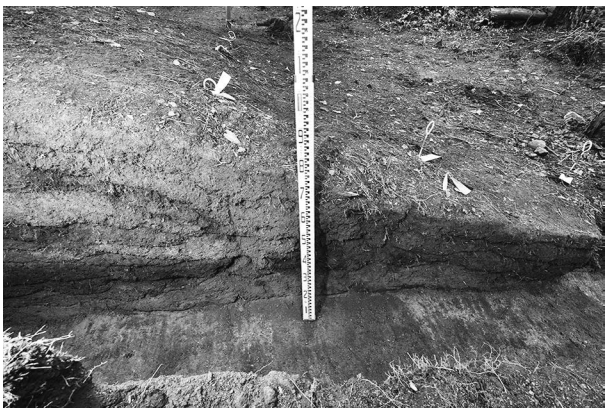


2　トレンチ完掘（南東から）

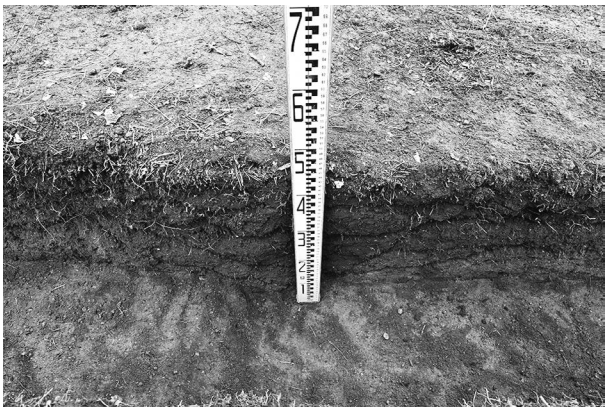
3　Ａトレンチ石室側

4　Ｂトレンチ石室側

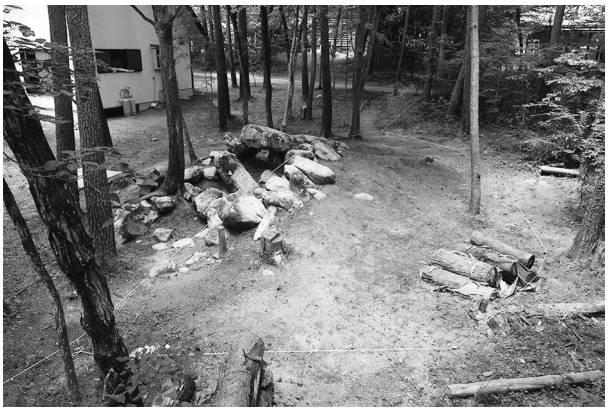
5　Ｂトレンチ北壁（墳丘側）



6　Ｂトレンチ北壁（墳裾側）

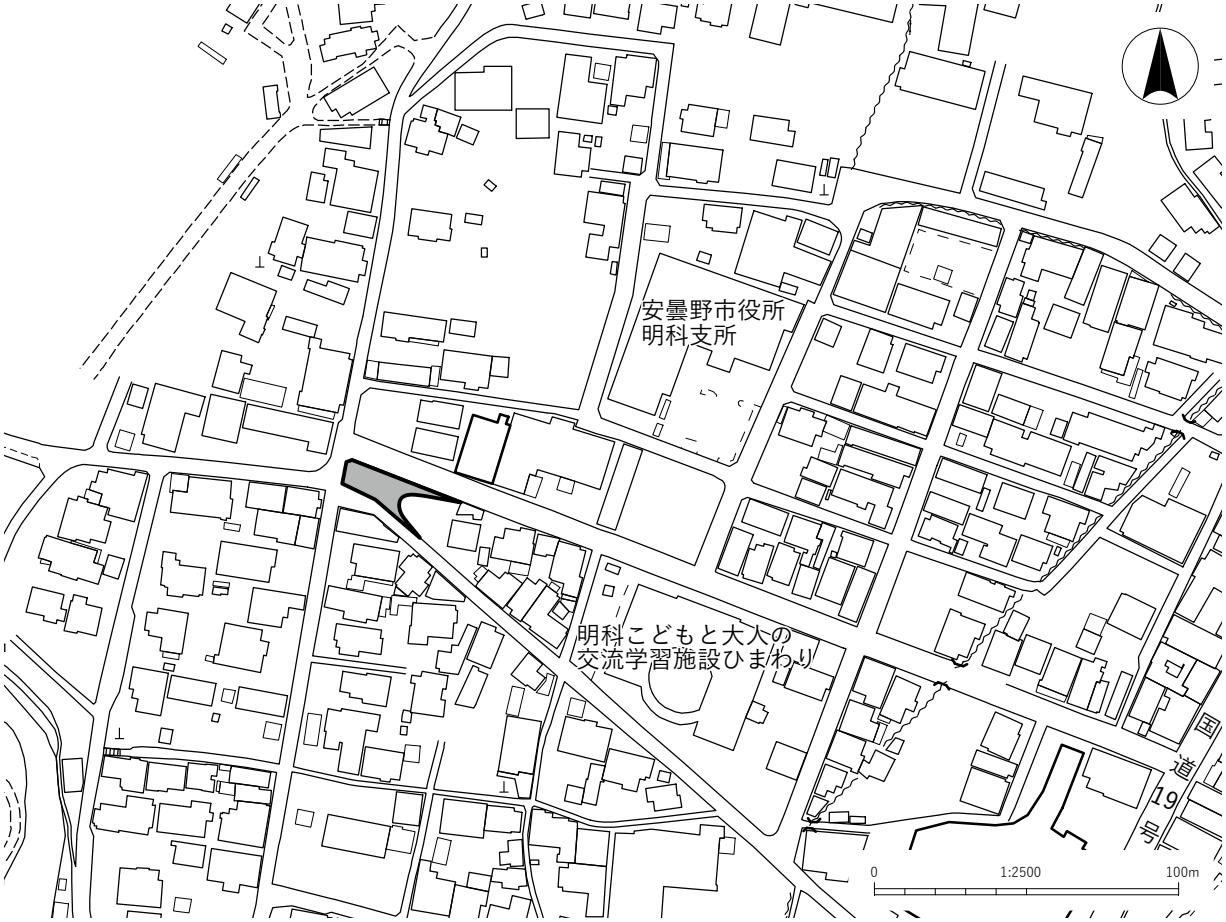


7　Ｄトレンチ東壁溝状遺構



8　調査後（墳裾ライン表示あり）

7　明科遺跡群栄町遺跡（第１表■56）



第29図　栄町遺跡試掘位置図

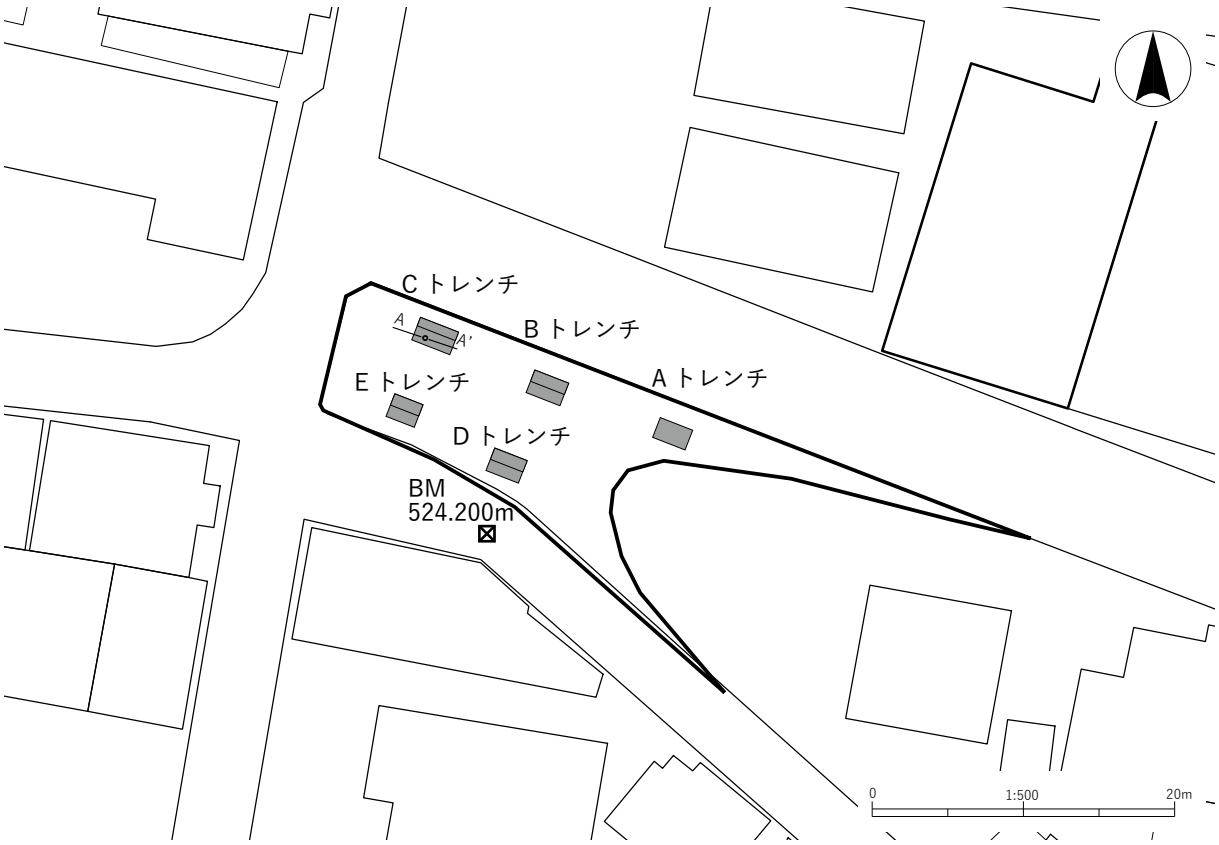
所在地	安曇野市明科中川手 3934 番１外４筆	調査面積	18㎡
調査期間	令和３年（2021）８月４日	調査契機	道路
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

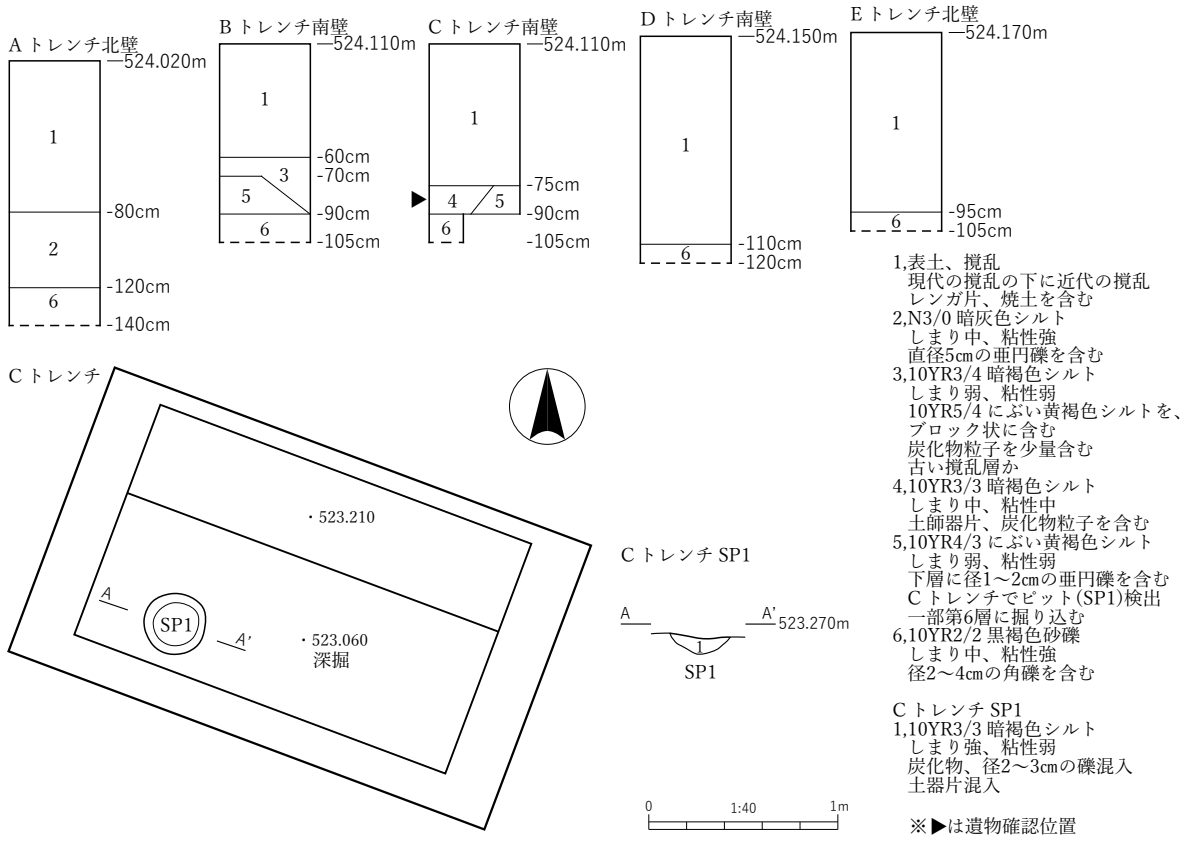
明科遺跡群栄町遺跡（以下、「栄町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次にわたる発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡の様子が明らかになりつつある（安曇野市教委 2014）。

今回は、道路改良工事に先立ち施工地に５か所のトレンチ（Ａ～Ｅトレンチ）を設定し試掘調査を実施した。調査の結果、Ｃトレンチで時期不明のピット１基を検出したほか、摩耗した土師器小片がごく少量出土した。調査地は、全体的に近代以降の撹乱の影響が大きく、特にＤ・Ｅトレンチでは撹乱が基盤の砂礫（第６層）まで達していた。

上記のとおり、調査地での埋蔵文化財の残存状況は極めて悪く、道路改良が埋蔵文化財に影響を与えることがないため、本発掘調査は不要であると判断した。



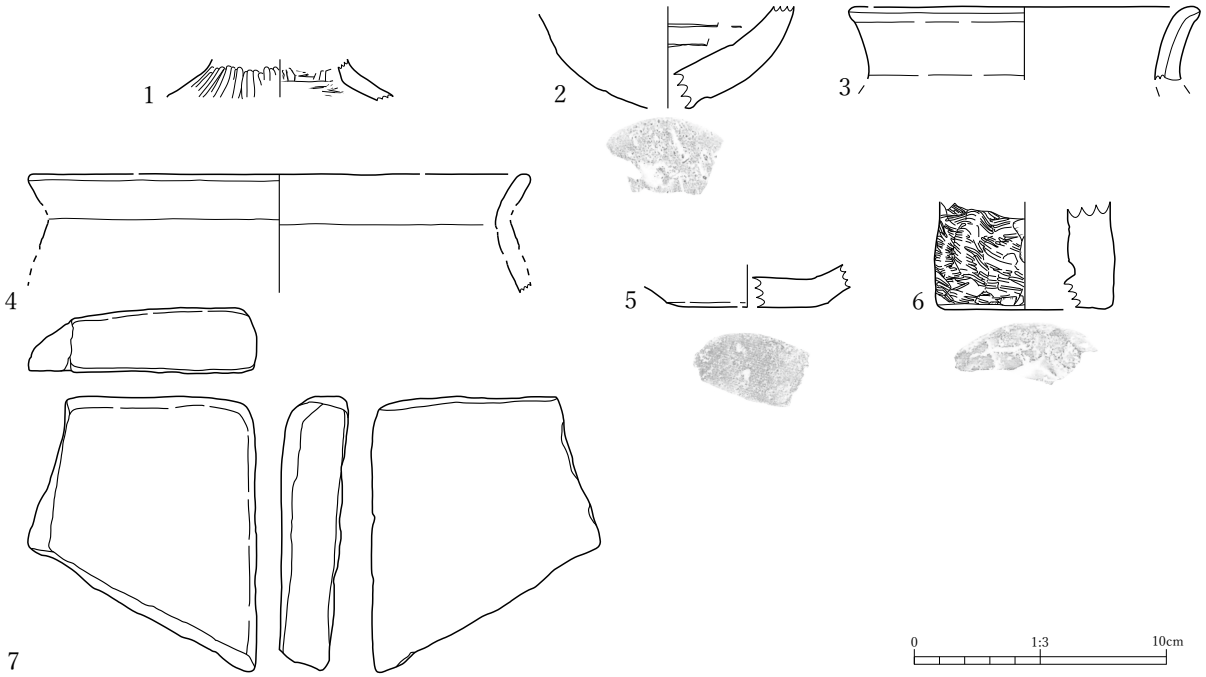
第30図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図



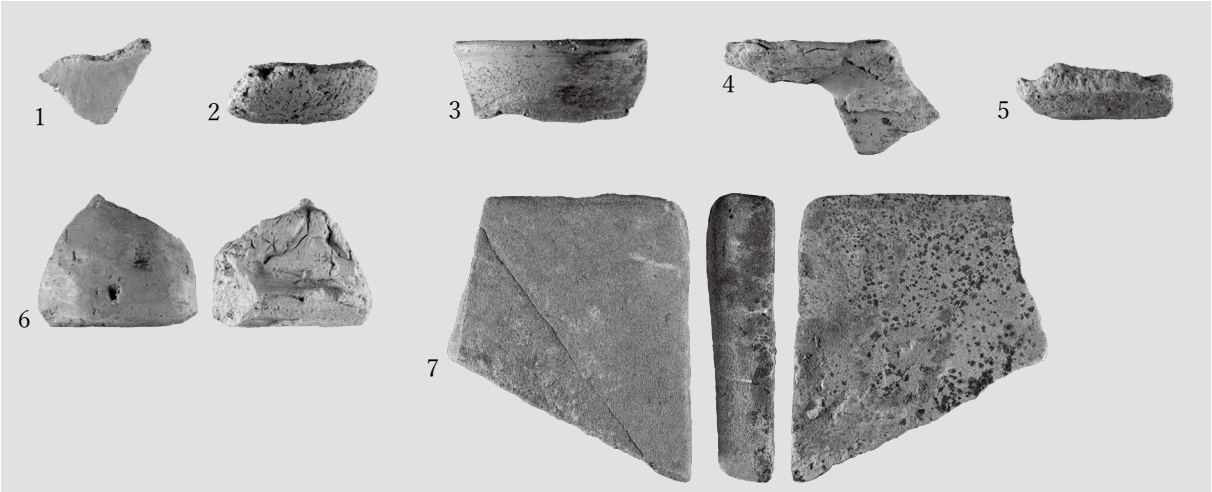
第31図　栄町遺跡試掘調査概要図

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年８月10日	３文第1190号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年８月20日	３教文第20-40号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年４月25日	４文第370号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年５月６日	４教文第24-2号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第32図　栄町遺跡試掘出土遺物



第33図　栄町遺跡試掘出土遺物写真

第５表　栄町遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	表採	—	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	1.6	残	ナデ＋ミガキ	絞＋ナデ	不明	内外面ともに赤褐色、胎土緻密
2	Ｃトレンチ	第４層	土師器	小型甕	体部下半～底部	不明	—	6.8	復	4	残	ナデ	工具ナデ	ヘラナデ	外面摩耗強い
3	Ｃトレンチ	第４層	土師器	甕	口縁～頚部	13.6	復	不明	—	2.9	残	横ナデ	横ナデ（ミガキ？）	不明	細かい礫多く含む
4	Ａトレンチ	撹乱	土師器	甕	口縁～体部	19.8	復	不明	—	4.7	残	ナデ	ナデ	不明	内外面ともに赤褐色、雲母多い
5	Ｃトレンチ	第４層	土師器	甕	体部下半～底部	不明	—	6.4	復	1.7	残	ナデ	ナデ	ナデ	胎土に礫多い
6	表採	—	土師器	不明	体部～底部	不明	—	7.0	復	4.3	残	工具ナデ＋ミガキ？	なし	ナデ	内面空洞のまま

No.	遺構等	層位	器種	材質	長（cm）		幅（cm）		厚（cm）		重量（g）		備考
7	Ｃトレンチ	撹乱	砥石	砂岩	10.9	残	9.1	残	2.6	実	398	残	

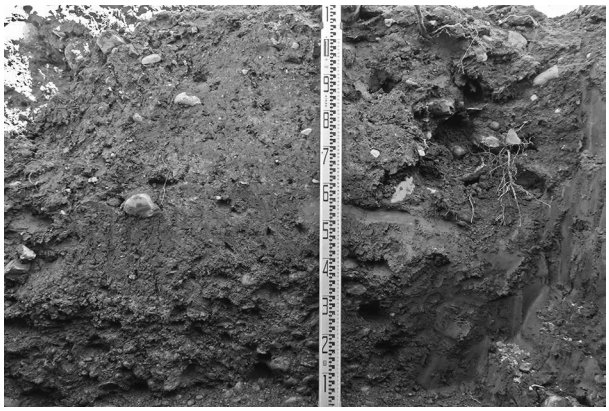
試掘で出土した遺物７点を資料化した。

１～５は、古墳時代中期後半～後期前半の土師器である。１は、高坏の脚部である。内外面ともに赤褐色で、胎土は緻密だが礫を少量含む。２は小型甕の底部付近の破片で、外面は赤褐色、内面は灰黄褐色の色調を呈する。礫を多量に含み、外面は摩耗が強い。３～５は、甕である。３は、外面が赤黄褐色、内面が赤褐色を呈し、胎土に長石などの礫を含む。４は、内外面ともに赤褐色で、胎土に礫、雲母を多く含む。５は、外面が茶褐色、内面が赤褐色で、胎土に長石などの礫及び雲母を多く含む。６は、製作時期不明、器種不明の遺物である。形態は筒形で、外面は非常に丁寧なミガキが施されるが、内面は調整がなされていない。土鈴の製作体験の様に、中に稲藁や新聞紙を詰めて焼くと内側がこの様になることがあるという教示を得た[1]。

７は、砂岩製の砥石である。撹乱から出土したため、所属時期は不明である。破損しているものの、厚さ2.6cmの長方形に整えられた板状をしていると推定でき、比較的緻密な石質である。

1 原明芳氏の御教示による。

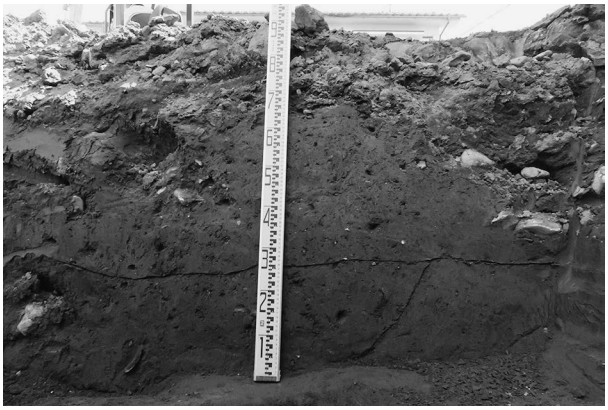
1　調査区全景（上が北）



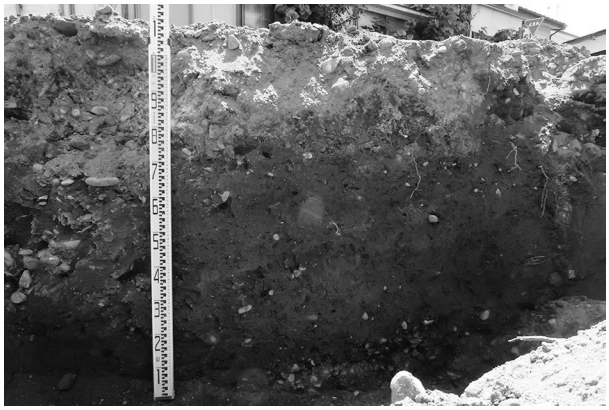
2　Ａトレンチ北壁

3　Ｂトレンチ南壁

4　Ｃトレンチ完掘（南から）

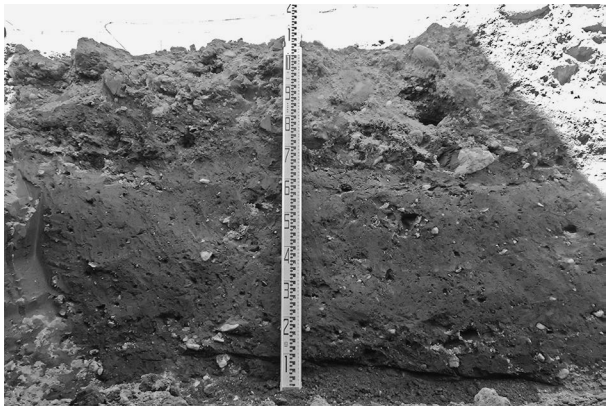


5　Ｃトレンチ南壁



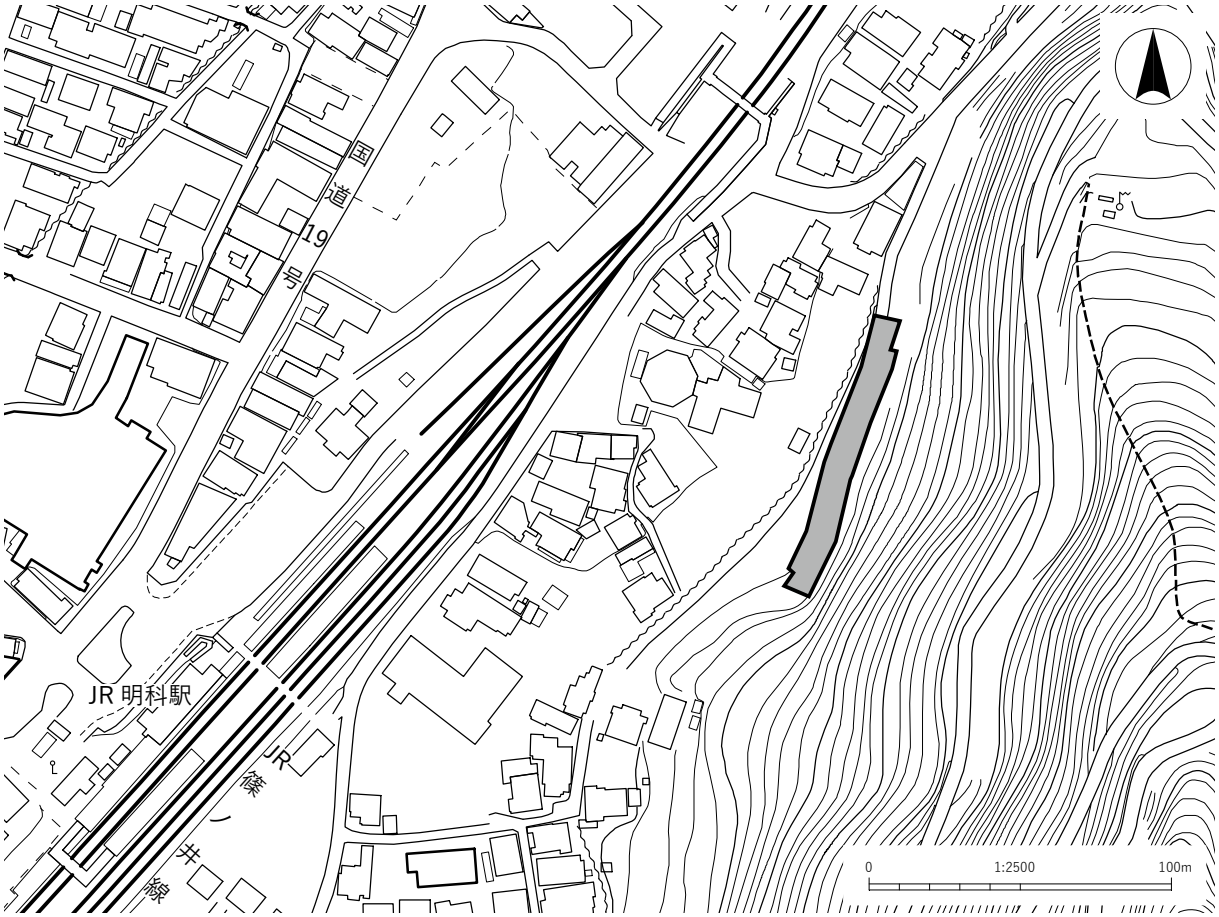
6　Ｄトレンチ南壁

7　Ｅトレンチ完掘（北から）



8　Ｅトレンチ北壁

8　明科遺跡群上郷遺跡（第１表■ 63）



第34図　上郷遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手 4064 番１外 21 筆	調査面積	6㎡
調査期間	令和３年（2021）８月 19 日	調査契機	崩壊土砂防止柵
調査参加者	斉藤雄太、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

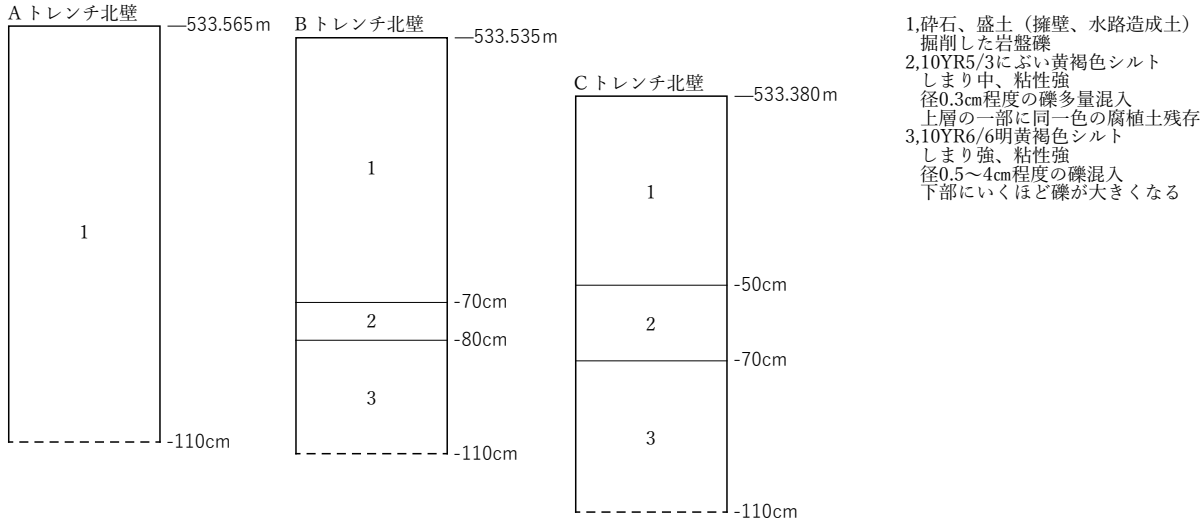
(1) 概要

明科（あかしな）遺跡群上郷（わごう）遺跡（以下、「上郷遺跡」とする。）は、犀川（さいがわ）右岸の河岸段丘上に所在する縄文時代及び古墳～平安時代の散布地である。この遺跡では、これまでに本発掘調査を実施した記録はない。

今回は崩壊土砂防止柵設置に伴う作業用道路建設位置に３か所のトレンチ（Ａ～Ｃトレンチ）を設定して試掘調査を実施した。調査の結果、Ｂ・Ｃトレンチで、既存の砂防施設設置の際の盛土（第１層）と基盤となる礫混シルト（第３層）の間に旧表土と考えられるシルト（第２層）が残存していた。精査の結果、いずれの層にも遺構・遺物は存在していなかった。

上記の結果から、今回の工事での本発掘調査は不要と判断した。

第35図　上郷遺跡試掘トレンチ配置図

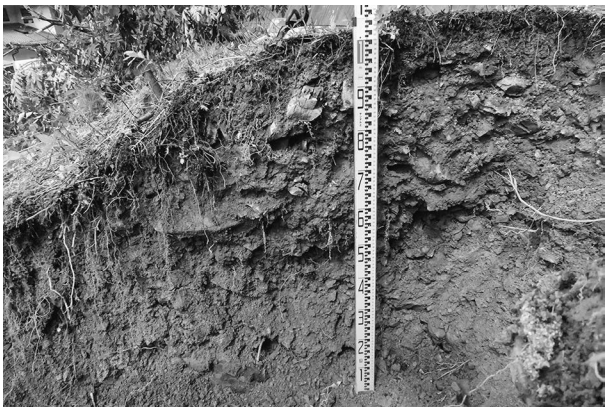


第36図　上郷遺跡試掘土層概念図

1　調査区近景（北から）

2　調査区近景（北から）

3　Ａトレンチ完掘（西から）



4　Ａトレンチ北壁

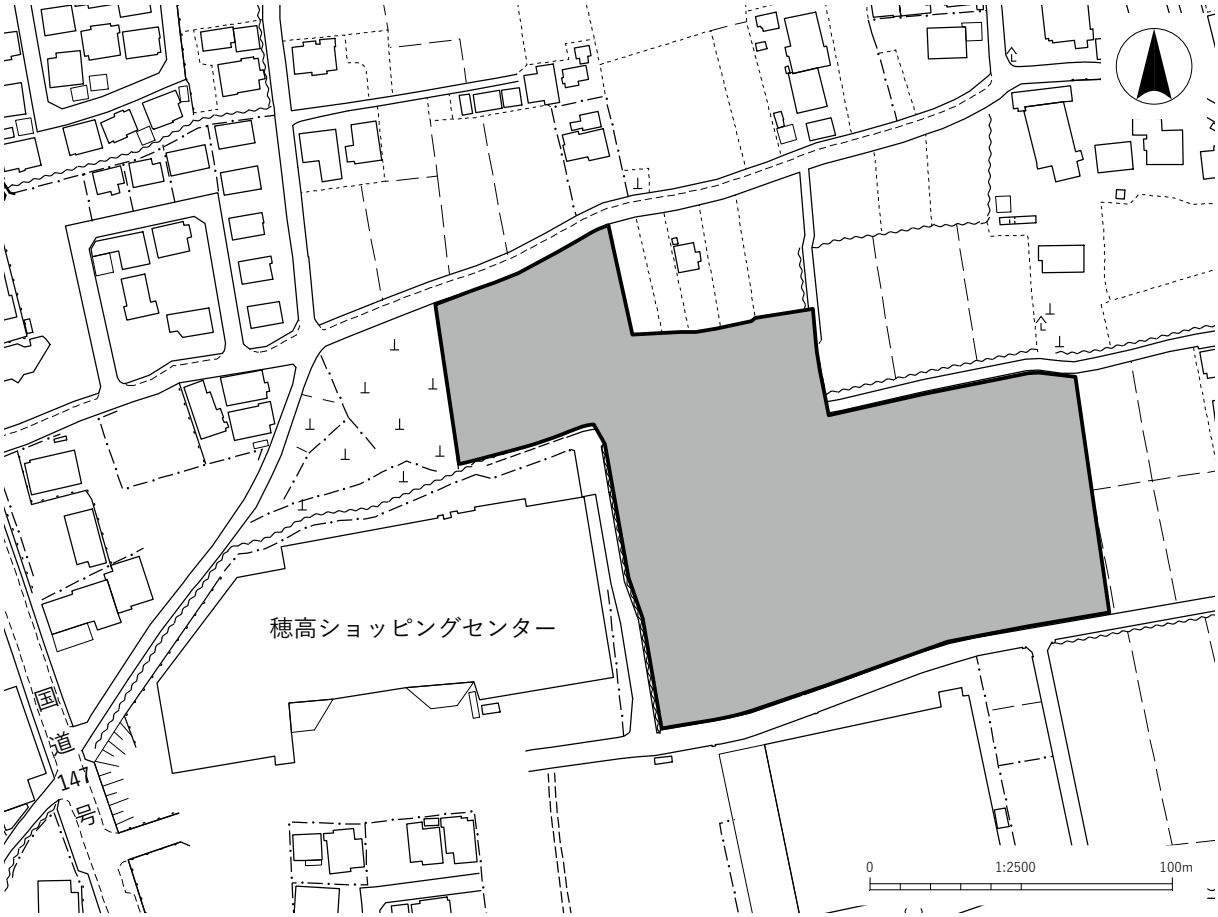
5　Ｂトレンチ完掘（西から）

6　Ｂトレンチ北壁

7　Ｃトレンチ完掘（西から）

8　Ｃトレンチ北壁

9　藤塚遺跡（第１表■ 73）



第37図　藤塚遺跡試掘位置図

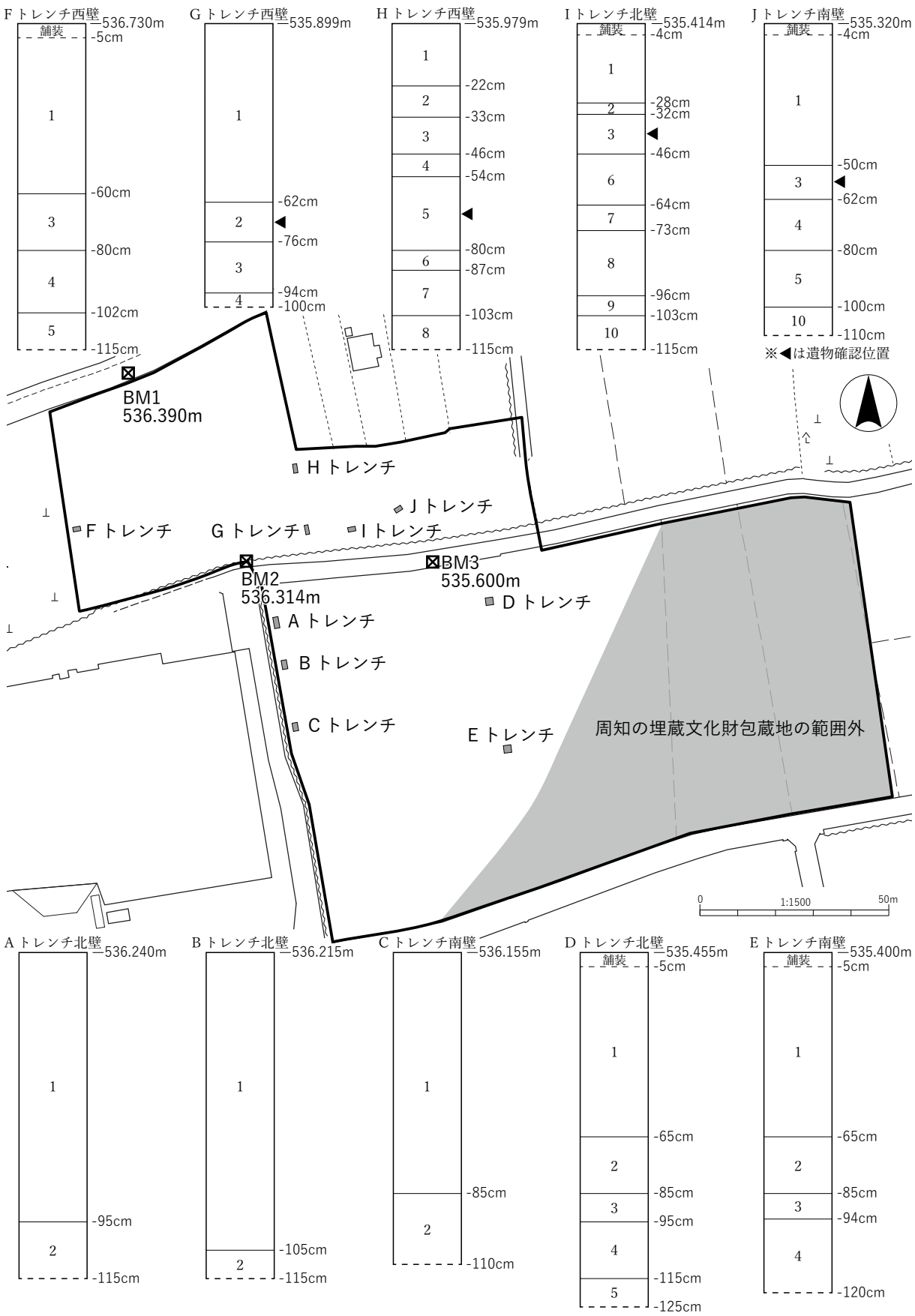
所在地	安曇野市穂高 2390 番 3 の内外 33 筆	調査面積	31㎡
調査期間	令和 3 年（2021）9 月 9 日～令和 3 年（2021）9 月 10 日	調査契機	店舗
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵		

(1) 概要

藤塚（ふじつか）遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地扇央に所在する古墳時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに 2 次の発掘調査を実施し、古墳時代及び奈良・平安時代の集落跡を確認している（穂高町誌編纂委 1991、安曇野市教委 2009）。

今回は、店舗建設に際し計画地に 10 か所のトレンチ（A ～ J トレンチ）を設定して、試掘調査を実施した。調査の結果、G トレンチ第 2 層から弥生土器小片、H トレンチ第 5 層、I トレンチ第 3 層、J トレンチ第 3 層から時期不明の土師器小片が出土したが、いずれも二次堆積による混入と考えられる。また、全てのトレンチで遺構は存在していなかった。

上記のとおり、今回の調査地に埋蔵文化財は存在しないことから、本発掘調査は不要と判断した。



第38図　藤塚遺跡試掘トレンチ配置及び土層図

A～Cトレンチ
1,盛土(造成土)、撹乱
水田耕作土と集積層、
下層シルト層に円礫を
混在させた盛土、造成土
ビニール、プラスチック
ごみ混在
第2層との境にビニール出土
2,10YR5/1褐灰色粘土
しまり弱、粘性中
炭化物粒少量混入
鉄、マンガンの集積斑紋あり
水田耕作土

D・Eトレンチ
1,砕石、盛土(造成土)
駐車場造成土
2,10YR4/1褐色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒少量混入
水田耕作土層
3,10YR3/3暗褐色シルト
鉄、マンガンの斑状集積
径2～5㎜程度の炭化物、
炭化粒混入
4,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
しまり強、粘性強
5,砂礫層
しまり中、粘性中
砂混じりの円礫
河床礫層
ソフト、下部は砂質となる

F・Gトレンチ
1,造成土
Ｆトレンチは砕石主体
Ｇトレンチは褐灰色シルト
粘土ブロック混入
2,10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの斑状集積
径5㎜程度の炭化物、
炭化粒混入
土器小片混在
3,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性中
炭化粒少量混入
4,10YR4/4褐色砂層
5,砂礫層
砂混じりの円礫
河床礫層

Hトレンチ
1,表土
2,10YR6/1褐灰色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒少量混入
水田耕作土層
3,10YR3/1黒褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの集積
第7層シルトブロック混入
4,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性強
鉄、マンガンの集積
径2㎝程度の礫、
径5㎝程度の円礫少量混入
炭化粒混入
5,10YR5/1褐灰色シルト
しまり中、粘性強
小礫径0.1～0.2㎝、
炭化物粒混入
土器片あり
旧水田耕作土層
6,10YR5/2灰黄褐色シルト
しまり弱、粘性強
鉄、マンガンの斑状集積
炭化物粒少量混入
7,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
Ｆ・Ｇトレンチ第3層と同じ
8,10YR4/4褐色砂層
Ｆ・Ｇトレンチ第4層と同じ

I・Jトレンチ
1 ,砕石、盛土(造成土)
Iトレンチは砕石
Jトレンチは砕石と耕作土の盛土
造成土
2 ,10YR6/1褐灰色粘土
しまり強、粘性強
炭化物粒少量混入
水田耕作土層
3 ,10YR3/3暗褐色シルト
しまり強、粘性強
鉄、マンガンの斑状集積
径5㎜程度の炭化物、炭化粒混入
土器片出土
4 ,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
しまり中、粘性中
炭化粒少量混入
5 ,10YR4/2灰黄褐色砂層
6 ,10YR4/4砂礫層
小礫、径5㎝程度の礫を含む
7 ,細粒砂層
8 ,粗粒砂層
9 ,細粒砂層
10,砂礫層
Ｆ・Ｇトレンチ第5層と同じ

第39図　藤塚遺跡試掘土層注記

1　Ａ～Ｅトレンチ調査前（北から）

2　Ｆ～Ｊトレンチ調査前（北から）

3　Ａトレンチ北壁

4　Ｂトレンチ北壁

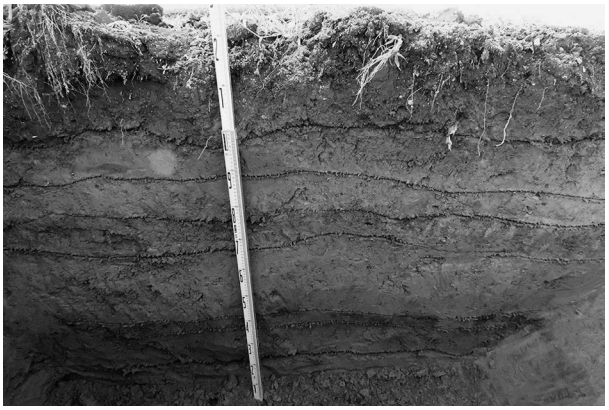
5　Ｃトレンチ南壁

6　Ｄトレンチ北壁

7　Ｅトレンチ南壁

8　Ｆトレンチ西壁

9　Ｇトレンチ西壁



10　Ｈトレンチ西壁

11　Ｉトレンチ北壁

12　Ｊトレンチ北壁

10　ほうろく屋敷遺跡（第１表■74）

第40図　ほうろく屋敷遺跡試掘位置図

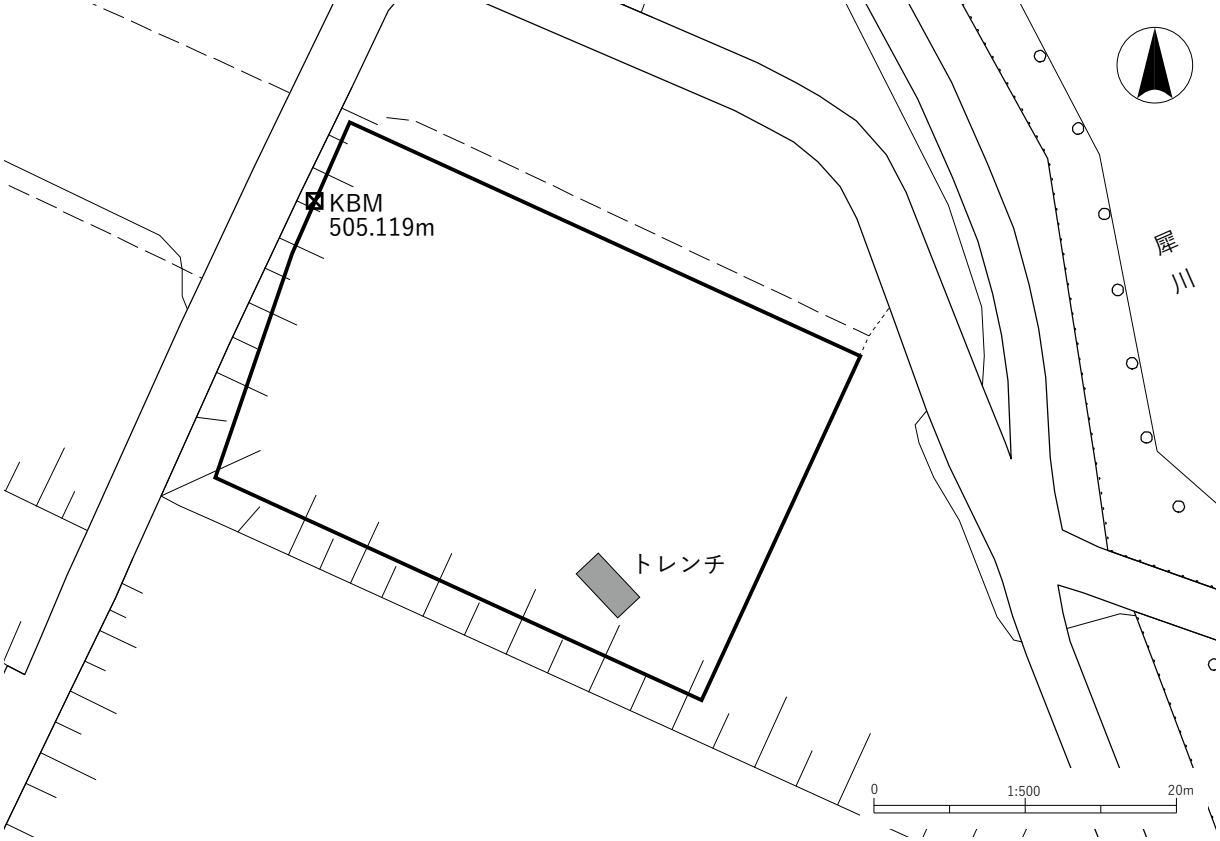
所在地	安曇野市明科南陸郷 3326 番 1	調査面積	8㎡
調査期間	令和３年（2021）９月 10 日	調査契機	索道基礎
調査参加者	土屋和章、田多井智恵		

(1) 概要

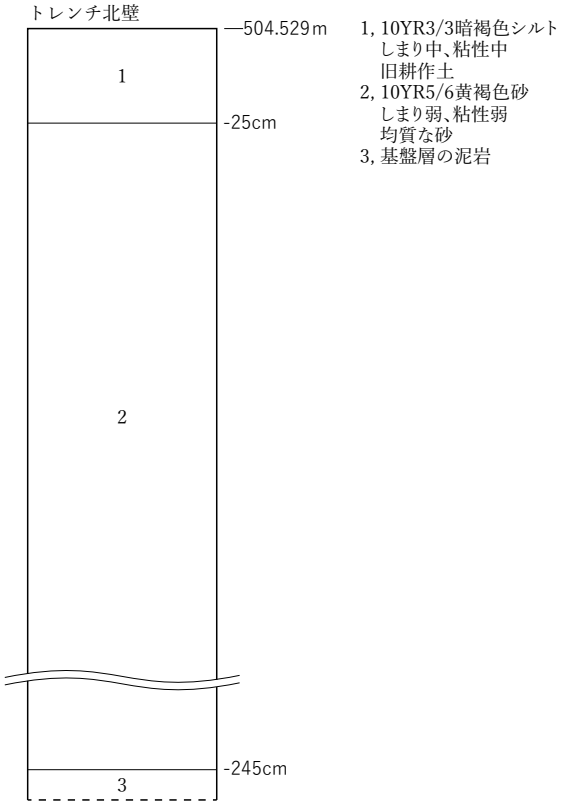
ほうろく屋敷（やしき）遺跡は、犀川（さいがわ）左岸の河岸段丘上に広がる縄文時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに５次の発掘調査を実施し、縄文･平安時代の集落跡、弥生時代の再葬墓を確認している（明科町教委 1991、安曇野市教委 2019a）。

今回は索道基礎の設置に際して、予定位置にトレンチを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、表土である耕作土（第１層）の下位は約 220cm の厚みをもつ均質な砂（第２層）で、深度 245cm 付近で基盤の泥岩に達する。このうち第２層を精査したが、遺構・遺物は存在していなかった。

上記の結果から、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。



第41図　ほうろく屋敷遺跡試掘トレンチ配置図

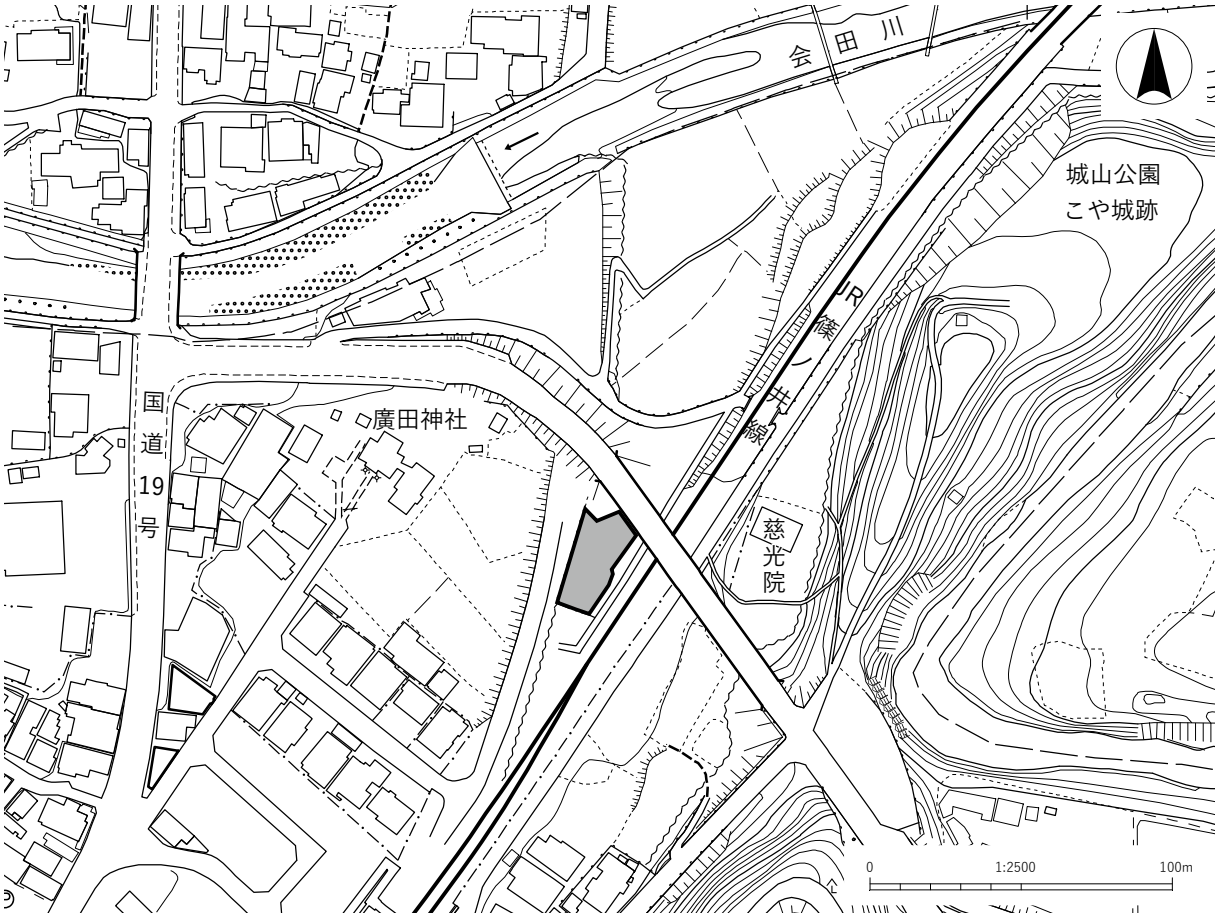


第42図　ほうろく屋敷遺跡試掘土層概念図

1　調査地遠景（南東から）

2　トレンチ北壁

11　明科遺跡群栄町遺跡（第１表■78）



第43図　栄町遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市明科中川手 4111 番１外４筆	調査面積	3㎡
調査期間	令和３年（2021）９月 22 日	調査契機	太陽光発電施設
調査参加者	斉藤雄太、臼居直之、田多井智恵		

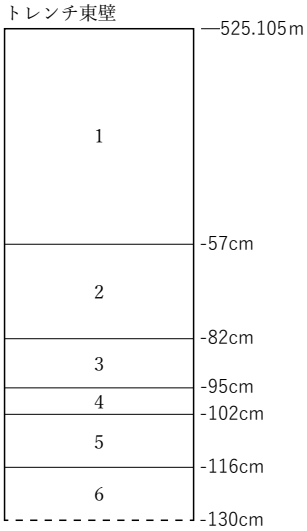
(1) 概要

明科遺跡群栄町遺跡（以下、「栄町遺跡」とする。）は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに４次にわたる発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡の様子が明らかになりつつある（安曇野市教委 2014）。

今回は太陽光発電施設建設に際し、浸透桝設置位置にトレンチを設定して試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位に炭化物を包含する粘土（第２～５層）、その下位にシルト（第６層）が残存していた。これらの層を精査したが、いずれの層にも遺構・遺物は存在していなかった。

上記の結果から、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。

第44図　栄町遺跡試掘トレンチ配置図



1,造成土、耕作土
　上部は客土の耕作土
　下部に隣接鉄道敷設の際の掘削礫
2,10YR4/1褐灰色粘土
　しまり強、粘性強
　径5㎜程度の炭化物、炭化物粒が多量に混入
3,10YR4/3にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　砂粒、炭化物粒混入
　明黄褐色粘土ブロックが縞状に混入
4,10YR4/1褐灰色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物、炭化物粒が多量に混入
　第2層に比べて少ない
5,10YR5/1褐灰色粘土
　しまり強、粘性強
　10YR7/6明黄褐色粘土ブロック混在
　炭化物粒混入
6,10YR6/6明黄褐色シルト
　しまり弱、粘性中
　砂粒、小円礫混入、炭化物粒が少量混入
　下部は砂礫層

第45図　栄町遺跡試掘土層概念図

1　調査地全景（北から）

2　トレンチ東壁

12　三枚橋遺跡（第１表■ 88・● 165）

第46図　三枚橋遺跡試掘位置図

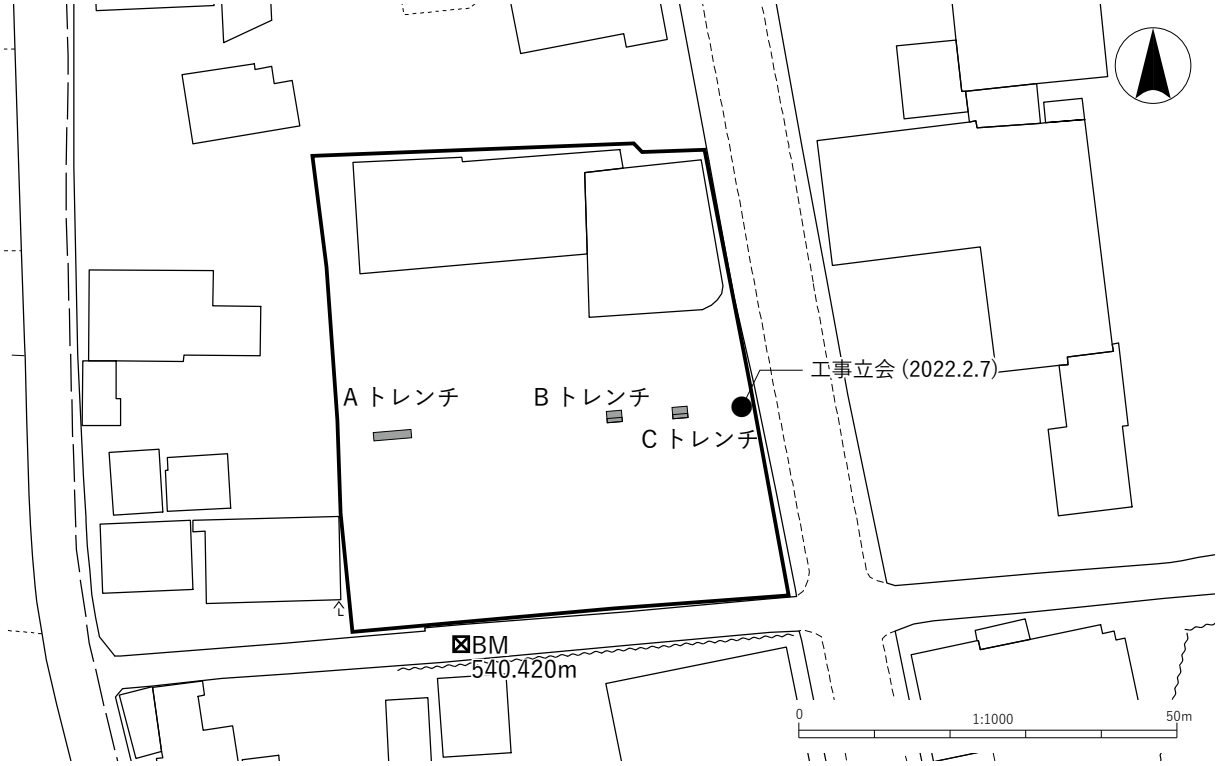
所在地	安曇野市穂高 1451 番 8 外 1 筆	調査面積	12㎡
調査期間	令和 3 年（2021）10 月 11 日	調査契機	工場ほか
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵		

(1) 概要

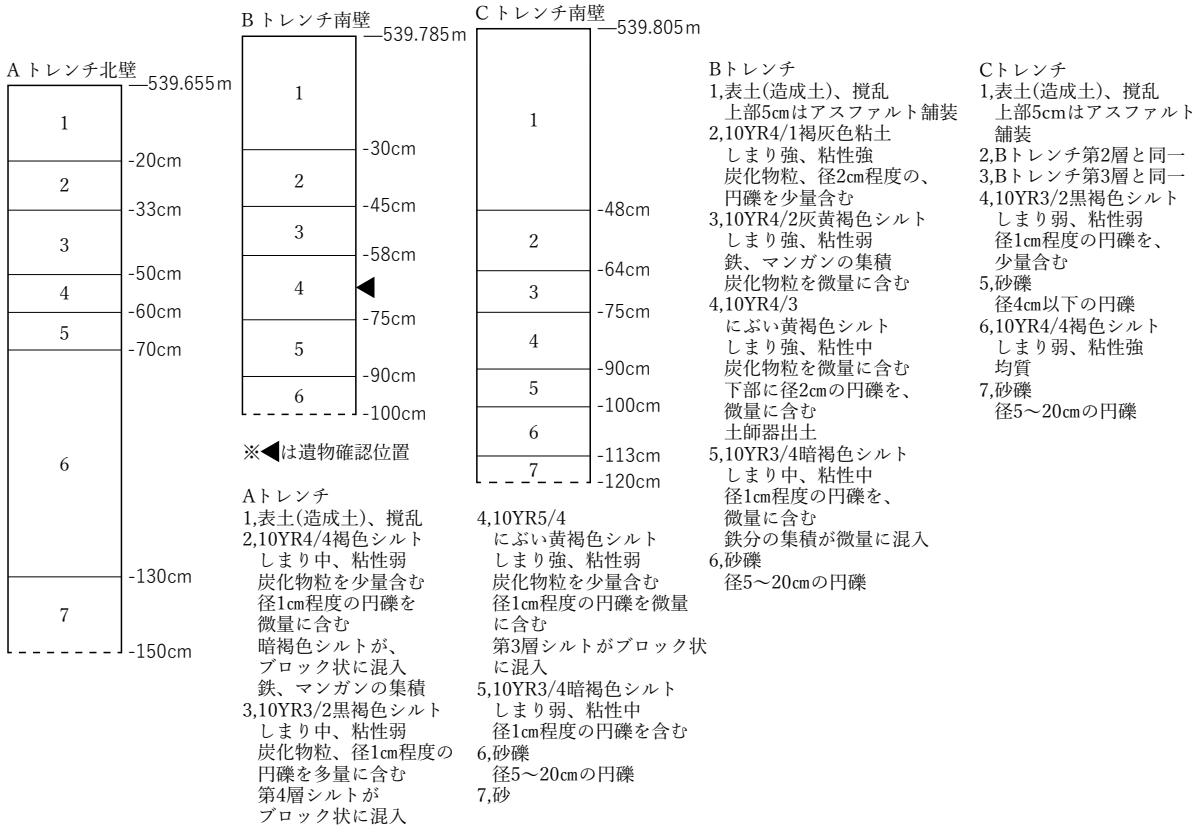
三枚橋（さんまいばし）遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地扇央に所在する弥生時代～中世の集落跡である。この遺跡では、これまでに７次にわたる発掘調査を実施しており、弥生時代及び奈良・平安時代の集落跡の様子が明らかになりつつある（安曇野市教委 2020）。

今回は自動車整備工場等の建設に際し、3 か所にトレンチ（A ～ C トレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土下位にはシルト・粘土が残存しており、B トレンチ第 4 層から古墳時代中～後期の土師器小片が出土した。このため、遺構の検出を試みたが、いずれのトレンチにも遺構は存在しなかった。また、A トレンチ第 6 層、B トレンチ第 6 層及び C トレンチ第 7 層は、扇状地の基盤堆積物とみられ、これより下位に埋蔵文化財は存在しないと考えられる。上記の結果から、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。

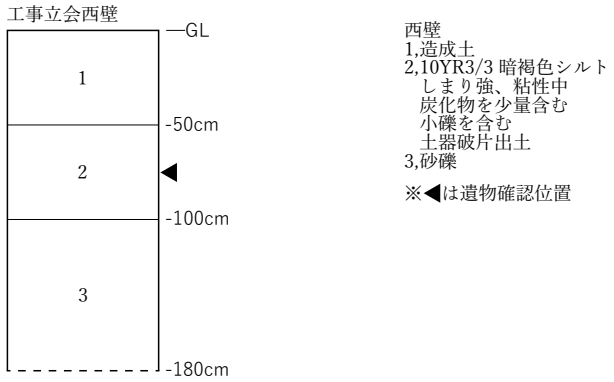
なお、施工に際し令和 4 年（2022）2 月 7 日に工事立会を実施し、第 2 層から外面がハケメ調整の土師器甕が出土した（第 50 図 2）。



第47図　三枚橋遺跡試掘トレンチ配置図



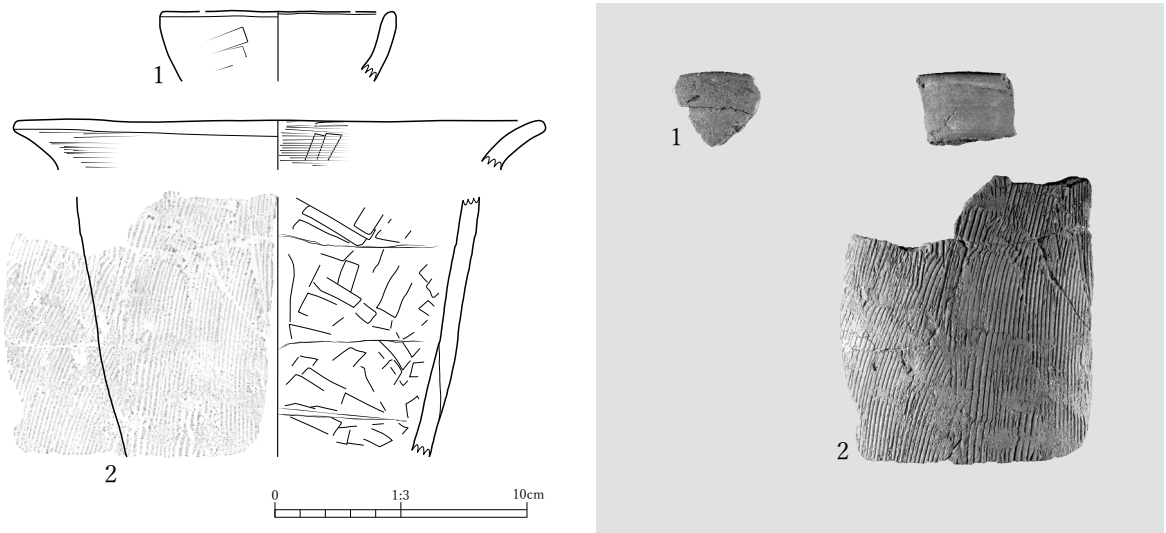
第48図　三枚橋遺跡試掘土層概念図



第49図　三枚橋遺跡工事立会土層概念図

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年10月14日	３文第1701号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年10月22日	３教文第20-60号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年４月25日	４文第373号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年５月６日	４教文第24-4号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第50図　三枚橋遺跡試掘・工事立会出土遺物

第６表　三枚橋遺跡試掘・工事立会出土遺物観察表

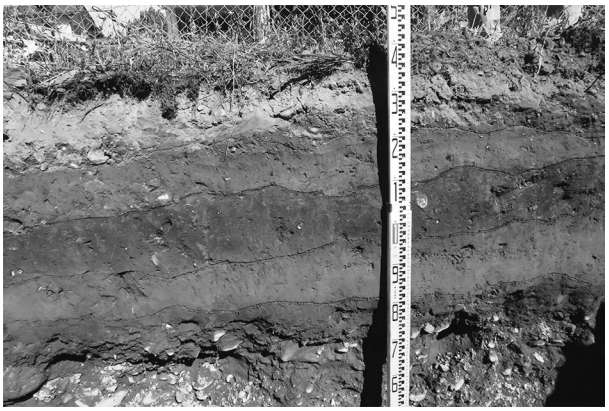
No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ｂトレンチ	第４層	土師器	埦	口縁部～体部	9.4	—	不明	—	2.8	残	ナデ	ナデ	不明	
2	立会浸透桝	—	土師器	甕	口縁部～頚部、体部	21.2	—	不明	—	2.0	残	ナデ＋ハケメ	ナデ＋ハケメ	不明	

試掘・工事立会で出土した遺物２点を資料化した。

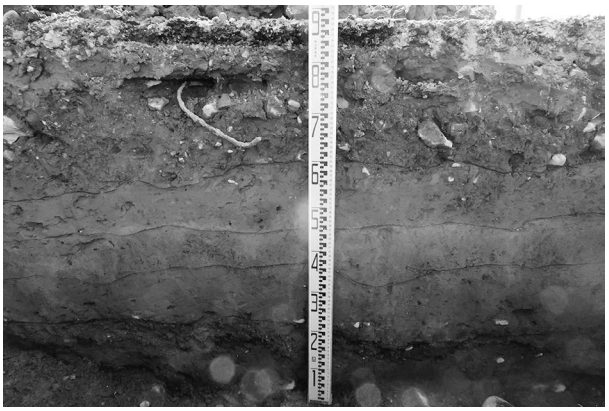
１は、土師器埦である。赤褐色を呈する胎土でつくられており、内外面ともに丁寧なナデを施している。胎土に長石などを含む。２は、土師器甕である。器形は長胴で口縁部が強く外反する。体部内面は粗いナデ調整で、輪積み痕が残っている。内外面ともに赤褐色で、長石などの白色の礫を少量含む。

１　調査地近景（南東から）

２　調査地近景（南西から）



３　Ａトレンチ北壁

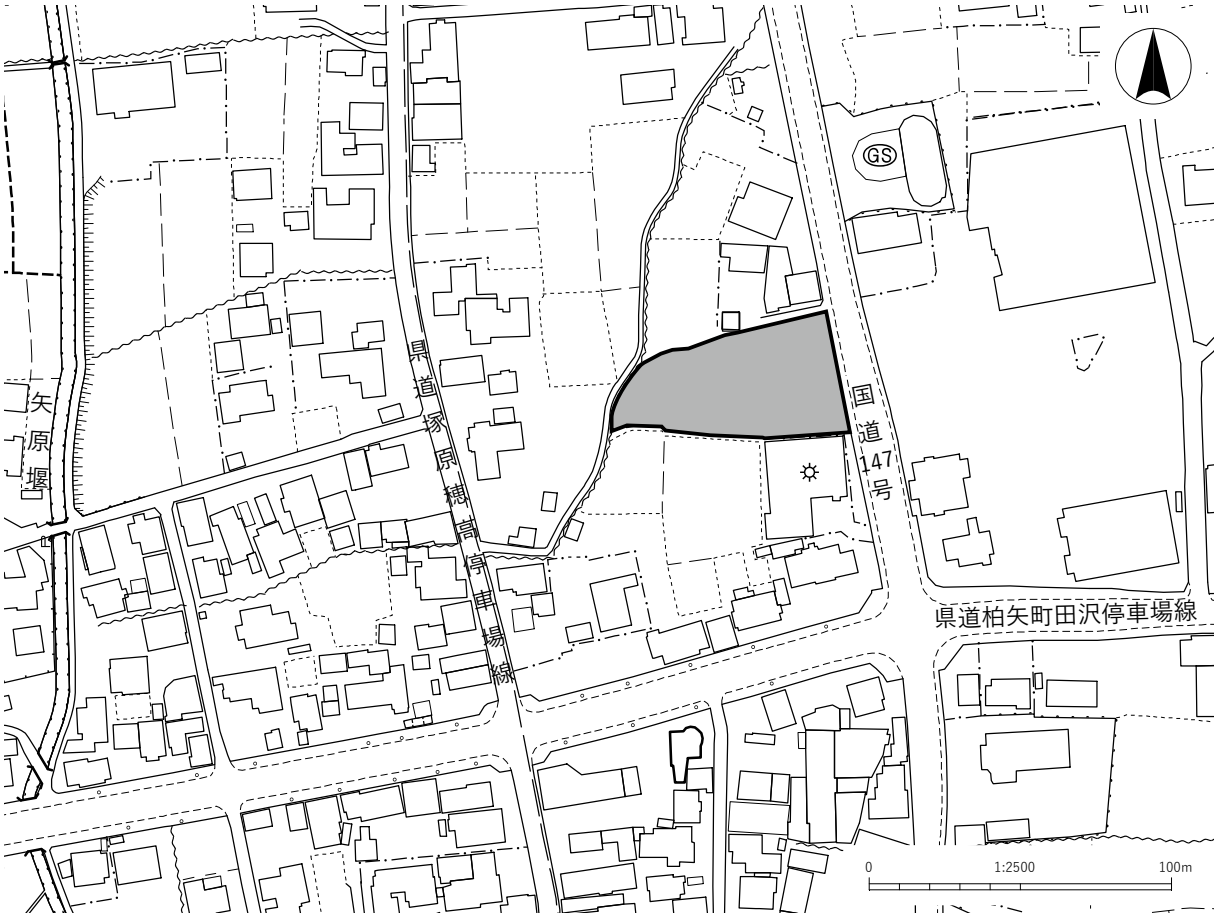


４　Ｂトレンチ南壁

５　Ｃトレンチ南壁

６　工事立会（南から）

13　矢原五輪畑遺跡（第１表■ 106）



第51図　矢原五輪畑遺跡試掘位置図

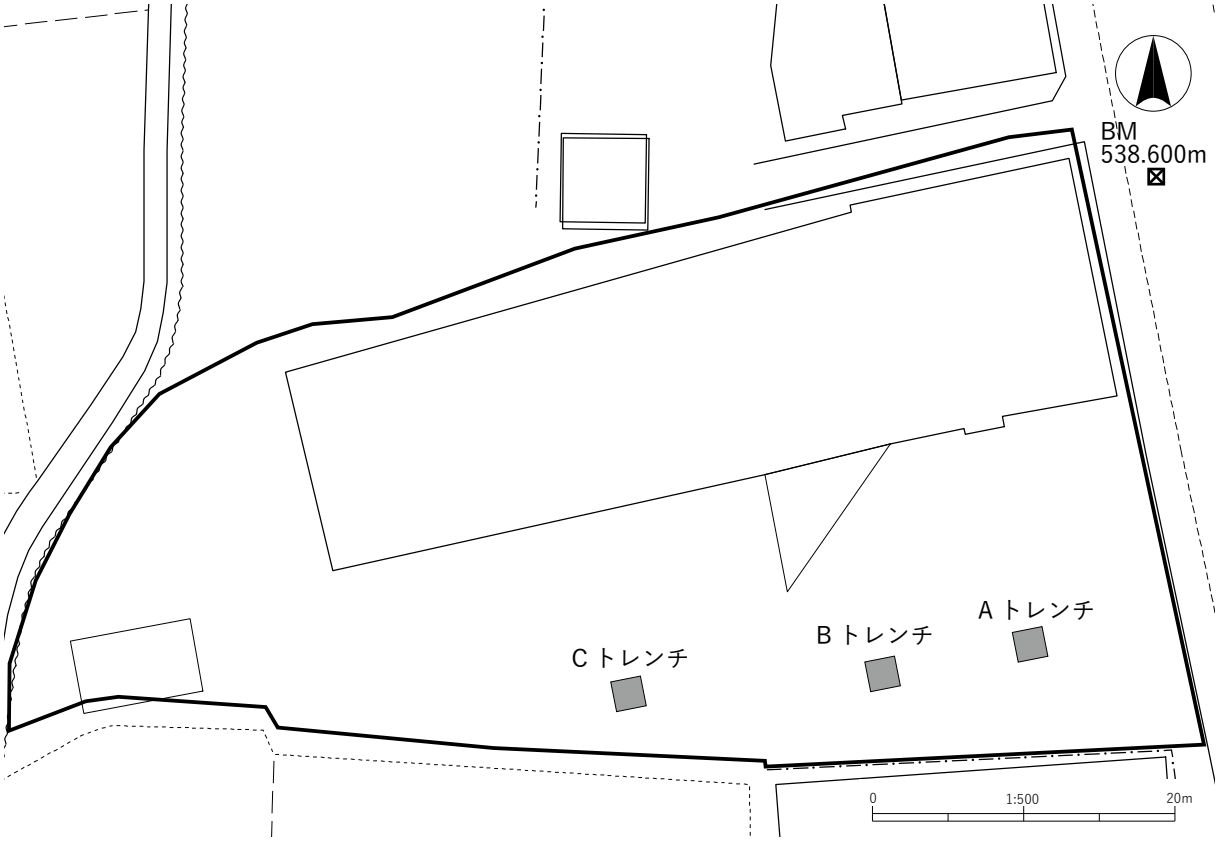
所在地	安曇野市穂高 985 番１外３筆	調査面積	12㎡
調査期間	令和３年（2021）11 月 16 日	調査契機	カーポート
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

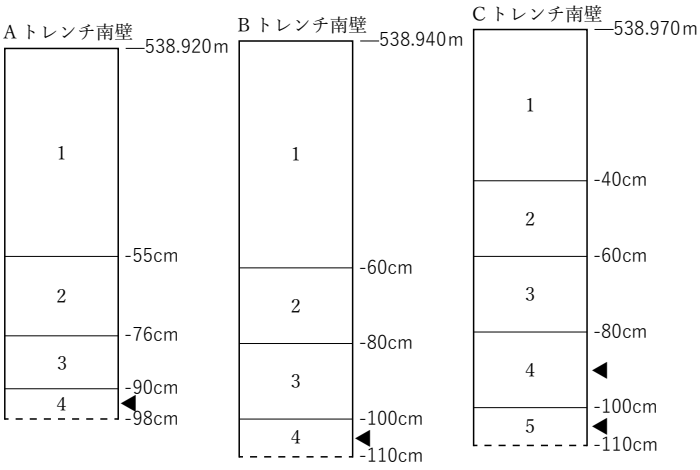
矢原五輪畑遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査（未報告）を実施しており、当該期の集落跡の様子が明らかになりつつある。

今回は店舗用カーポートの建設に際し、３か所にトレンチ（Ａ～Ｃトレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土の下位にはシルト（第２～４層）が残存しており、Ａトレンチ第４層、Ｂトレンチ第４層、Ｃトレンチ第４･５層から、土師器小片及び須恵器小片が少量出土した。このため、遺構の検出を試みたが、いずれのトレンチにも遺構は存在しなかった。遺物出土状況及び過去の調査結果から、調査地付近の遺構等の深度はおおむね 100cm 以深とみられる。

上記の結果から、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。



第52図　矢原五輪畑遺跡試掘トレンチ配置図



※◀は遺物確認位置

Aトレンチ
1,アスファルト舗装
　砕石、造成土
2,10YR3/2黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物粒、
　径1cm程度の円礫を、
　ごく少量含む
　鉄、マンガンの集積
3,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物粒、
　径1cm程度の円礫を
　ごく少量含む
　鉄、マンガンの集積
4,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物粒、
　径1cm程度の円礫を
　ごく少量含む
　鉄、マンガンの集積
　(第2・3層よりも濃い)
　第3層との境界は漸移的
　土師器小片、須恵器
　小片が出土

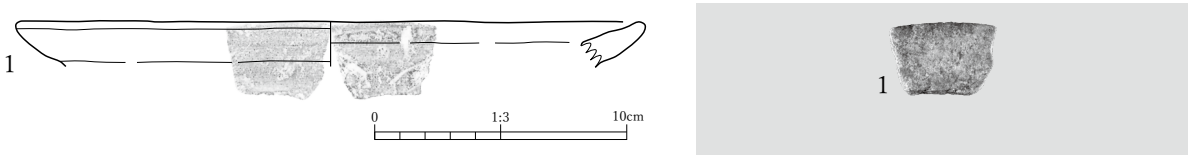
Bトレンチ
1,アスファルト舗装
　砕石、造成土
2,Aトレンチ第2層と同一
3,Aトレンチ第3層と同一
4,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性中
　径1cm程度の炭化物を含む
　鉄、マンガンの集積
　(第2・3層よりも濃い)
　第3層との境界は漸移的
　土師器小片出土

Cトレンチ
1,アスファルト舗装
　砕石、造成土
2,撹乱
　第3層との境界に鉄分
3,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性弱
　炭化物粒、
　径1cm程度の亜角礫を
　ごく少量含む
　鉄、マンガンの集積
4,10YR4/2灰黄褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物粒をごく少量含む
　径2cm程度の円礫を
　少量含む
　鉄、マンガンの集積
　(第3層よりも濃い)
　土師器小片出土
5,10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　径2cm以下の円礫
　土師器小片出土

第53図　矢原五輪畑遺跡試掘土層概念図

（2）遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和３年 11 月 19 日	３文第 1987 号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和３年 11 月 25 日	３教文第 20-68 号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年６月 20 日	４文第 880 号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年６月 29 日	４教文第 24-5 号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第54図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物

第７表　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ａトレンチ	第４層	土師器	甕	口縁部～頚部	25.0	復	不明	―	1.8	残	ナデ	ナデ	不明	

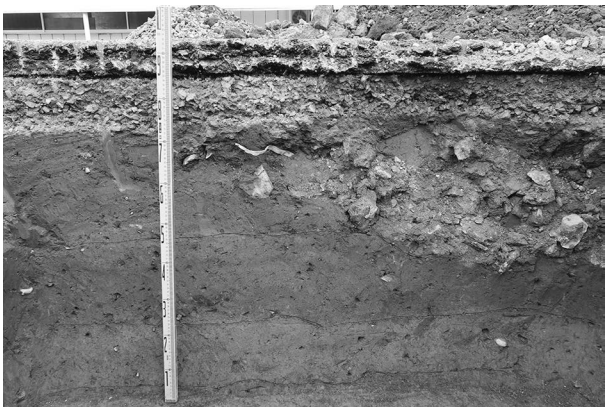
試掘で出土した遺物１点を資料化した。

１は、土師器甕の口縁部で、内外面ともナデ調整している。口縁は強く外反し、欠損している体部は長胴になると推測できる。外面は灰黄褐色、内面は黄褐色を呈し、胎土に礫を多く含む。器面は摩耗が強い。

1　調査地近景（北東から）

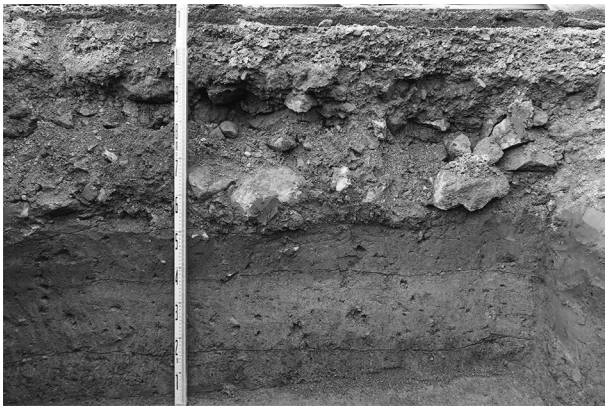
2　調査地近景（西から）

3　Ａトレンチ完掘（北から）



4　Ａトレンチ南壁

5　Ｂトレンチ完掘（北から）

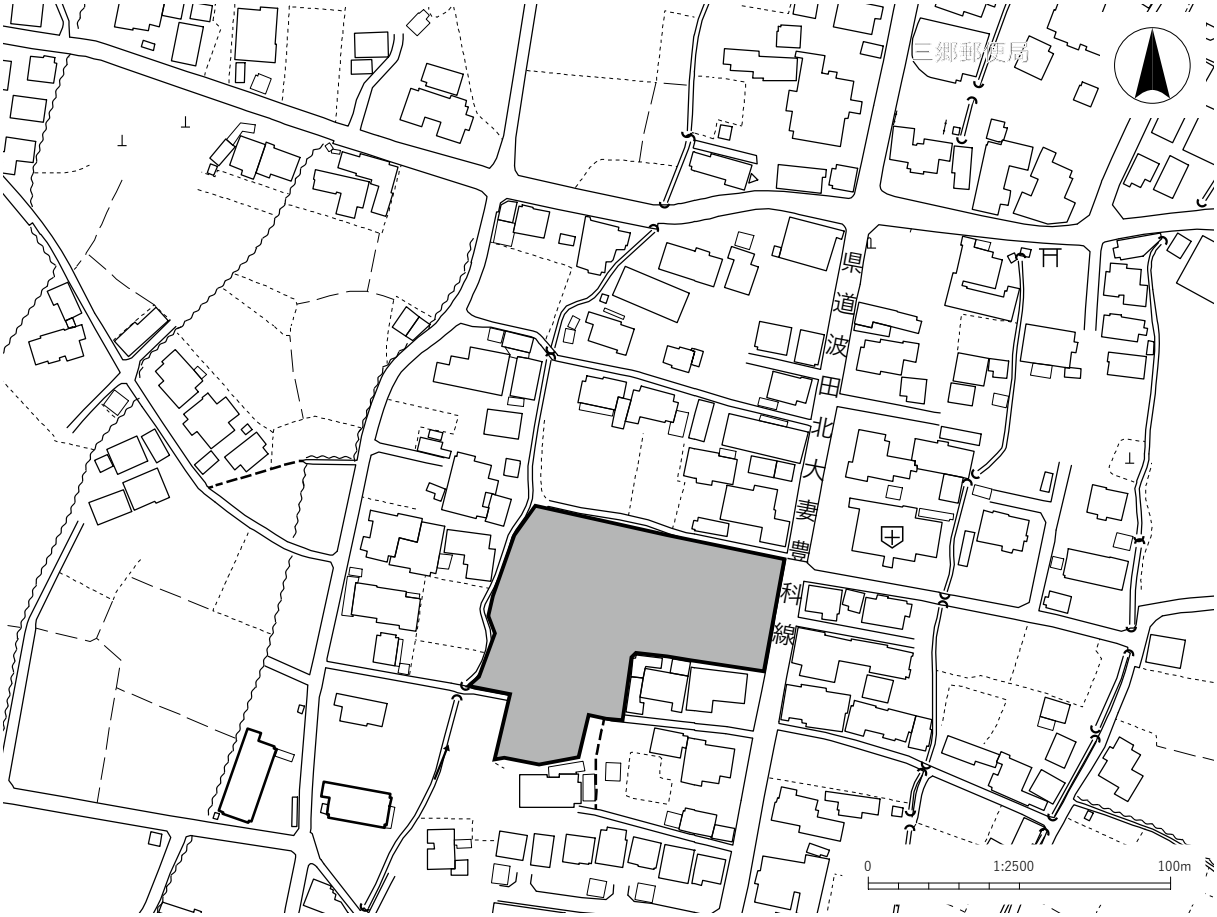


6　Ｂトレンチ南壁

7　Ｃトレンチ完掘（北から）

8　Ｃトレンチ南壁

14　一日市場郵便局南遺跡（第１表■ 129）



第55図　一日市場郵便局南遺跡試掘位置図

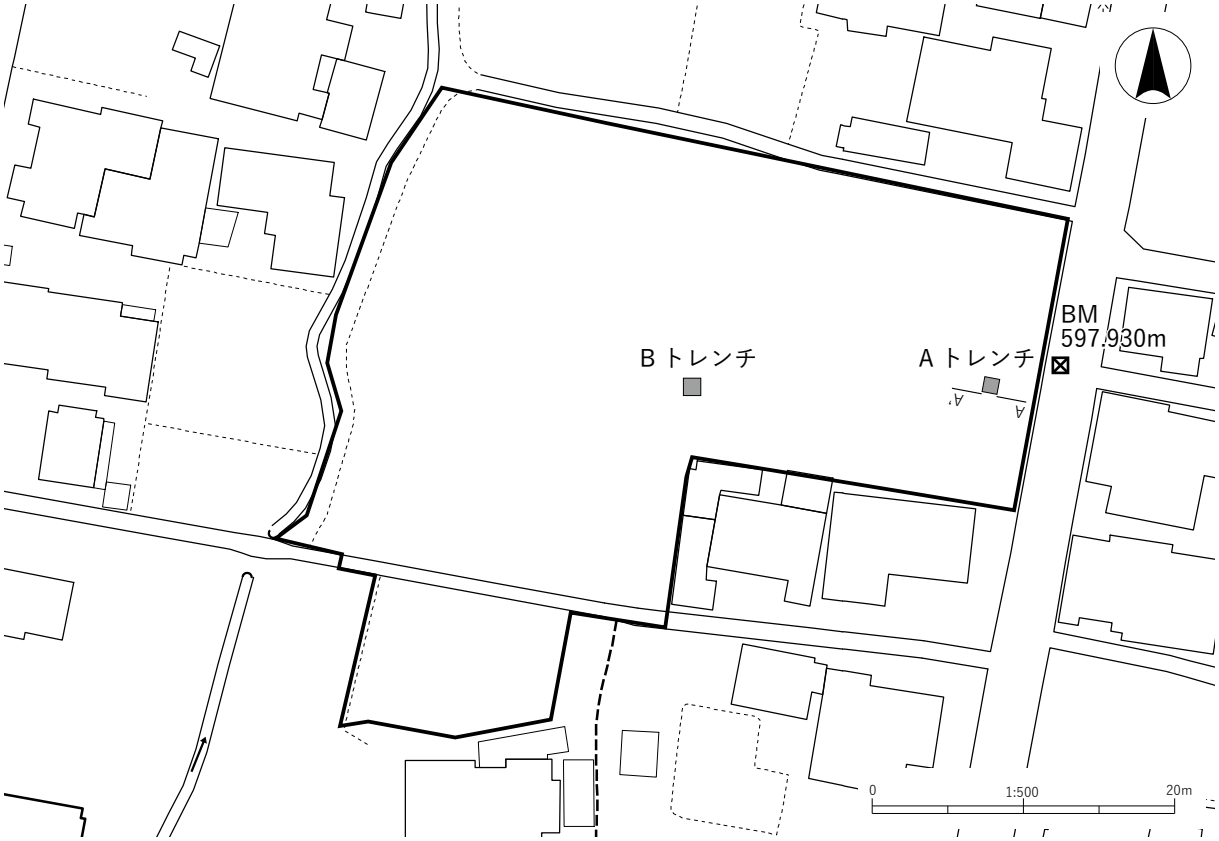
所在地	安曇野市三郷明盛 1666 番１外８筆	調査面積	9㎡
調査期間	令和４年（2022）１月 13 日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

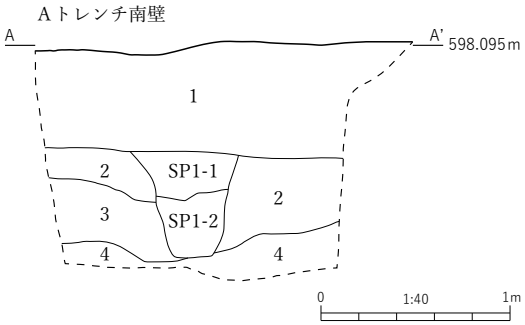
一日市場郵便局南遺跡は、梓川扇状地の丸田面に所在する縄文時代の散布地である。この遺跡では、これまでに本格的な発掘調査を実施した記録はない。

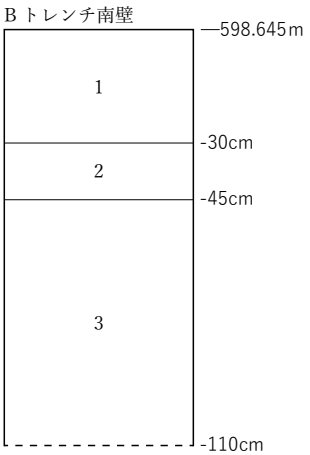
今回は宅地造成に際し、浸透桝設置位置のうち２か所にトレンチ（A・B トレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、A トレンチで近世以降の便槽とみられるピット（SP1）を検出したほか、第２層で近代以降の陶磁器が出土し、第３層にて天保７年（1836）に一日市場で発生した大火の痕跡と推定できる炭化物を検出した。また、B トレンチは、いずれの層にも埋蔵文化財は存在していなかった。

A トレンチ第４層及び B トレンチ第３層以深は基盤の砂礫層であり、これより上位の層で中世以前の埋蔵文化財は存在しなかったため、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。



第56図　一日市場郵便局南遺跡試掘トレンチ配置図





Aトレンチ
1, 撹乱
2,10YR3/1 黒褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　径3～5㎝の円礫多量混入
　炭化物粒混入
　近代以降の陶磁器出土
3,10YR2/1 黒色粘土
　しまり弱、粘性中
　炭化物混入
　焼土粒混入
4,10YR3/4 暗褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　小礫から径20～30㎝の大型礫、
　砂、シルト混在

Aトレンチ SP1
1,10YR3/4 暗褐色細砂
　しまり無、粘性無
　褐色シルトブロック混入
2,10YR3/1 黒褐色粘土
　しまり弱、粘性弱
　径10㎝程度の礫混入
　SP1-1 の細砂混入
　炭化物粒混入

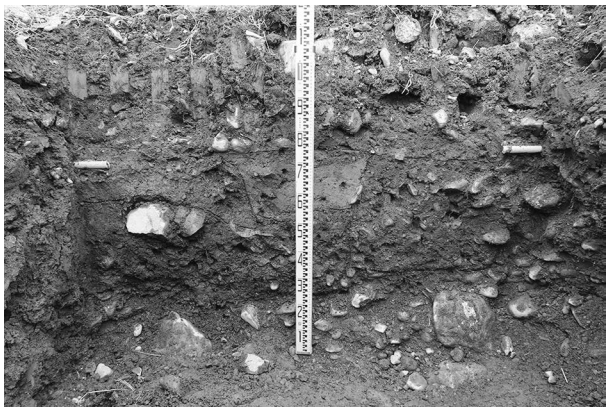
Bトレンチ
1,10YR3/1 黒褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　炭化物粒少量混入
　耕作土
2,10YR3/3 暗褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　鉄、マンガン集積層
　褐色シルトブロック、
　径1㎝程度の円礫、炭化物粒混入
3,10YR4/4 褐色砂礫
　しまり弱、粘性弱
　径20～30㎝の大型礫から小礫主体
　砂、シルト混在
　炭化粒少量混入

第57図　一日市場郵便局南遺跡試掘土層図

1　調査地近景（東から）

2　調査地近景（西から）

3　Ａトレンチ完掘（北から）



4　Ａトレンチ南壁

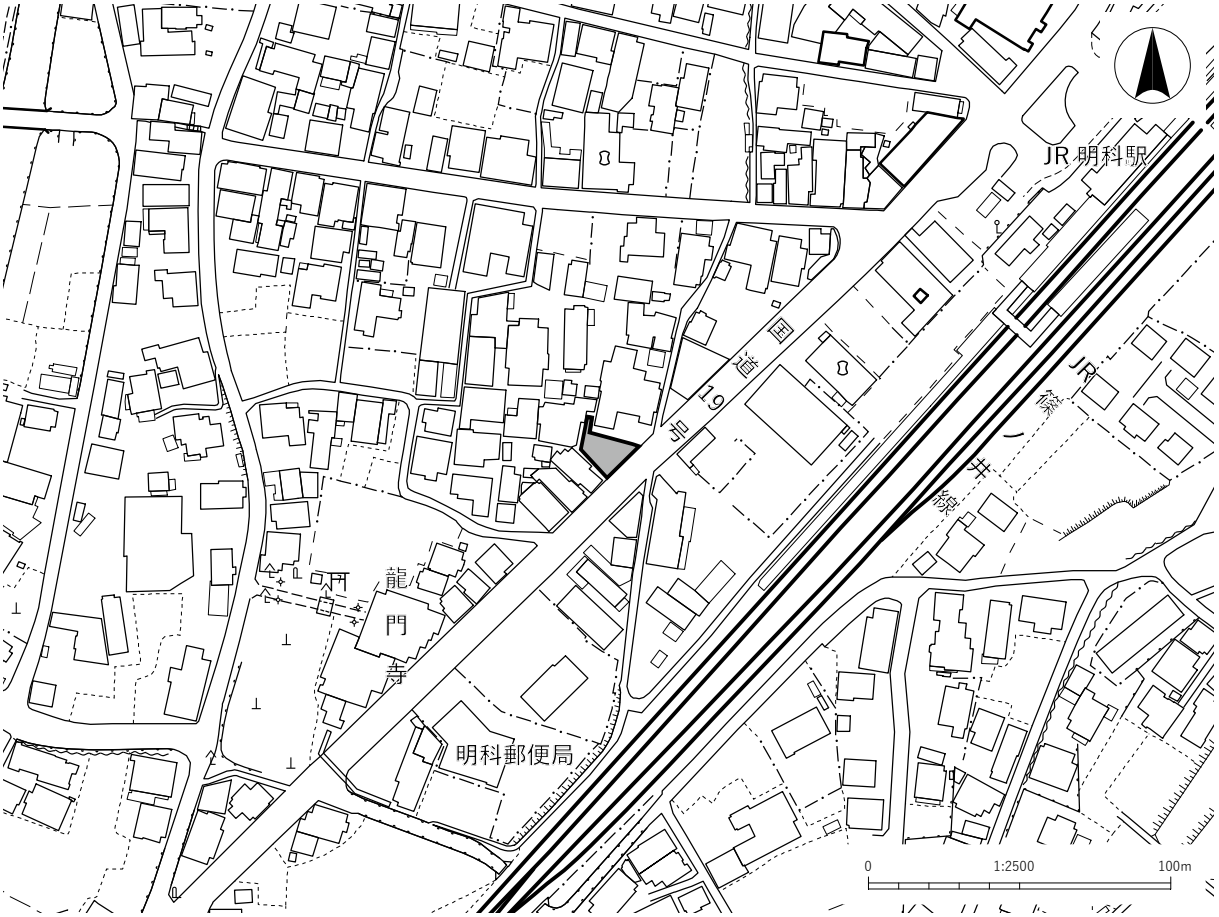
5　Ａトレンチ炭化物出土状況

6　Ａトレンチ調査後近景（西から）

7　Ｂトレンチ完掘（西から）

8　Ｂトレンチ南壁

15　明科遺跡群明科廃寺（第１表■ 133）



第58図　明科廃寺試掘位置図

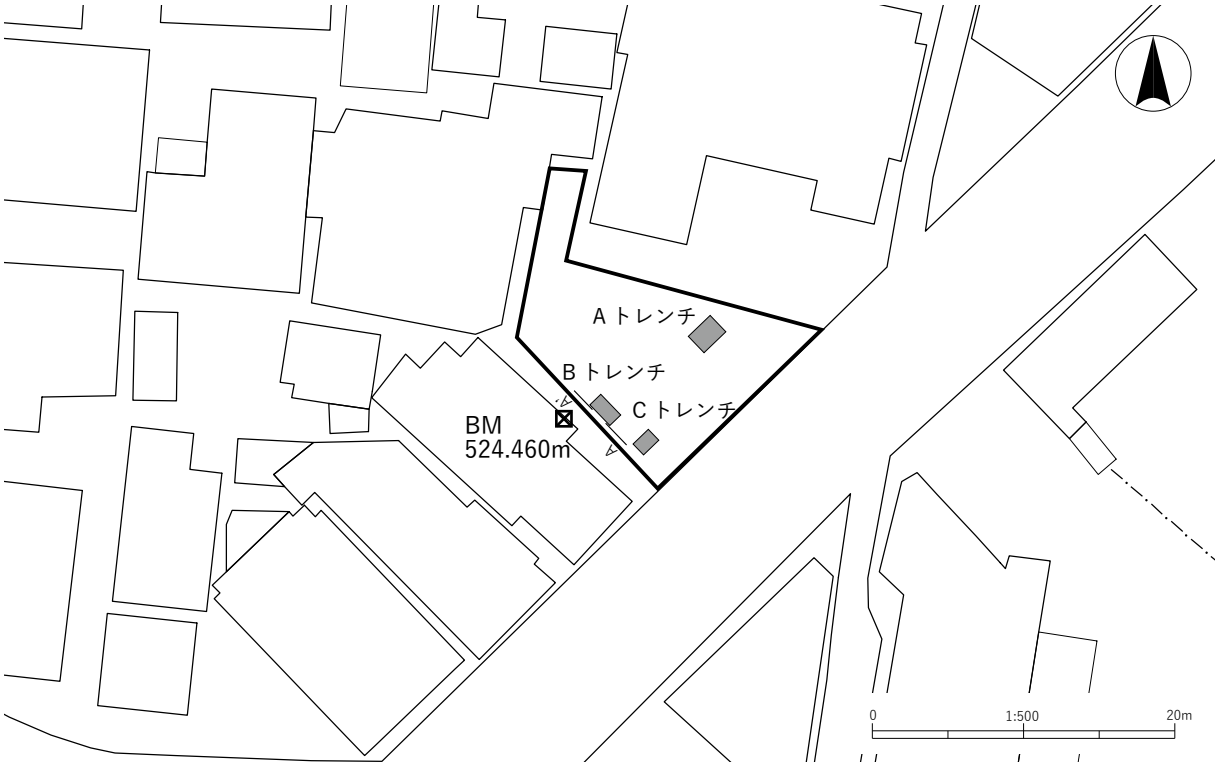
所在地	安曇野市明科中川手 3773 番 3	調査面積	5㎡
調査期間	令和４年（2022）１月 19 日	調査契機	道路、個人住宅
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

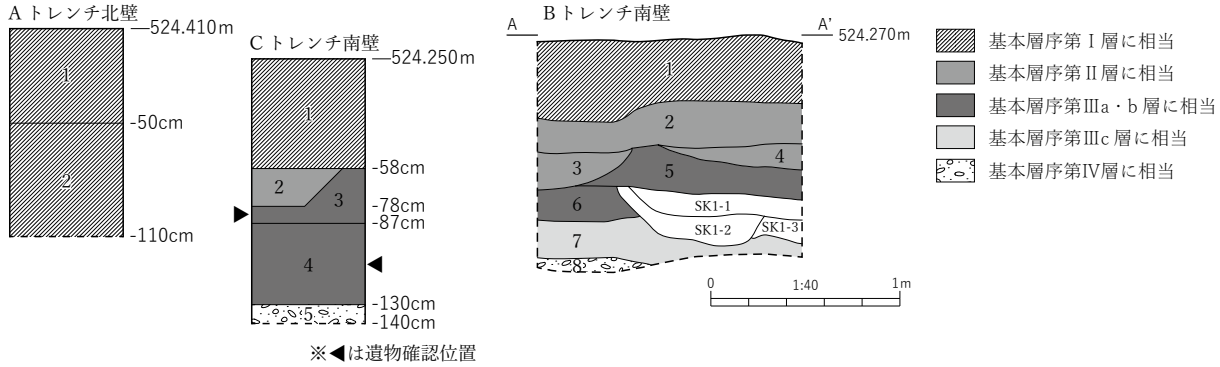
明科遺跡群明科廃寺（以下、「明科廃寺」とする。）は、犀川右岸段丘上に所在し、白鳳時代創建とされる寺院跡である。この遺跡では、これまでに５次の発掘調査を実施している（明科町教委 2000、安曇野市教委 2017）。これらの調査によって、第Ⅰ～Ⅵ層の基本層序を確認しており、古墳～平安時代の遺構・遺物は第Ⅲａ～ｃ層で検出でき、第Ⅳ層を掘り込んでいることがわかっている。

今回は個人住宅建設及び国道 19 号への歩道設置に際し、３か所にトレンチ（Ａ～Ｃトレンチ）を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、Ｂ・Ｃトレンチで明科廃寺基本層序第Ⅲａ～ｃ層に対応する土層を確認し、古代瓦、須恵器、土師器の破片が出土した。また、Ｂトレンチ第６層上面において土坑（SK1）を検出した。

上記の結果から、個人住宅建設に際しては掘削深度が包含層に及ばないため本発掘調査は不要であるが、歩道設置においては、協議を継続する必要があると判断した。



第59図　明科廃寺試掘トレンチ配置図



Ａトレンチ
1, 撹乱
2, 現代の便槽
　コンクリート壁、床
　内部に砂、陶管
　アンモニア臭あり

Ｃトレンチ
1, 造成土（撹乱）
2,10YR3/3 暗褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　黄褐色粘土ブロック炭化粒混入
3,10YR3/3 暗褐色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化粒少量混入
　径 2cm 程度の礫微量混在
　部分的に焼土だまりと、白灰
　がバンド状に堆積
　下部より瓦が多量に出土
4,10YR3/4 暗褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　炭化物、 小礫を混入
　瓦、土器等遺物が重なり、
　層をなして出土
　瓦の廃棄だまり
5,10YR4/6 褐色シルト
　しまり弱、粘性無
　粗砂を主体として混入、
　炭化物、遺物出土はない

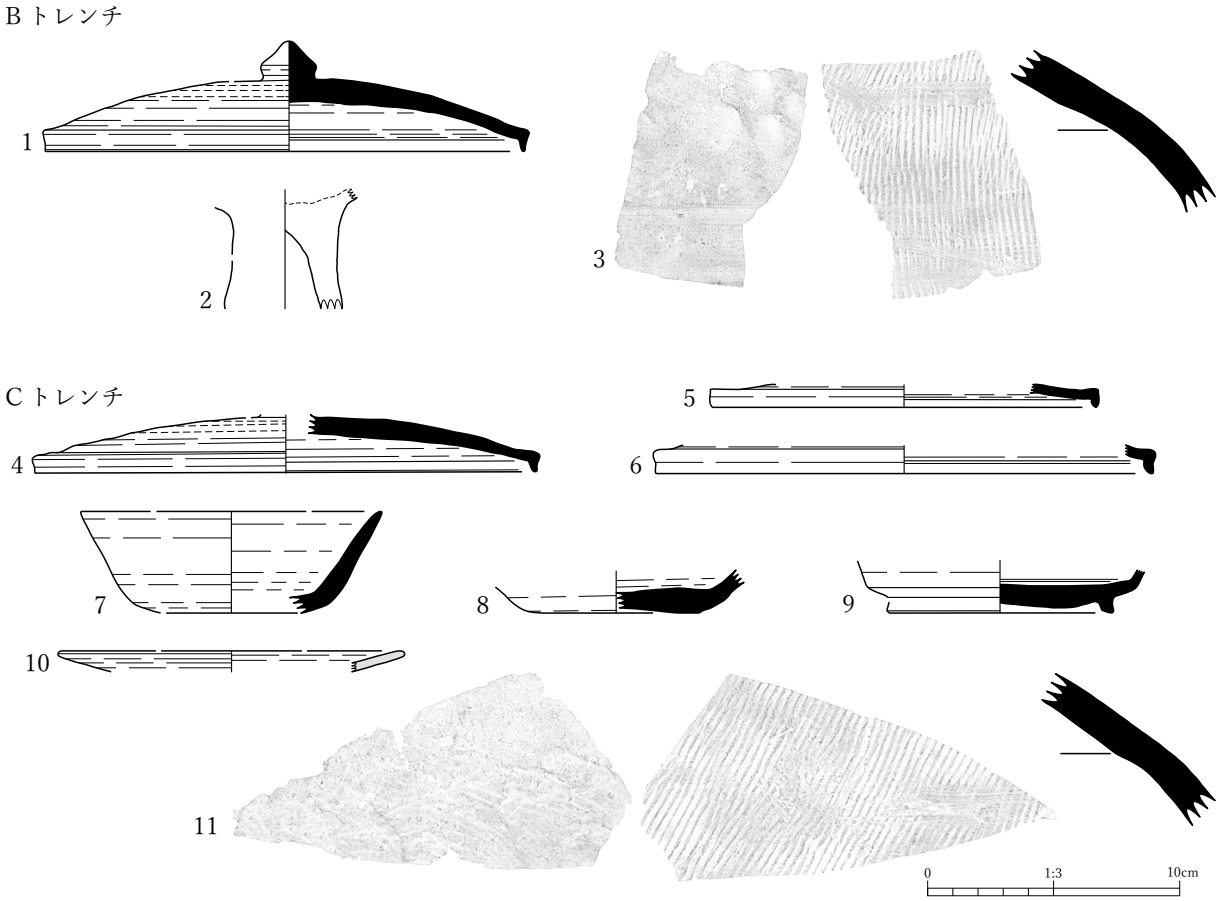
Ｂトレンチ
1, 造成土（撹乱）
2,10YR５/３にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　部分的に 10YR5/1 褐色粘土が、
　バンド状に入り、
　鉄、マンガンの集積がある
3,10YR３/４暗褐色粘土
　しまり弱、粘性強
　第２層黄褐色粘土ブロックと、
　径２～４cm の礫混入
4,10YR３/３暗褐色粘土
　しまり強、粘性強
　第２層黄褐色粘土ブロック、
　炭化粒混入
5,10YR３/２黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径１～２cm 程度の礫、
　炭化物粒混入
　瓦の小片出土
6,10YR２/３黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径１～２cm 程度の礫混入
　炭化物粒少量混入
　瓦、土器等の遺物多量に出土
7,10YR５/３にぶい黄褐色シルト
　しまり中、粘性弱
　炭化物粒少量混入
　瓦等の遺物出土は極めて少ない
8,10YR４/６褐色シルト
　しまり弱、粘性無
　粗砂を主体として混入
　炭化物、遺物出土はない

SK1
SK1-1,10YR５/３にぶい黄褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径１～２cm 程度小礫混入
　炭化物粒少量混入
　瓦片出土
SK1-2,10YR３/２黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　木質炭化物、木皮等の
　有機物を多量に含む
　径 2cm 程度以下の小礫微量混入
　瓦、土器多量出土
SK1-3,10YR４/１褐灰色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物粒、小礫少量混入
　瓦片出土

第60図　明科廃寺試掘土層図

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和４年１月21日	３文第2409号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和４年１月28日	３教文第20-84号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年８月４日	４文第1295号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年８月22日	４教文第24-8号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第61図　明科廃寺試掘出土遺物１（土器類）

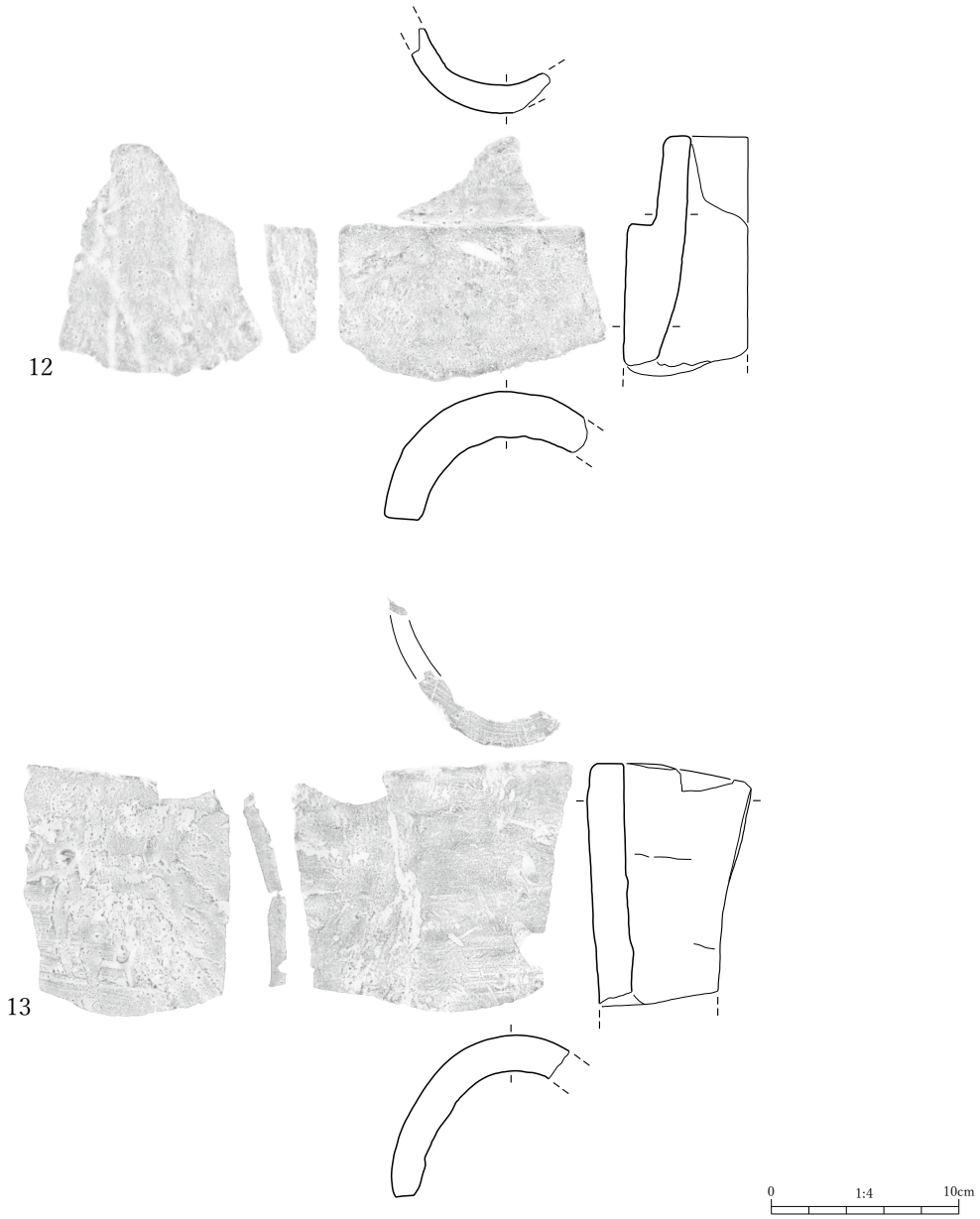
試掘で出土した遺物 17 点を資料化した。

１～３は、Ｂトレンチから出土した須恵器・土師器である。１は、須恵器坏蓋Ｂである。内外面ともに灰褐色で、胎土には長石などの砂粒を多く含む。外面の上部３分の１程度をケズリ調整する。口縁端部は断面三角形でほぼ垂直に立つ。２は、土師器高坏の脚部である。外面は暗灰黄褐色、内面は暗灰褐色（ほとんど黒色）で、胎土に多量の雲母を含む。外面は縦ミガキだが、摩滅のため単位は不明であった。古墳時代後期に比定できる。３は、須恵器甕の体部破片である。内面に同心円の当具痕はなく、ナデ調整を施す。

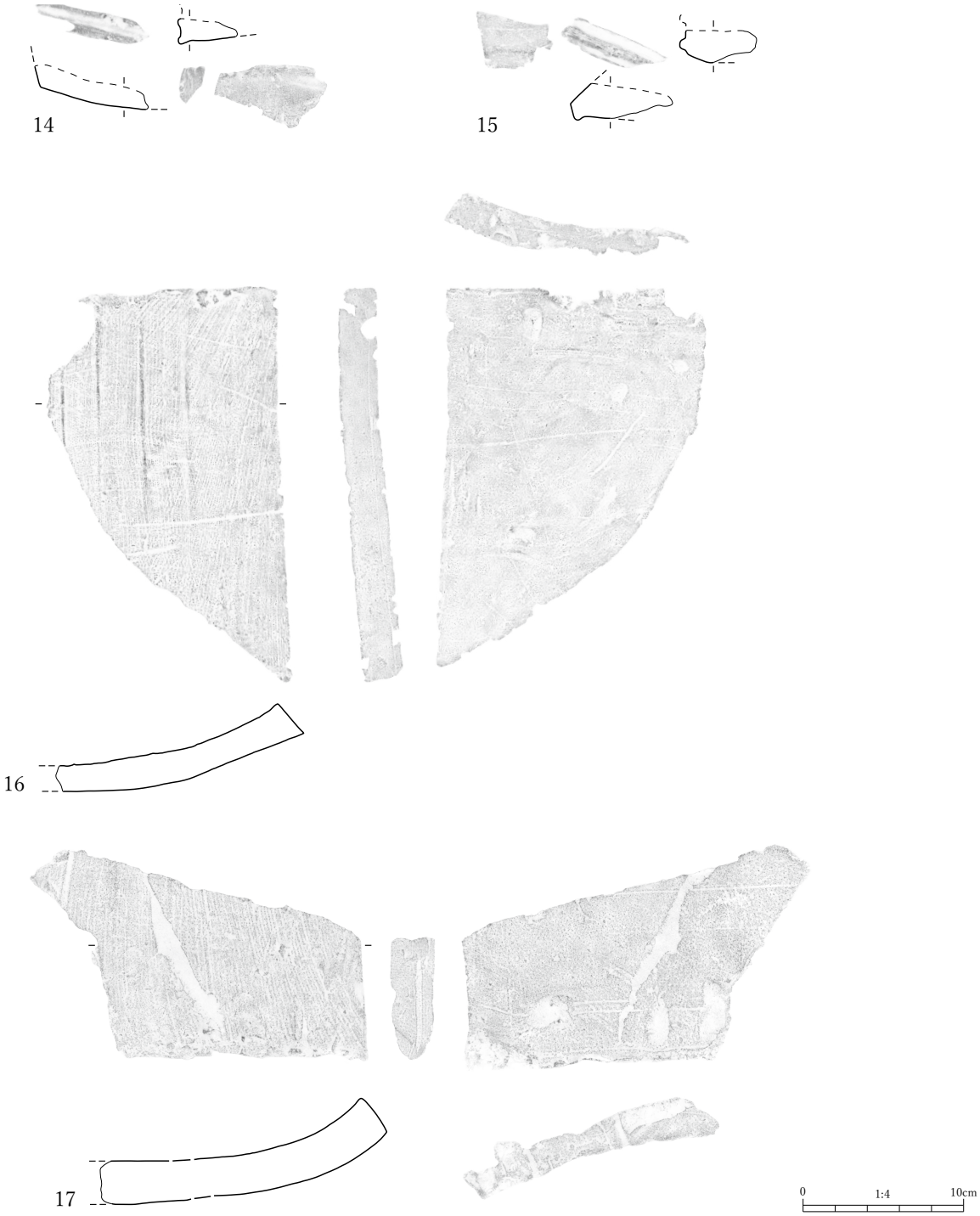
４～11 は、Ｃトレンチから出土した須恵器・灰釉陶器である。４～６は、須恵器坏蓋Ｂである。４は、内外面ともに灰茶褐色である。胎土は緻密で、石英・長石等の礫を多く含む。５は、外面が灰茶褐色、内面が灰褐色を呈し、胎土は緻密、長石などの白色鉱物を多く含む。６は、内外面ともに乳灰黄褐色で、胎土に赤色・白色鉱物を多く含む。７～８は、無台の須恵器坏Ａである。底部はヘラ切りで、内外面ともに灰褐色を呈する。８は底部破片で、切り離しは回転糸切りである。内外面とも灰褐色で、胎土に黒色礫、亜炭を含む。９は、有台の須恵器坏Ｂで、底部は回転ヘラ削りである。内外面とも灰褐色で、胎土に砂礫を多く含む。高台は一部を残し剥落している。10 は灰釉陶器皿の口縁部小破片である。外面は乳灰褐色（釉無し）、内面は乳灰褐色（自然釉あり）で、胎土は緻密である。11 は、須恵器甕の体部破片で、内面には当具痕が残る。内外面とも灰褐色で、石英・長石など少し大きめの礫を含む。

今回の試掘で出土した土器類のうち、底部ヘラ切りの須恵器坏Ａ（7）は、数量を減じながら松本盆地古代４期（以下、「●期」とする。）まで存在する。また、底部が回転糸切りの須恵器坏Ａ（8）は３期に出現し、次第に割合が増加する。須恵器坏Ｂは１期から存在する。また、これに対応する坏蓋Ｂは次第に上部のケズリ範囲が減少し、口縁端部が直立気味から「く」字状に変化する傾向がある。今回出土した坏蓋Ｂのうち１・４は、ケズリ範囲、口縁断面形態からみてやや古い様相と判断できる。以上の検討から、Ｂ・Ｃトレンチ出土土器類は、一部に古墳時代後期の土師器を含みつつ、２～４期のうちでも古い様相を呈するといえる。

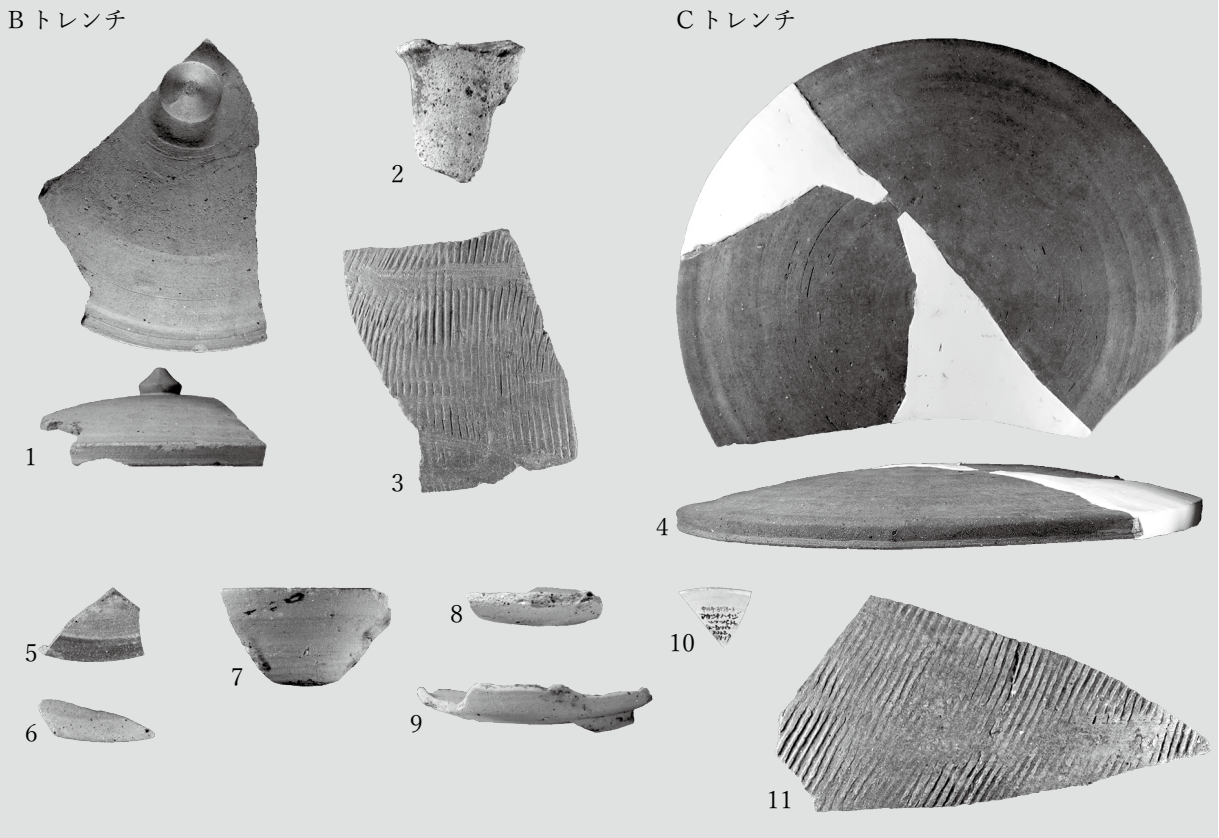
12～17 は、古代の瓦である。12 は、有段式の丸瓦で、狭端部端面がわずかに残る。成形は、粘土板を丸木の型に巻き付けており、凹面には布目が残る。胎土には砂礫が混入し、色調は灰色である。13 は、丸瓦の広端部である。成形は、粘土紐を型に巻き付けており、凹面はハケナデと指ナデで調整しており、布目痕は残らない。胎土には砂礫が混入し、色調は灰色である。14～15 は、重弧文軒平瓦である。14 は、瓦当面がわずかに残り、色調は灰白色で、胎土には砂粒が混入している。瓦当文様は、３重又は４重の重弧文と推定でき、凸面に瓦当面を作る肥厚粘土貼付けである。15 も、瓦当面がわずかに残る。色調は灰白色で、胎土には砂粒が混入している。瓦当文様は、３重又は４重の重弧文と推定できる。16 は、平瓦の狭端部である。成形は、粘土板を素材とした桶巻きづくりで、凹面には幅約 2.3cm の模骨痕、凸面にはヘラ状工具の線条痕、指紋が残る。17 は、平瓦の広端部である。成形は、粘土板を素材とした桶巻きづくりで、凹面には幅約 2.3cm の模骨痕、凸面にはヘラ状工具の線条痕、指紋が残る。胎土には、白色砂粒が多量に混入する。



第62図　明科廃寺試掘出土遺物２（丸瓦）



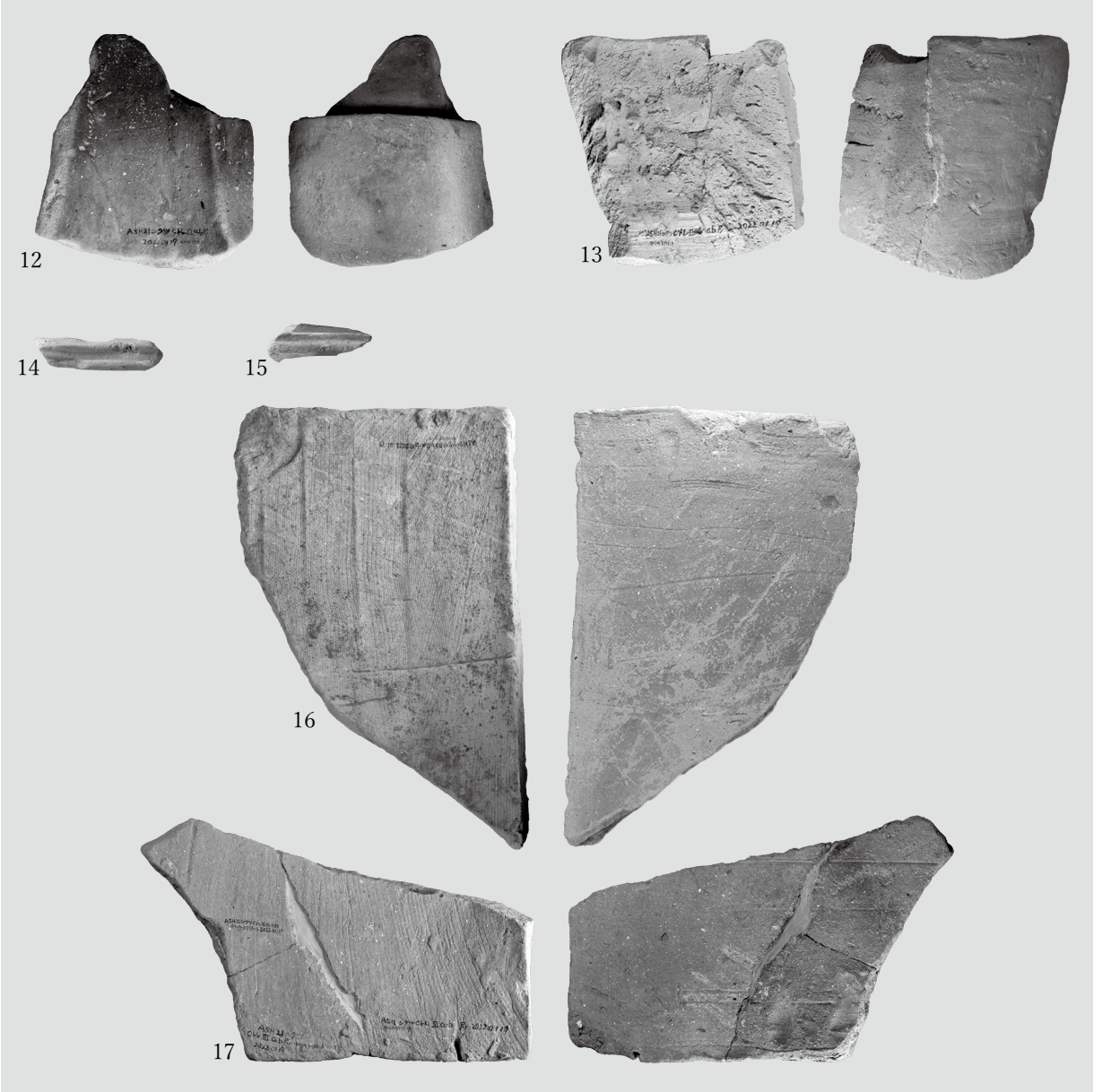
第63図　明科廃寺試掘出土遺物３（軒平瓦、平瓦）



第64図　明科廃寺試掘出土遺物写真１（土器類）

第8表　明科廃寺試掘出土遺物観察表１（土器類）

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径（cm）		底径（cm）		器高（cm）		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	Ｂトレンチ	第Ⅲｂ層	須恵器	坏蓋Ｂ	蓋部	19.4	復	—	—	4.4	完	ロクロナデ＋ヘラケズリ	ロクロナデ	—	
2	Ｂトレンチ	第Ⅲｂ層	土師器	高坏	脚部	不明	—	不明	—	4.7	残	縦ミガキ	絞り痕有	不明	古墳時代後期
3	Ｂトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	8.3	残	横ナデ＋タタキ	指ナデ＋布状工具による横ナデ	不明	内面に指頭圧痕あり
4	Ｃトレンチ	第Ⅲｂ・Ⅲa-b層	須恵器	坏蓋Ｂ	蓋部	20.2	実	—	—	2.3	残	ロクロナデ＋ヘラケズリ	ロクロナデ	—	
5	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	坏蓋Ｂ	蓋部	15.4	復	—	—	0.9	残	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ケズリ部残存せず
6	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	坏蓋Ｂ	蓋部	20.0	復	—	—	1.1	残	ロクロナデ	ロクロナデ	—	ケズリ部残存せず
7	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	坏Ａ	口縁部～底部	12.0	復	5.6	復	4.0	残	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	
8	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	坏Ａ	体部～底部	不明	—	6.8	復	1.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	亜炭を含む
9	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	坏Ｂ	体部～底部	不明	—	9.0	実	2.1	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ削り	高台貼付け痕あり
10	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	灰釉陶器	皿	口縁部～体部	13.8	復	不明	—	1.5	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
11	Ｃトレンチ	第Ⅲa-b層	須恵器	甕	体部	不明	—	不明	—	7.7	残	ナデ＋タタキ	当具痕	不明	



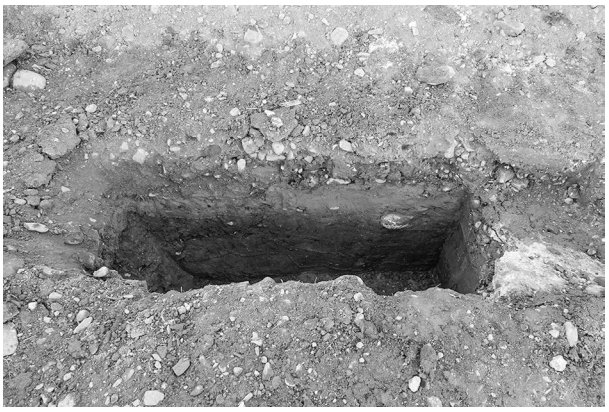
第65図　明科廃寺試掘出土遺物写真２（丸瓦、軒平瓦、平瓦）

第9表　明科廃寺試掘出土遺物観察表２（丸瓦、軒平瓦、平瓦）

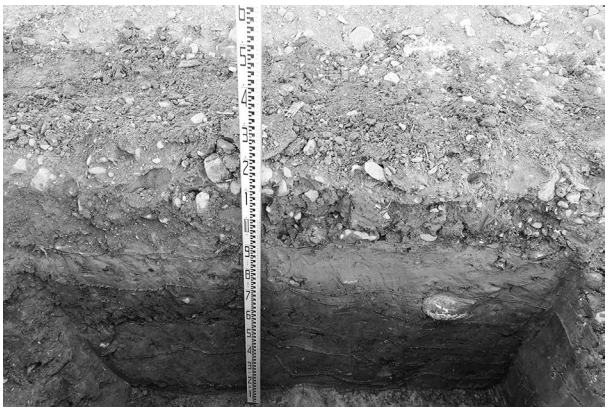
No.	遺構等	層位等	種別	長※ (cm)	広端部 (cm)		狭端部 (cm)		厚※ (cm)	重量※ (g)	焼成		成形	技法の特徴				
					幅※	高※	幅※	高※						凸面	凹面	側面	狭端面	広端面
12	Ｃトレンチ	第Ⅲ a-b 層	丸瓦（有段式）	12.3	不明	不明	4.7	4.5	2.5	406.0	酸化	やや不良（軟）	粘土板／丸木	ナデ	布目痕、縫目痕か	摩滅	摩滅	不明
13	Ｃトレンチ	第Ⅲ a-b 層	丸瓦	13.0	不明	不明	9.5	8.7	1.9	467.8	還元	良（硬）	粘土紐／丸木	ナデ（横位）	ハケナデ（横位・斜位）＋指ナデ（縦位）	ヘラキリ	ナデ	不明
14	Ｃトレンチ	第Ⅲ a-b 層	軒平瓦（重弧文）	4.2	7.0	4.0	不明	不明	1.5	32.8	還元	良（硬）	不明	ナデか	不明	摩滅	不明	ナデ
15	Ｃトレンチ	第Ⅲ a-b 層	軒平瓦（重弧文）	4.8	6.0	4.0	不明	不明	2.0	60.1	酸化	不良（弱）	不明	ナデか	不明	摩滅	不明	ナデ
16	Ｂトレンチ	第Ⅲ a-b 層	平瓦	25.3	15.4	3.8	不明	不明	2.4	983.0	還元	良（硬）	粘土板／桶巻	ヨコナデ	糸切り痕・布目痕、模骨痕（幅 2.3cm）	切鎌	ヘラキリ	不明
17	Ｃトレンチ	第Ⅲ a-b 層	平瓦	13.5	不明	不明	17.9	6.5	2.7	924.8	還元	良（硬）	粘土板／桶巻	ヨコナデ	糸切り痕・布目痕、模骨痕	切鎌	ナデ	不明

※ 法量は残存している部分を計測

1　調査地近景（南から）



2　Ｂトレンチ完掘（北から）



3　Ｂトレンチ南壁

4　Ｂトレンチ遺物出土状況

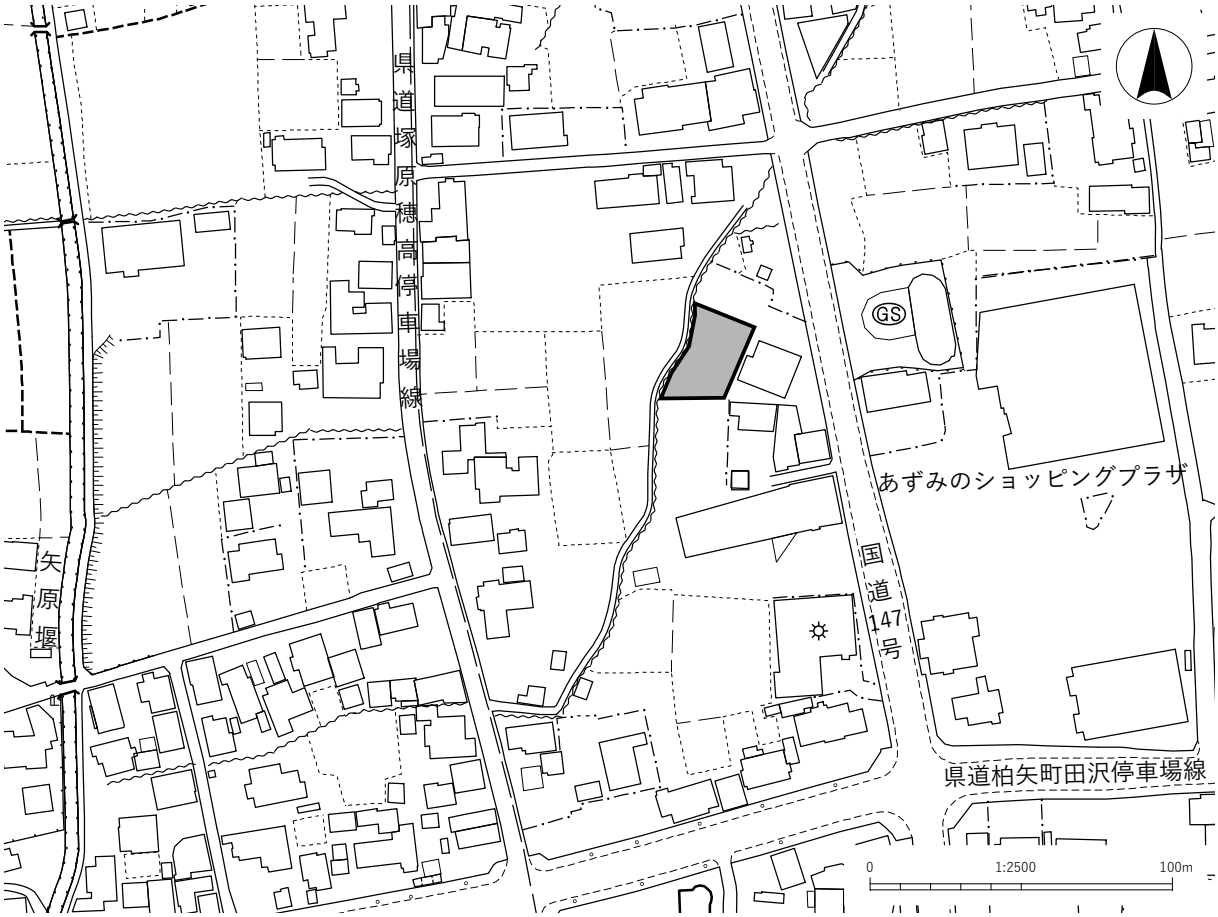
5　Ｃトレンチ完掘（北から）

6　Ｃトレンチ南壁

7　Ｂトレンチ出土遺物

8　Ｃトレンチ出土遺物

16　矢原五輪畑遺跡（第１表■ 139）



第66図　矢原五輪畑遺跡試掘位置図

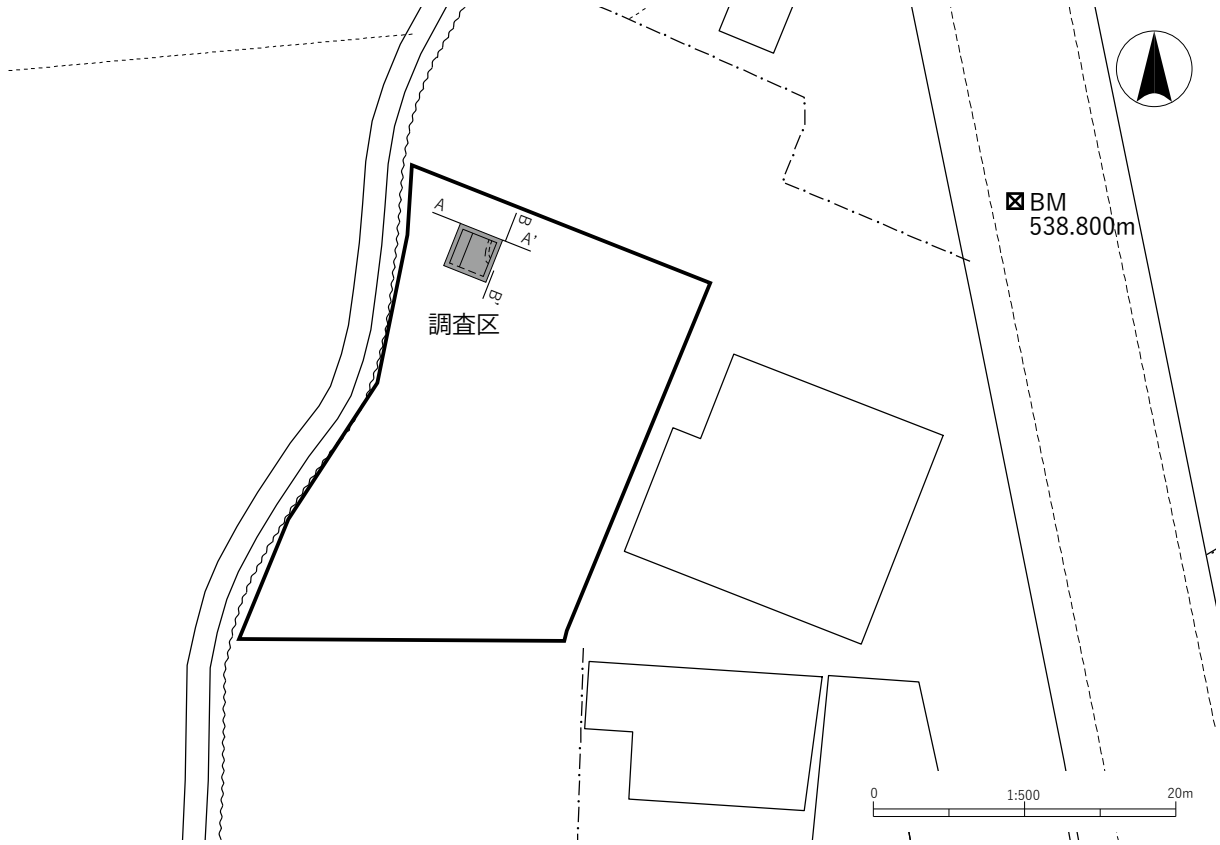
所在地	安曇野市穂高 984 番 5 外 1 筆	調査面積	9㎡
調査期間	令和 4 年（2022）1 月 26 日	調査契機	宅地造成（駐車場）
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

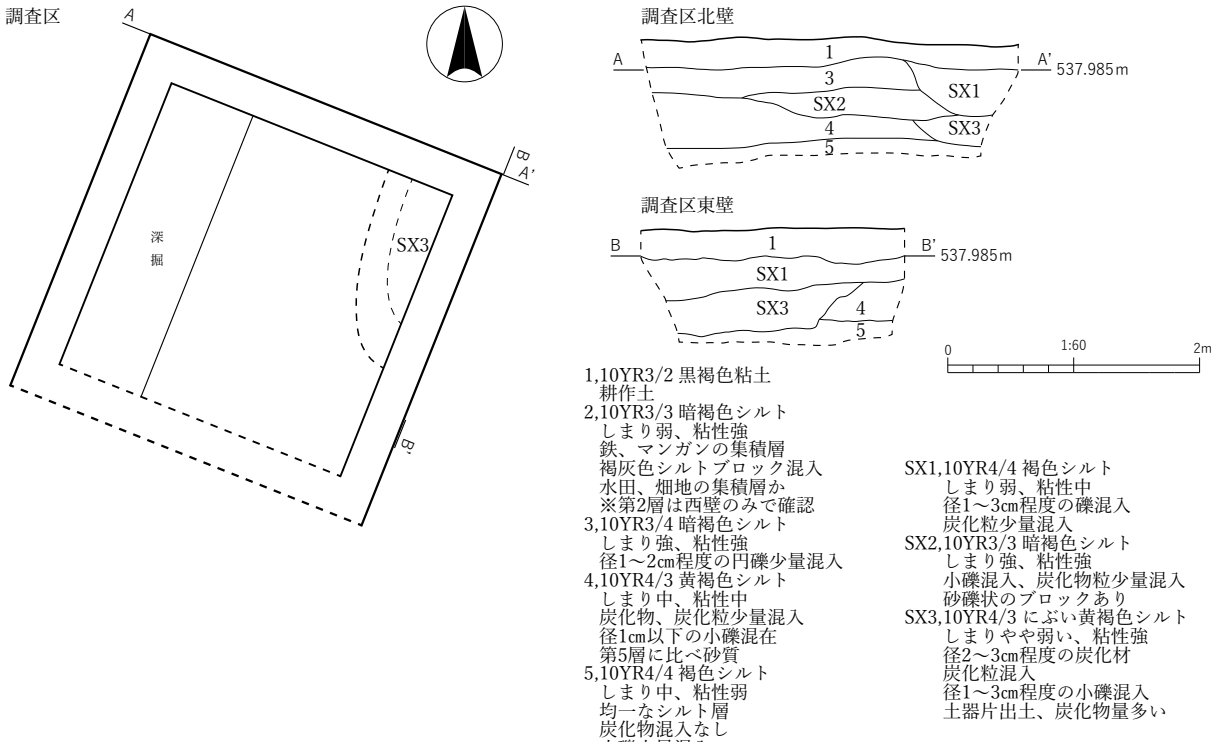
矢原五輪畑遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに１次の発掘調査（未報告）を実施しており、当該期の集落跡の様子が明らかになりつつある。

今回は駐車場造成に際し、浸透桝設置部分に調査区を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、調査区北東隅において性格不明遺構 SX1 ～ 3 を検出した。SX1 は植生による撹乱、SX2 は畦畔等の段差とみられる。SX3 からは、奈良・平安時代の須恵器・土師器破片が出土したため同時代の遺構と判断できるが、SX1 の覆土が SX3 上位に堆積しており平面形は検出できなかった。開発計画深度は 1.1m で、これ以深で基盤の砂礫層を確認した。

上記のとおり、浸透桝設置部分での調査は終了した。調査地周辺にも埋蔵文化財が存在する可能性が高いため、今後の開発事業には留意が必要である。



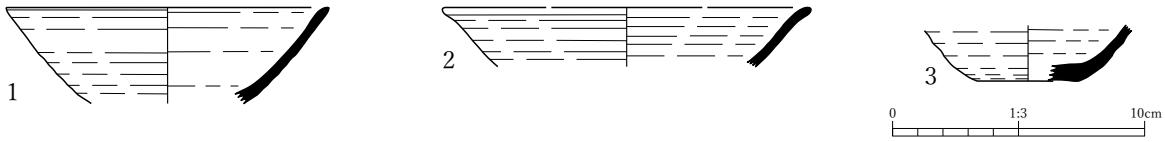
第67図　矢原五輪畑遺跡試掘調査区配置図



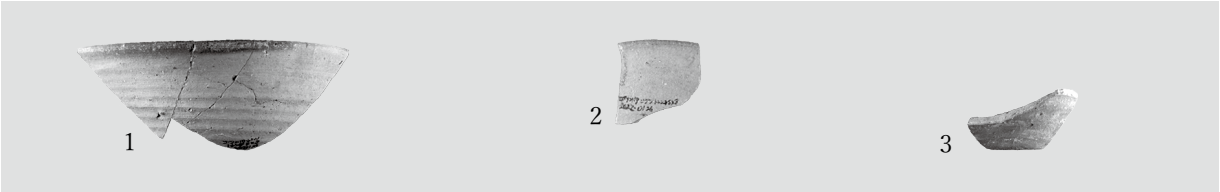
第68図　矢原五輪畑遺跡試掘概要図

(2) 遺物

	年月日	文書番号	内容
1	令和４年１月28日	３文第2449号	「埋蔵物発見届」を市教委教育長から安曇野警察署長あて、「埋蔵文化財保管証」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
2	令和４年２月８日	３教文第20-86号	「文化財の認定及び県帰属について（通知）」が県教委教育長から発出される。
3	令和４年９月30日	４文第1711号	「出土文化財譲与申請書」を市教委教育長から県教委教育長あて提出する。
4	令和４年10月７日	４教文第24-9号	「出土文化財の譲与について（通知）」が県教委教育長から発出され、譲与が承認される。



第69図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物



第70図　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物写真

第10表　矢原五輪畑遺跡試掘出土遺物観察表

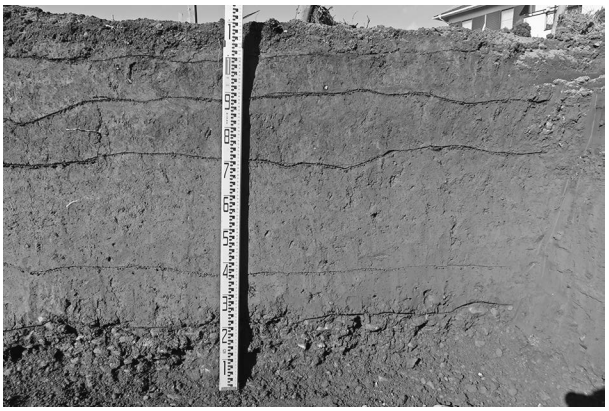
No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径(cm)		底径(cm)		器高(cm)		技法の特徴			備考
												外面	内面	底部	
1	SX3	第１層	須恵器	坏Ａ	口縁部～体部	12.8	復	不明	―	3.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	外面灰黄褐色、内面灰黄褐色、口縁部灰褐色、胎土茶、白色の大き目の礫含む、石英などの小さな礫多く含む
2	SX3	第１層	須恵器	坏Ａ	口縁部～体部	14.6	復	不明	―	2.3	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	内外面ともに灰褐色、胎土長石などの細かい白い礫多く含む
3	SX3	第１層	須恵器	坏Ａ	体部～底部	不明	―	4.0	復	2.2	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面ともに灰褐色、胎土白い細かい礫含む

試掘で出土した遺物３点を資料化した。

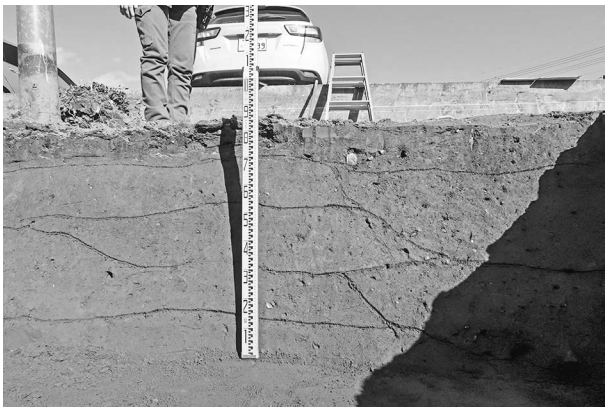
１～３は、性格不明遺構SX3から出土した須恵器坏Ａである。１～２は、須恵器坏Ａの口縁部～体部破片で、底部は欠損する。いずれも胎土に長石が目立つ。１は、弱く内弯気味に口縁部が立ち上がる器形であるのに対し、２は口縁端部で外反する。３は、須恵器坏Ａの底部で、底部切り離しは回転糸切りである。

1　調査地近景（北から）

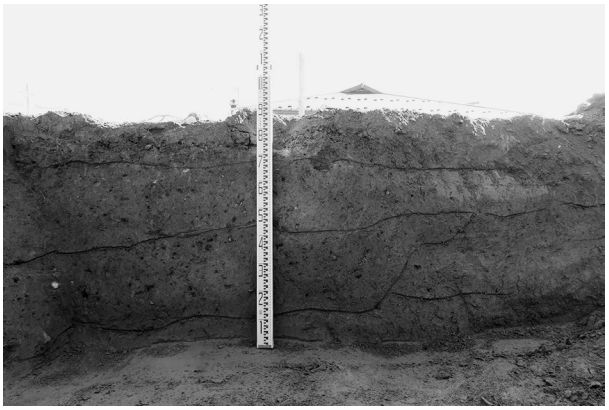
2　調査地近景（南から）



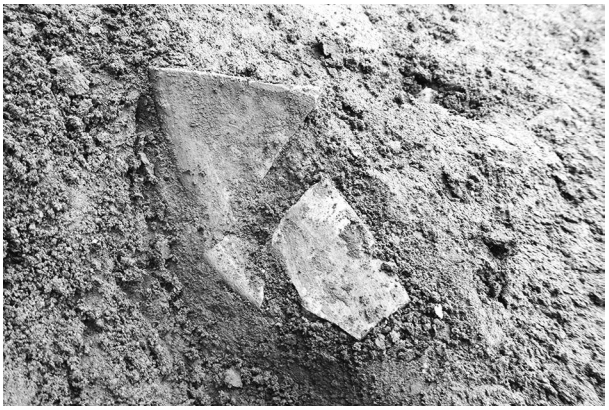
3　調査区西壁



4　調査区北壁



5　調査区東壁

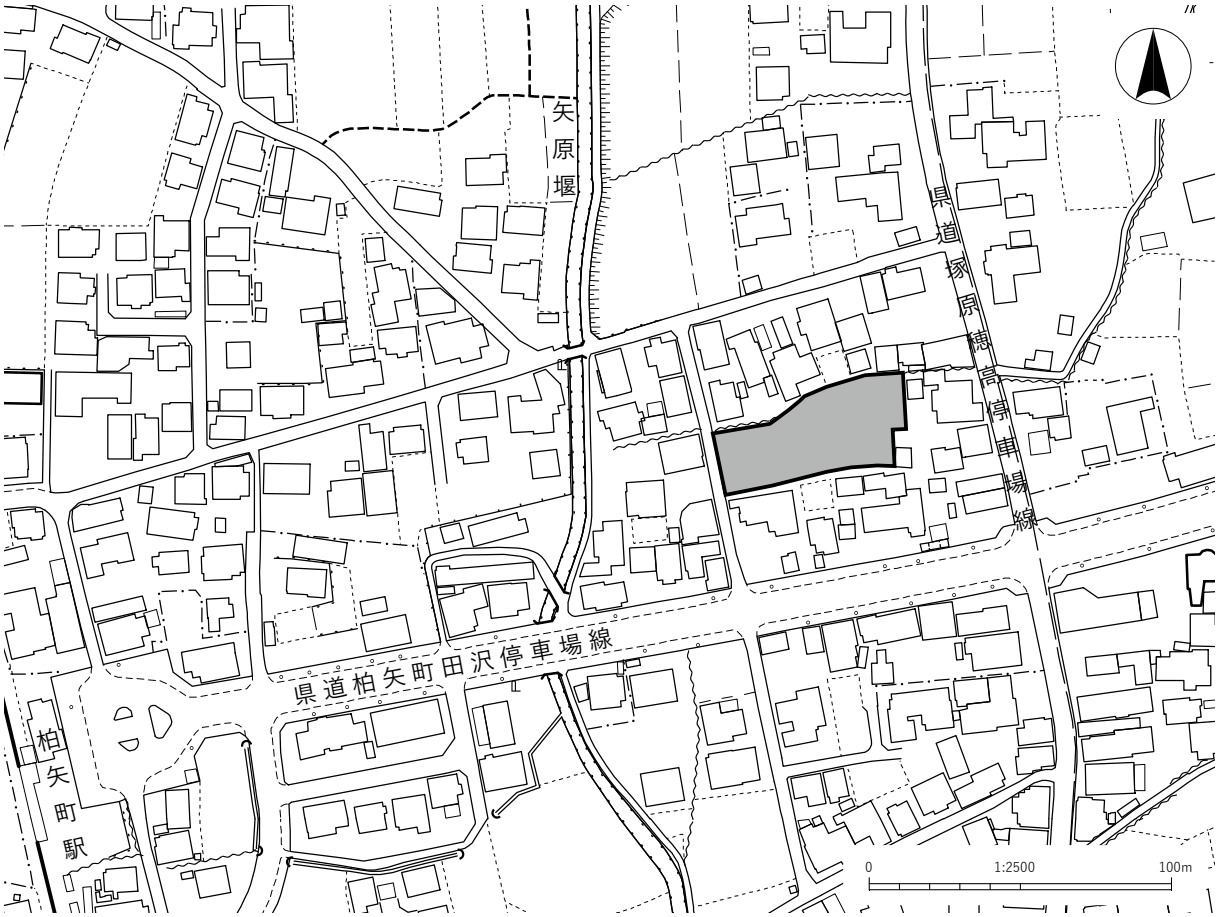


6　遺物出土状況

7　調査区完掘（南から）

8　出土遺物

17　馬場街道遺跡（第１表■147・●144）



第71図　馬場街道遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原 907 番４外４筆	調査面積	8㎡
調査期間	令和４年（2022）２月７日	調査契機	宅地造成
調査参加者	斉藤雄太、土屋和章、臼居直之、田多井智恵、望月裕子		

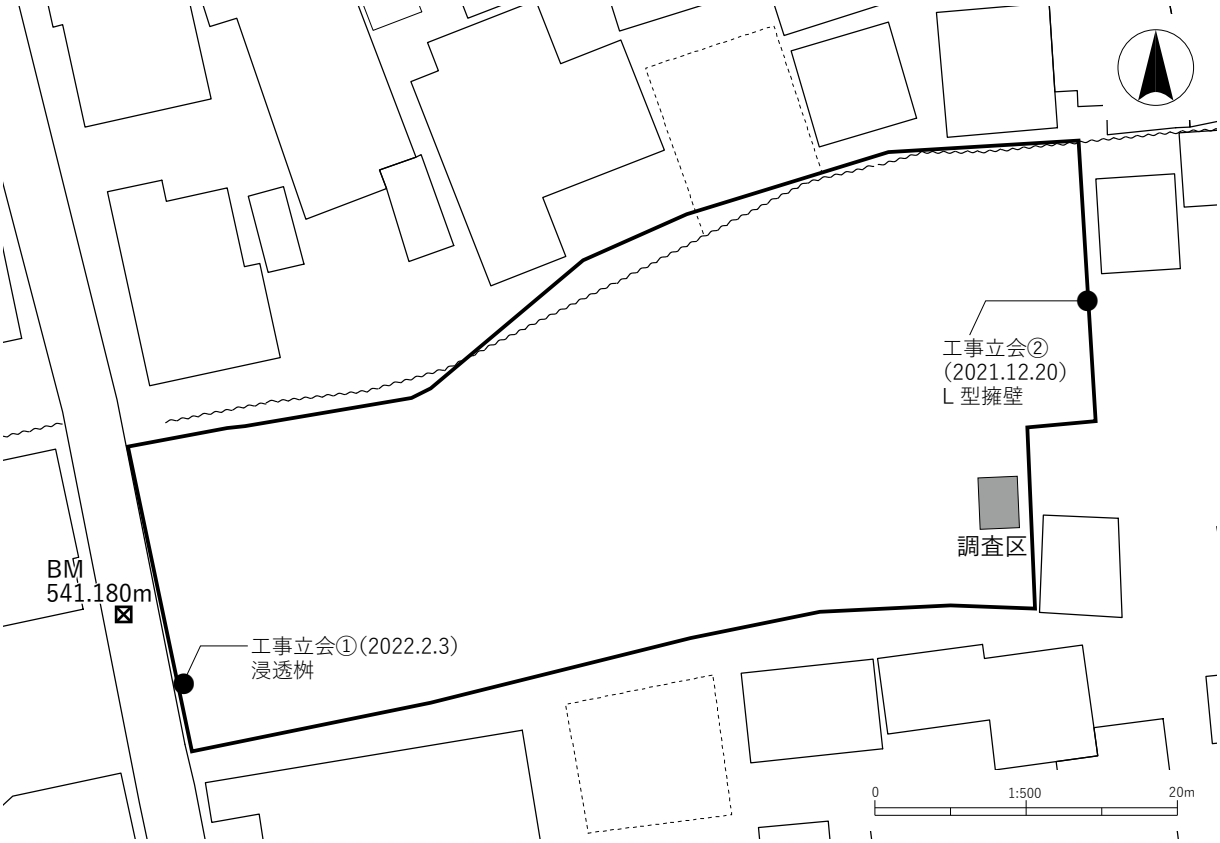
(1) 概要

馬場街道遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに１次の発掘調査を実施しており、当該期の遺構等が確認されている（穂高町教委 1987）。

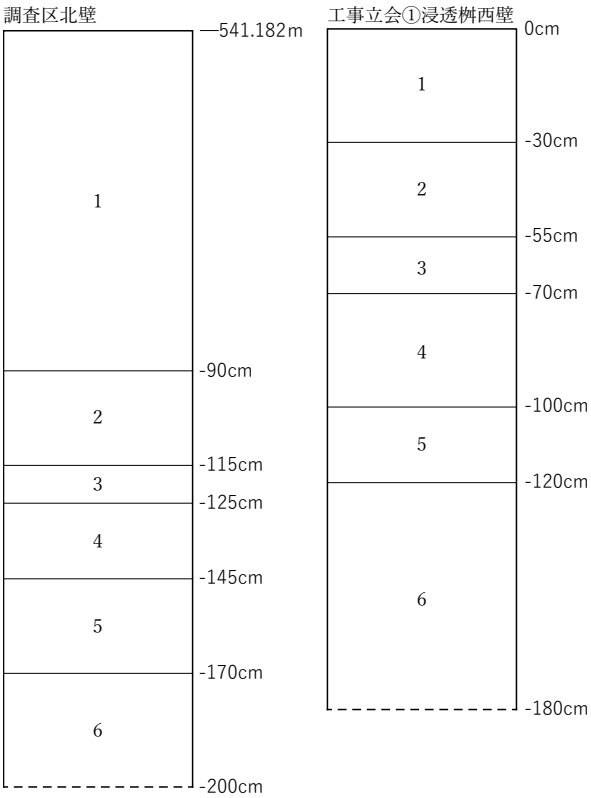
今回は宅地造成に際し、浸透桝設置部分に調査区を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、表土の下位に炭化物を少量含む粘土（第２～３層）、さらに下位に炭化物を少量含むシルト（第４層）、砂礫が混在するシルト（第５層）が堆積している。第３層から摩耗した土師器小片が出土したが、遺構は存在していなかった。

上記の結果から、本件工事に際し本発掘調査は不要と判断した。

また、施工地で工事の進捗に合わせて工事立会を実施した。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外である西側浸透桝は、深度1.8mの掘削で1.2mまでシルトの堆積があったが、遺構・遺物は存在していなかった。



第72図　馬場街道遺跡試掘調査区配置図



調査区北壁
1,表土、造成土
2,10YR2/2黒褐色粘土
　しまり強、粘性強
　炭化物を少量含む
3,10YR3/3暗褐色粘土
　しまり強、粘性強
　径1～2㎝程度の円礫
　を少量含む
　炭化物を少量含む
　時期不明の摩耗土器小片あり
4,10YR5/3にぶい黄褐色シルト
　しまり中、粘性中
　鉄、マンガンの集積層
　炭化物、炭化粒少量混入
　径1㎝程度の礫、粗砂を含む
　土器片粒子を含む
5,10YR2/3黒褐色シルト
　砂礫とシルト混在層
6,砂礫層
　大小の円礫、粗砂

工事立会①
1,表土、造成土
2,10YR2/3黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　植物根を含む
3,10YR2/3黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物を少量含む
　下部に鉄分の集積あり
4,10YR3/4暗褐色粘土
　しまり中、粘性中
　鉄分の粒子を含む
　下部に炭化物を少量含む
　径5㎝までの礫を多く含むが、
　下部ほど少なくなる
5,10YR2/3黒褐色粘土
　しまり中、粘性中
　径2㎝程度の礫を含む
6,10YR4/3にぶい黄褐色砂礫
　しまり中、粘性弱
　径10㎝以下の角礫主体

工事立会②
1,表土、耕作土
2,10YR3/2黒褐色シルト
　しまり中、粘性中
　炭化物を少量含む
　下部に鉄、マンガンの集積あり

第73図　馬場街道遺跡試掘土層概念図

1　調査区遠景（西から）

2　調査区近景（北から）

3　調査区完掘（南から）

4　調査区北壁

5　工事立会①近景（南から）

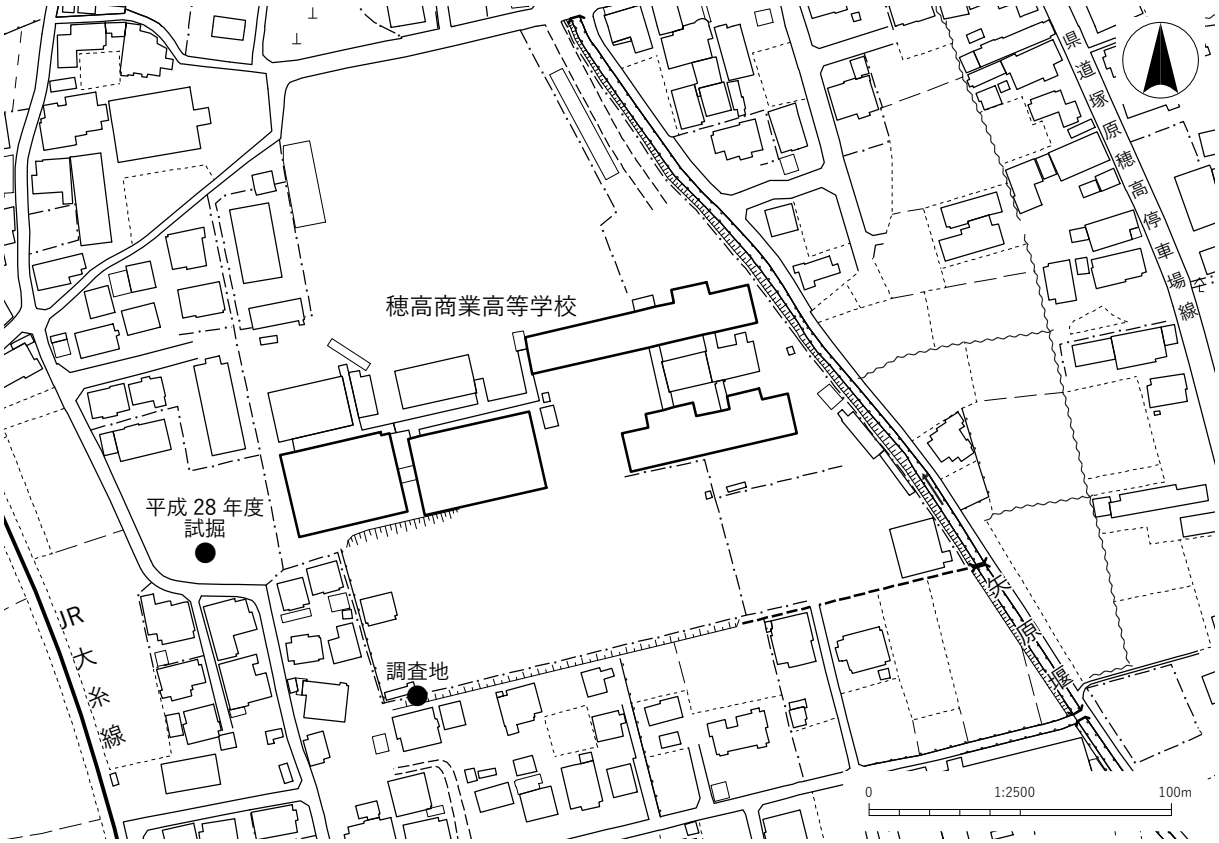
6　工事立会①西壁

7　工事立会②近景（北から）

8　工事立会②東壁

第３章　工事立会

１　藤塚遺跡（第１表● 116）



第74図　藤塚遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市穂高 6839 番	調査契機	擁壁改修
調査期間	令和３年（2021）12 月３日	調査担当者	斉藤雄太

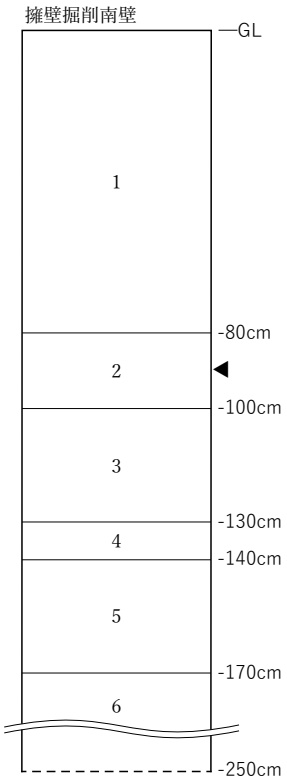
(1) 概要

藤塚（ふじつか）遺跡は、烏川（からすがわ）扇状地扇央に所在する古墳時代及び平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに２次の発掘調査を実施し、古墳時代及び奈良・平安時代の集落跡を確認している（穂高町誌編纂委 1991、安曇野市教委 2009）。

本件工事での工事立会は、穂高商業高等学校の擁壁改修工事に伴い実施した。工事立会では、掘削に際し土層を観察し、第 75 図のとおりの所見を得た。造成土（第１層）の下位にシルト（第２～５層）が存在し、第２層から弥生時代中期と見られる土器片が２点出土したが、遺構は存在していなかった。

上記の結果から、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えていないと判断した。

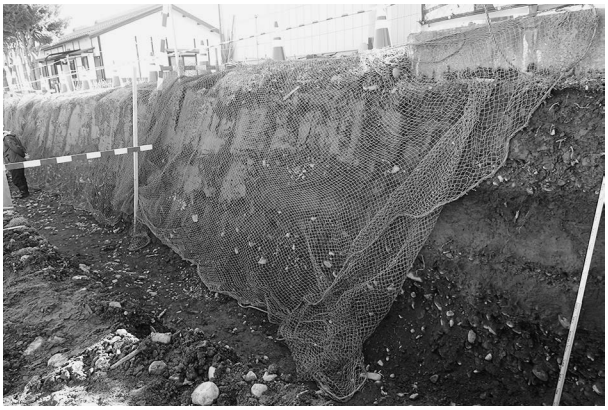
なお、平成 28 年度に調査地の北西約 90m で実施した試掘調査では、地表下 60cm 付近で弥生時代中期の遺物包含層を確認している（安曇野市教委 2018）。



1,表土、造成土
2,10YR2/3黒褐色シルト
　しまり強、粘性強
　植物根を含む
　土器片(弥生時代中期)出土
3,10YR3/4暗褐色シルト
　しまり中、粘性強
　ほぼ均質
　径1cm程度の角礫をごく少量含む
4,10YR3/3暗褐色砂質シルト
　しまり中、粘性中
　径10cmまでの亜円礫を多量に含む
5,10YR4/4褐色シルト
　しまり中、粘性強
　ほぼ均質
6,砂礫

※◀は遺物確認位置

第75図　藤塚遺跡工事立会土層概念図



1　工事立会掘削（北西から）

2　掘削南壁

3　出土遺物

引用・参考文献（五十音順）

明科町教育委員会　1991 『ほうろく屋敷遺跡―川西地区県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査報告書―』明科町の埋蔵文化財第 3 集　明科町教育委員会

明科町教育委員会　2000 『明科廃寺址―個人住宅建替えに伴う緊急発掘調査報告書―』明科町の埋蔵文化財第 7 集　明科町教育委員会

安曇野市教育委員会　2009 『三枚橋・藤塚遺跡―穂高交流学習センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第 2 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2014 『平成 24 年度安曇野市埋蔵文化財発掘調査報告書―明科遺跡群栄町遺跡（第 4 次）―』第 7 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2017 『明科遺跡群明科廃寺 4―個人住宅建設に伴う第 4 次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第 12 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2018 『平成 28 年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第 15 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2019a 『ほうろく屋敷遺跡 5―個人住宅建設に伴う第 5 次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第 16 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2019b 『平成 29 年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書』安曇野市の埋蔵文化財第 17 集　安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会　2020 『三枚橋遺跡 3―店舗建設に伴う第 3 次発掘調査報告書―』安曇野市の埋蔵文化財第 21 集　安曇野市教育委員会

小平和夫　1990 「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 4―松本市内その 1―総論編』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 4　長野県埋蔵文化財センター　pp.97-158

穂高町誌編纂委員会　1991 『穂高町誌』第 2 巻（歴史編上・民俗編）　穂高町誌刊行会

穂高町教育委員会　1987 『古墳時代～中世を主とした複合遺跡　矢原遺跡群（馬場街道遺跡）―県道柏矢町～田沢停線拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告―』　穂高町教育委員会ほか

松本市教育委員会　2017 『長野県松本市　三間沢川左岸遺跡―発掘調査報告書―』松本市文化財調査報告 No.226　松本市教育委員会

三郷村誌編纂委員会編　2006 『三郷村誌Ⅱ』第 4 巻・村落誌編　三郷村誌刊行会

調査報告書抄録

ふりがな	れいわ3ねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	令和3年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財
シリーズ番号	第28集
編著者名	斉藤雄太、土屋和章、堀久士
編集機関	安曇野市教育委員会
所在地	〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地　　TEL 0263-71-2000
発行年月日	西暦2023年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
まままべはばしたいせき 真々部巾下遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしなたきべ 豊科高家5455番外8筆	20220	1-18	36° 15′ 25″	137° 55′ 02″	20210511 ～ 20210511	40	工場
こせはばいせき 小瀬幅遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 とよしなたざわ] 豊科田沢4821番1	20220	1-20	36° 18′ 27″	137° 56′ 12″	20210525 ～ 20210525	11	宅地造成
あかしないせきぐん 明科遺跡群 さかえちょういせき 栄町遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3733番8 外37筆	20220	5-411	36° 21′ 21″	137° 55′ 53″	20210621 ～ 20210621	18	店舗
おっぽりいせき 追堀遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかかしわばら 穂高 柏 原1645番1外1筆	20220	2-45	36° 19′ 44″	137° 55′ 13″	20210629 ～ 20210629	35	宅地造成
きたさい　かみいせき 北才の神遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高6714番1外3筆	20220	2-37	36° 20′ 05″	137° 53′ 19″	20210715 ～ 20210715	30	宅地造成
ほたかこふんぐん 穂高古墳群 ごうふん B27号墳	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたかありあけ 穂高有明2186番81	20220	2-B27	36° 21′ 44″	137° 50′ 01″	20210611 ～ 20210727	12	保存目的
あかしないせきぐん 明科遺跡群 さかえちょういせき 栄町遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手3934番1 外4筆	20220	5-411	36° 21′ 22″	137° 55′ 39″	20210804 ～ 20210804	18	道路
あかしないせきぐん 明科遺跡群 わごういせき 上郷遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 あかしななかがわて 明科中川手4064番1 外21筆	20220	5-407	36° 21′ 17″	137° 55′ 57″	20210819 ～ 20210819	6	崩壊土砂 防止柵
ふじつかいせき 藤塚遺跡	ながのけんあづみのし 長野県安曇野市 ほたか 穂高2390番3の内外33筆	20220	2-38	36° 20′ 06″	137° 55′ 53″	20210909 ～ 20210910	31	店舗

ほうろく屋敷遺跡	長野県安曇野市明科 南 陸郷 3326 番 1	20220	5-101	36°24′05″	137°55′42″	20210910～20210910	8	索道基礎
明科遺跡群栄　町 遺跡	長野県安曇野市明科中川手 4111 番 1 外 4 筆	20220	5-411	36°21′25″	137°55′59″	20210922～20210922	3	太陽光発電施設
三枚橋遺跡	長野県安曇野市穂高 1451 番 8 外 1 筆	20220	2-47	36°19′43″	137°53′30″	20211011～20211011	12	工場ほか
矢原五輪畑遺跡	長野県安曇野市穂高 985 番 1 外 3 筆	20220	2-48	36°19′28″	137°53′34″	20211116～20211116	12	カーポート
一日市場郵便局　南 遺跡	長野県安曇野市三郷明盛 1666 番 1 外 8 筆	20220	3-21	36°15′27″	137°53′56″	20220113～20220113	9	宅地造成
明科遺跡群明科廃寺	長野県安曇野市明科中川手 3773 番 3	20220	5-409	36°21′12″	137°55′42″	20220119～20220119	5	道路、個人住宅
矢原五輪畑遺跡	長野県安曇野市穂高 984 番 5 外 1 筆	20220	2-48	36°19′31″	137°53′33″	20220126～20220126	9	宅地造成(駐車場)
馬場街道遺跡	長野県安曇野市穂高 柏 原 907 番 4 外 4 筆	20220	2-53	36°19′26″	137°53′29″	20220207～20220207	8	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
真々部巾下遺跡	散布地	平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
小瀬幅遺跡	散布地	弥生時代 平安時代	竪穴建物跡？ 1、ピット	土師器、須恵器	深度 50cm 付近で竪穴建物跡の可能性のある遺構輪郭を確認。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
追堀遺跡	集落跡	平安時代	遺物包含層	土師器、須恵器、黒色土器	「道」の墨書土器が出土。
北才の神遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	ピット（時期不明）	弥生土器、土師器	深度 60cm 以深で、土器小破片が出土。
穂高古墳群 B27 号墳	古墳	古墳時代	円墳	なし	墳丘の東半分を調査し、墳丘の規模及び構築手順を確認。

明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	ピット（時期不明）	土師器、砥石	全体的に近代以降の撹乱の影響が大きい。
明科遺跡群 上郷遺跡	散布地	縄文時代 古墳時代 ～平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
藤塚遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	なし	土師器小破片	調査範囲・深度では明確な埋蔵文化財が存在しない。
ほうろく屋敷 遺跡	集落跡	縄文時代 ～中世	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
明科遺跡群 栄町遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。
三枚橋遺跡	集落跡	弥生時代 ～中世	なし	土師器	深度 60cm 付近から古墳時代中～後期の土師器小破片が出土。
矢原五輪畑遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	なし	土師器	深度 80cm 以深から土師器小破片が出土。
一日市場郵便局 南遺跡	散布地	縄文時代	なし	なし	調査地内東で、天保の火災によると考えられる痕跡を確認。
明科遺跡群 明科廃寺	社寺跡	古墳時代 ～平安時代	なし	土師器、須恵器、 古代の瓦	深度 60cm 以深で古代の遺物包含層を確認。
矢原五輪畑遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	性格不明遺構	須恵器	深度 50cm 付近で竪穴建物跡の可能性のある遺構を確認。
馬場街道遺跡	集落跡	古墳時代 ～平安時代	なし	なし	調査範囲・深度では埋蔵文化財が存在しない。

要約	令和 3 年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘・工事立会の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全 173 件で、このうち 171 件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査 0 件、試掘 17 件、工事立会 119 件、慎重工事 35 件である。 試掘調査の成果は、全 17 件を掲載した。追堀遺跡では、平安時代の遺物包含層から「道」と書かれた墨書土器が出土した。また、明科遺跡群明科廃寺では、地表下 60cm 以深に古代の遺物包含層が残存しており、土師器・須恵器と共に古代の瓦が多量に出土した。穂高古墳群 B27 号墳では、保存目的の調査を実施した。墳丘の東半分でトレンチ調査を実施し、墳丘の規模や構築手順を確認することができた。 この他、遺物が出土した工事立会の成果を 1 件掲載した。藤塚遺跡では、穂高商業高等学校の擁壁改修に際し掘削断面から弥生中期と考えられる土器小破片が出土した。

安曇野市の埋蔵文化財第 28 集
令和 3 年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

発行　令和 5 年（2023）3 月 31 日
安曇野市教育委員会
〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地
電話0263-71-2000
編集　安曇野市教育委員会
印刷　有限会社アルプス印刷